

沖縄市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 報告書

沖 縄 市
令和5年3月

目 次

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 報告書の見方	1

II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1. 回答者の基本属性等	3
(1) 性別・年齢	3
(2) 家族構成	4
(3) 暮らしの状況（経済的視点）	5
(4) 住まい	6
(5) 介護の状況	6
2. 体を動かすことについて	8
(1) 運動器の機能低下者（リスク者）	8
(2) 転倒リスク者（リスク者）	9
(3) 閉じこもり傾向（リスク者）	11
(4) 外出の状況	12
3. 食えることについて	16
(1) 低栄養の傾向（リスク者）	16
(2) 口腔機能低下	17
(3) 歯の健康	20
(4) 孤食の状況	23
4. 毎日の生活について	24
(1) 認知機能の低下者（リスク者）	24
(2) IADLの低下者（リスク者）	26
(3) 知的能動性の低下者（リスク者）	27
(4) 社会的役割の低下者（リスク者）	28
(5) 趣味や生きがい	29
5. 地域での活動について	30
(1) 社会参加	30
(2) 地域づくりへの参加意向	35
6. たすけあいについて	39
(1) たすけあいの状況	39

(2)友人、知人との交流.....	43
7. 健康について.....	45
(1)主観的健康感.....	45
(2)主観的幸福感.....	46
(3)人とふれあう機会・頻度.....	46
(4)孤独感の有無.....	47
(5)うつ傾向（リスク者）.....	48
(6)喫煙、飲酒の状況.....	49
(7)疾病の状況.....	51
(8)病院の受診.....	54
(9)耳の聞こえ.....	56
8. 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	57
9. 必要な支援・情報について.....	58
(1)支援を必要と感じるサービス.....	58
(2)介護予防の教室や地域活動の情報の取得.....	59
(3)介護保険料とサービスの関係についての考え方.....	60
10. その他.....	61
(1)健康づくりや介護予防で支援を望むこと.....	61
(2)介護が必要になった場合に生活したい場所.....	61
(3)最期の迎え方について.....	62
(4)携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等について.....	63
(5)新型コロナウイルス禍による影響について.....	64
(6)介護・介助が必要になった原因疾患.....	64
(7)就労、外出の状況.....	66
(8)地域活動への参加.....	66
(9)リスク者割合の比較.....	67
(10)介護保険料とサービスの関係についての考え方.....	67

Ⅲ. 詳細分析

1. 世帯構成別リスク者等の状況.....	69
(1)全体的な状況.....	69
(2)買い物の状況.....	70
(3)転倒について.....	71
(4)地域活動への参加.....	71
(5)リスク者割合の比較.....	72
2. 歯の健康状況別リスク者の状況.....	73
(1)リスク者割合の比較.....	73

3. 社会参加別リスク者の状況.....	74
(1) リスク者割合の比較.....	74
4. 幸福度、主観的健康感、生きがいの有無別リスク者の状況.....	74
(1) 主観的幸福度別リスク者割合の比較.....	74
(2) 主観的健康感別リスク者割合の比較.....	75
(3) 生きがいの有無別リスク者割合の比較.....	75
5. 孤独・孤食の状況別リスク者の状況.....	76
(1) 孤独感のリスク者割合の比較.....	76
(2) 孤食のリスク者割合の比較.....	76
6. BMI別リスク者の状況.....	77
(1) リスク者割合の比較.....	77
7. 喫煙・飲酒の有無別リスク者の状況.....	77
(1) 喫煙の有無別リスク者割合の比較.....	77
(2) 飲酒の有無別リスク者割合の比較.....	78
8. 暮らしの状況(経済的)別リスク者等の状況.....	78
(1) リスク者割合の比較.....	78

IV. 分析のまとめ

まとめ1. 身体機能リスク全般について.....	79
まとめ2. 「一人暮らし」と「配偶者以外と2人暮らし」について.....	79
まとめ3. 主観的幸福感、主観的健康感、孤独感、生きがい.....	80
まとめ4. 歯の健康.....	81
まとめ5. BMI.....	81
まとめ6. 経済的負担感を抱える人.....	82
まとめ7. 社会参加.....	82
まとめ8. 最期の迎え方(終活).....	83
まとめ9. 携帯電話.....	83
まとめ10. 新型コロナウイルス感染症の影響.....	84

V. 自由回答のまとめ

1. 自由回答の概要.....	85
2. 市民から寄せられた声の分類・集計.....	85

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

1. 調査の目的

老人福祉法第 20 条の 8 の規定等に基づく高齢者福祉計画を策定する上で、高齢者の生活状況や活動状況などの必要な基礎資料を得るとともに、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態を把握することを目的としています。

2. 調査の概要

調査実施期間：令和 4 年 12 月 6 日～令和 5 年 1 月 20 日

調査方法：郵送による配布・回収

＊令和 4 年 12 月 16 日に礼状兼督促状を郵送。

調査対象者：市内在住の 65 歳以上の高齢者（要介護 1～5 の認定者以外）

回収状況：配布数：4,340 件 回収数：2,541 件（回収率：58.5%）

調査内容：厚労省より示された日常生活圏域ニーズ調査設問項目をベースに独自項目を追加して作成

3. 報告書の見方

- 図表中の「n 数(number of case)」は集計対象者総数あるいは回答限定者設問の限定条件に該当する人数を示しています。
- グラフ中の「%」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問(1 つだけに○をつけるもの)であっても合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、文字数が多い場合は要約して記載する場合があります。
- クロス集計の場合、表側の項目に無回答があった場合、無回答を省くため、合計しても 100%にならない場合があります。

Ⅱ. 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果

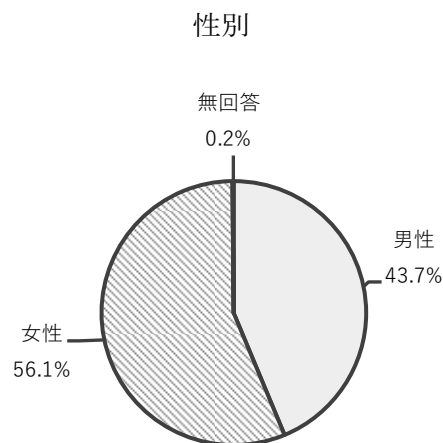
1. 回答者の基本属性等

(1) 性別・年齢

調査対象者の性別は、「男性」が43.7%、「女性」が56.1%で、女性の方が多くなっています。

年齢は、「65～69歳」が26.2%、「70～74歳」が28.3%で、これらを合わせた前期高齢者(65歳以上75歳未満)の占める割合が54.5%、後期高齢者(75歳以上)の占める割合が45.4%となっています。

日常生活圏域別にみると、後期高齢者の割合は、「東部北」(38.8%)、「東部南」(37.0%)が4割以下である一方、「中部北」(50.7%)、「中部南」(50.9%)は半数を超えているなど、地域性がみられます。



n=2,541

年齢 単位：%

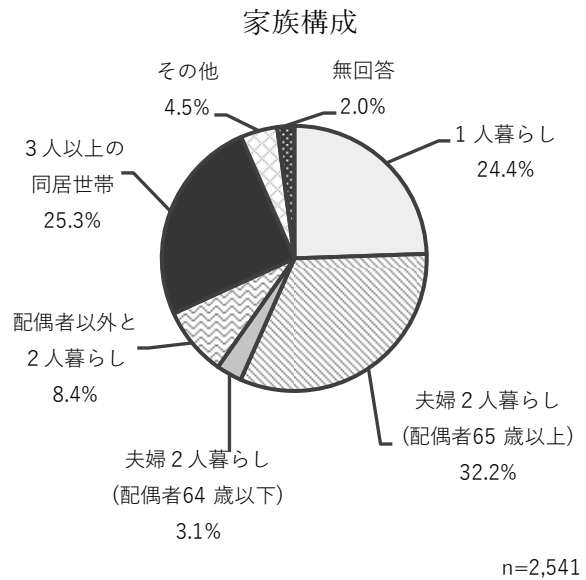
		合計 (人)	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	後期高齢者
全体		2,541	26.2	28.3	18.2	14.6	12.6	0.2	45.4
日常生活圏域	北部	385	29.4	29.1	17.1	14.3	10.1	0.0	41.5
	中部北	357	24.6	24.6	19.9	18.2	12.6	0.0	50.7
	中部南	324	20.7	28.4	18.5	16.7	15.7	0.0	50.9
	東部北	368	30.4	30.7	17.1	13.0	8.7	0.0	38.8
	東部南	381	31.0	32.0	18.9	10.0	8.1	0.0	37.0
	西部北	341	23.8	24.6	17.9	15.0	18.8	0.0	51.7
	西部南	381	23.1	28.1	18.4	15.5	15.0	0.0	48.9
要介護度	一般高齢者	2,341	27.9	29.7	18.4	13.8	10.3	0.0	42.5
	総合事業対象者	56	1.8	12.5	21.4	33.9	30.4	0.0	85.7
	要支援1	58	8.6	13.8	10.3	25.9	41.4	0.0	77.6
	要支援2	82	11.0	9.8	17.1	15.9	46.3	0.0	79.3

(2) 家族構成

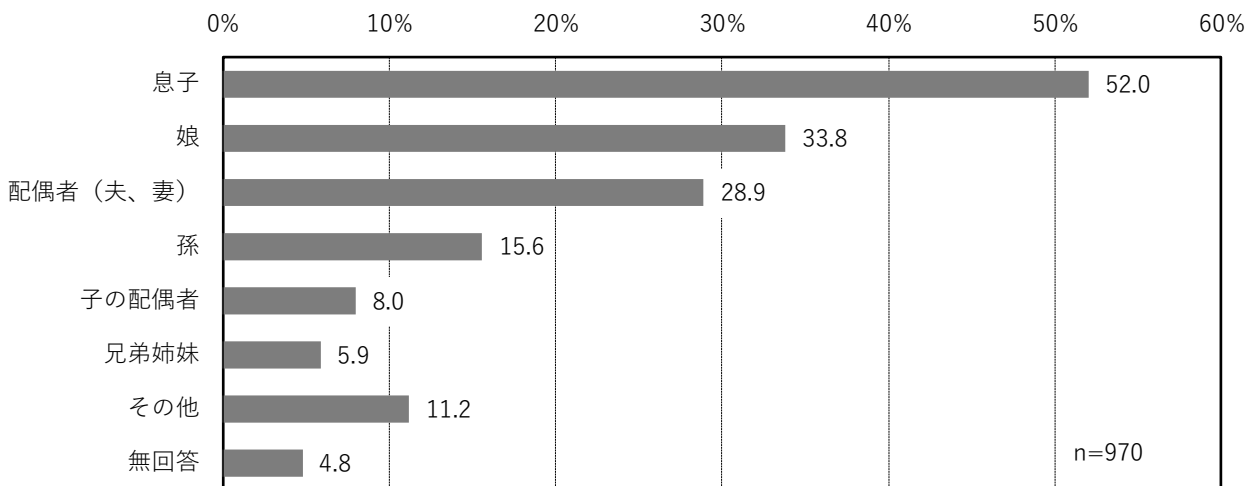
家族構成をみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が32.2%で最も高く、また、「1人暮らし」は24.4%となっています。

このことから、本市の高齢者世帯の約3世帯に1世帯は高齢者のみの世帯、約4世帯に1世帯は単独世帯であることが分かります。

「配偶者以外と2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」の同居人については、「息子」が52.0%で最も高く、「娘」が33.8%、「配偶者(夫、妻)」が28.9%、「孫」が15.6%となっています。



「配偶者以外と2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」の同居人

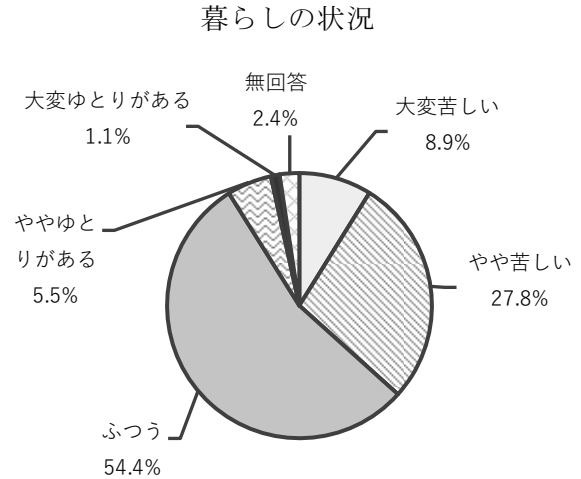


(3) 暮らしの状況（経済的視点）

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかを尋ねたところ、経済的に苦しい（「大変苦しい」又は「やや苦しい」と回答した人）と回答した人の割合が36.7%と4割近くを占める一方で、「大変ゆとりがある」又は「ややゆとりがある」と回答した割合は6.6%に過ぎず、比較的経済的に負担感を有している人の割合が高いことがわかります。

経済的に苦しい人の割合は女性（34.1%）よりも男性（39.8%）の方が高い傾向にあります。

日常生活圏域別にみると、「中部南」（40.8%）、「西部北」（40.5%）は経済的に苦しい人の割合が4割を超えていることがわかります。



n=2,541

暮らしの状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	経済的に苦しい人の割合
全体		2,541	8.9	27.8	54.4	5.5	1.1	2.4	36.7
性別	男性	1,111	9.1	30.7	51.0	5.9	1.0	2.3	39.8
	女性	1,426	8.7	25.4	57.2	5.1	1.1	2.5	34.1
年齢	65～69歳	667	9.1	29.7	51.3	6.0	0.9	3.0	38.8
	70～74歳	718	9.2	28.6	54.3	5.0	0.7	2.2	37.8
	75～79歳	463	9.3	28.9	54.0	4.3	1.5	1.9	38.2
	80～84歳	370	10.3	25.9	53.2	6.2	1.9	2.4	36.2
	85歳以上	319	5.3	21.9	63.6	6.3	0.6	2.2	27.2
日常生活圏域	北部	385	7.5	28.3	56.6	3.6	1.3	2.6	35.8
	中部北	357	9.2	28.9	55.7	4.8	0.3	1.1	38.1
	中部南	324	9.0	31.8	50.6	5.6	0.0	3.1	40.8
	東部北	368	8.4	26.4	56.3	6.3	0.8	1.9	34.8
	東部南	381	8.4	25.7	56.2	5.5	1.0	3.1	34.1
	西部北	341	10.3	30.2	47.5	5.9	2.9	3.2	40.5
	西部南	381	9.4	23.6	57.2	6.8	1.0	1.8	33.0

(4) 住まい

住まいについては、「持家(一戸建て)」が68.4%で圧倒的に高くなっています。

住まい(性別・年齢別・日常生活圏域別) 単位: %

		合計 (人)	持家 (一戸建て、家族 所有を含む)	持家 (マンション等、 家族所有を含む)	公営賃貸住宅 (市営・県営 住宅等)	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (アパート等)	有料老人ホーム等、高齢者 向け住宅	その他	無回答
全体		2,541	68.4	4.5	4.9	3.1	15.3	0.6	1.0	2.2
性別	男性	1,111	68.3	4.3	4.0	3.0	16.4	0.5	1.2	2.3
	女性	1,426	68.4	4.6	5.6	3.2	14.6	0.6	0.9	2.1
年齢	65~69歳	667	61.6	6.1	5.7	3.4	20.1	0.1	1.3	1.5
	70~74歳	718	66.6	5.3	4.6	2.9	17.8	0.0	0.8	1.9
	75~79歳	463	72.6	4.3	5.6	2.4	11.2	0.2	0.6	3.0
	80~84歳	370	71.1	2.7	4.9	3.5	13.0	0.5	1.4	3.0
	85歳以上	319	77.4	1.3	2.8	3.1	8.8	3.4	0.9	2.2
日常生活圏域	北部	385	74.5	0.8	5.2	2.6	11.2	1.6	1.3	2.9
	中部北	357	71.1	3.6	2.0	2.2	17.1	0.6	1.1	2.2
	中部南	324	61.7	7.1	7.1	4.3	15.1	0.0	1.2	3.4
	東部北	368	76.1	3.3	5.2	2.2	9.5	0.8	1.4	1.6
	東部南	381	66.4	7.3	7.3	1.0	15.5	0.3	1.0	1.0
	西部北	341	58.7	6.7	2.3	5.6	22.0	0.6	0.3	3.8
	西部南	381	68.5	2.9	5.0	3.9	17.8	0.3	0.8	0.8

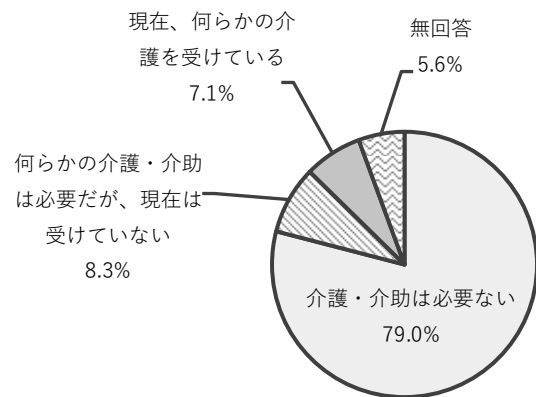
(5) 介護の状況

介護についてみると、「介護・介助は必要ない」と回答した人の割合が約8割(79.0%)となっています。

この理由としては、本調査の対象者が要介護1~5を除いた在宅の高齢者(一般高齢者と要支援者)であることから、介護を必要とする割合が低くなっているものと考えられます。

一方、約15.4%が介護や介助を必要としていることも分かります。また、介護や介助が必要な高齢者の割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向となっています。

介護の状況



n=2,541

介護の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

		合計 (人)	介護・介助は 必要ない	何らかの介 護・介助は必 要だが、現在 は受けていな い	現在、何らか の介護を受け ている（介護 認定を受けず に家族などの 介護を受けて いる場合も含 む）	無回答
全体		2,541	79.0	8.3	7.1	5.6
性別	男性	1,111	82.1	7.3	5.6	5.0
	女性	1,426	76.6	9.1	8.3	6.0
年齢	65～69歳	667	88.2	4.0	3.3	4.5
	70～74歳	718	86.5	5.0	4.2	4.3
	75～79歳	463	78.6	9.7	6.3	5.4
	80～84歳	370	70.3	14.1	8.1	7.6
	85歳以上	319	53.6	16.0	21.6	8.8
日常生活圏域	北部	385	79.5	8.6	6.5	5.5
	中部北	357	79.0	9.5	5.9	5.6
	中部南	324	77.2	7.4	9.3	6.2
	東部北	368	77.7	8.2	9.0	5.2
	東部南	381	83.5	5.5	5.5	5.5
	西部北	341	75.7	10.0	8.2	6.2
	西部南	381	79.8	9.2	5.8	5.2

「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の主な介護者をみると、「介護サービスのヘルパー」（35.0%）、「娘」（23.9%）、「配偶者（夫・妻）」（21.1%）、「息子」（18.9%）の順となっています。

主な介護者（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

		合計 (人)	配偶者 (夫・妻)	息子	娘	子の配偶者 (嫁、むこ)	孫	兄弟・姉妹	介護サービスの ヘルパー	その他	無回答
全体		180	21.1	18.9	23.9	7.8	3.9	5.6	35.0	18.3	6.7
性別	男性	62	35.5	16.1	21.0	4.8	3.2	9.7	38.7	14.5	3.2
	女性	118	13.6	20.3	25.4	9.3	4.2	3.4	33.1	20.3	8.5
年齢	65～69歳	22	36.4	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	40.9	9.1	4.5
	70～74歳	30	20.0	10.0	23.3	0.0	0.0	13.3	23.3	13.3	3.3
	75～79歳	29	34.5	24.1	24.1	0.0	3.4	3.4	31.0	24.1	6.9
	80～84歳	30	23.3	20.0	26.7	13.3	6.7	6.7	43.3	6.7	10.0
	85歳以上	69	10.1	20.3	27.5	14.5	5.8	1.4	36.2	26.1	7.2
日常生活圏域	北部	25	20.0	24.0	16.0	12.0	4.0	4.0	40.0	20.0	4.0
	中部北	21	19.0	33.3	9.5	9.5	4.8	4.8	23.8	23.8	23.8
	中部南	30	23.3	16.7	33.3	6.7	3.3	6.7	46.7	10.0	0.0
	東部北	33	24.2	12.1	21.2	12.1	6.1	12.1	33.3	24.2	6.1
	東部南	21	28.6	28.6	42.9	4.8	9.5	0.0	23.8	9.5	0.0
	西部北	28	17.9	17.9	21.4	7.1	0.0	7.1	21.4	25.0	10.7
	西部南	22	13.6	4.5	22.7	0.0	0.0	0.0	54.5	13.6	4.5

*年齢別・日常生活圏域別クロス集計は基数が小さいため注意が必要です。

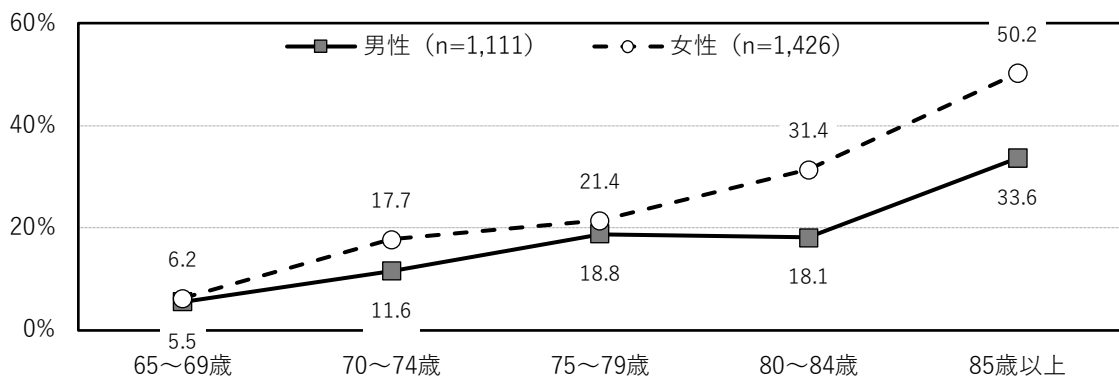
2. 体を動かすことについて

(1) 運動器の機能低下者（リスク者）

下記の設問で3問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

運動器の機能リスク（性別年齢別）



「運動器」とは、身体を動かすために働く組織を指し、筋肉や骨、関節だけではなく、脳、脊髄、末梢神経、軟骨、椎間板も含みます。様々な組織が運動することで私たちの身体が動くことから、どれかひとつの組織が欠けても歩行や日常生活活動に支障をきたしてしまいます。

運動器の障がいは、要支援・要介護状態となる大きな要因の1つであることから、健康寿命を伸ばすためにも運動器の機能低下者を減らすことが大切です。

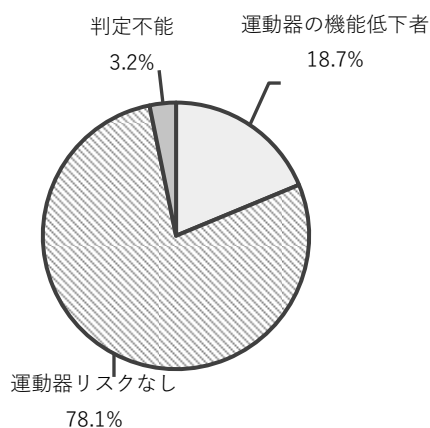
身体活動の減少が起こると、バランス機能や歩行能力が低下し、容易に転倒・骨折するようになります。そこで、運動器の機能低下のリスク判定には、直近の転倒経験や転倒に対する不安に関する設問から得られた結果を含めています。

運動器のリスク者は 18.7%で 2 割弱と なっています。

性別年齢別にみると、男女ともに運動器の機能リスク者の割合は年齢階層が高くなるに従って増加しています。加齢に伴い、特に下肢や体幹の筋力が低下し、膝や腰の痛みや転倒不安などの要因が重なることで身体活動が徐々に減少しているものと考えられます。

特に女性の運動器のリスク者は 75～79 歳以降も一貫して増加しており、比較的リスク者の伸びが緩やかな男性との乖離が生じています。

運動器の機能低下者



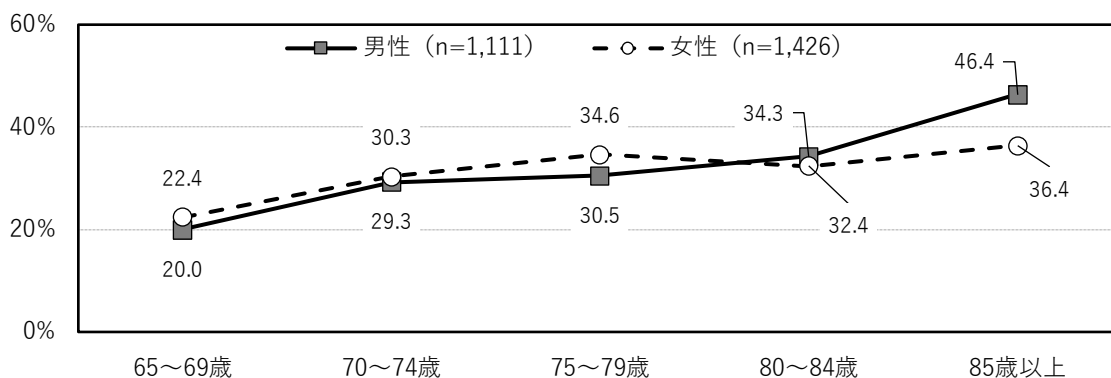
n=2,541

(2) 転倒リスク者（リスク者）

下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢			
過去 1 年間に転んだ経験がありますか	<table border="1"> <tr> <td>1. 何度もある</td> </tr> <tr> <td>2. 1 度ある</td> </tr> <tr> <td>3. ない</td> </tr> </table>	1. 何度もある	2. 1 度ある	3. ない
1. 何度もある				
2. 1 度ある				
3. ない				

転倒リスク者（性別年齢別）



転倒リスク者は、運動器の機能低下リスク判定に用いた 5 つの設問のうち 1 設問の回答に基づき判定されるものであり、その意味においては運動器の機能低下リスクに内包された指標であるともいえます。

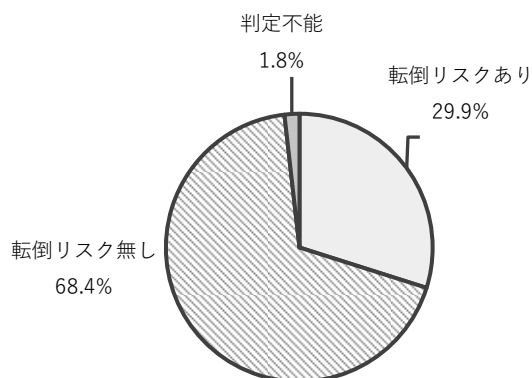
本市における転倒のリスク者は概ね3割（29.9%）となっています。

性別年齢別にみると、80歳未満では女性の方が僅かにリスク者の割合が高く推移しているものの、80～84歳で逆転し、85歳以上では男性のリスク者が46.4%になっています（女性は36.4%）。

転倒の要因は、コードや段差につまずくなどの偶発的な環境要因と、歩行やバランス障がい、筋力低下等による身体的な要因によるものです。従って、転倒リスク者の減少のためには、サルコペニア（加齢性筋肉減弱症）対策と併せて、自宅や施設のバリアフリー化、歩道の整備等の環境整備も必要となります。

転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別にみると、「リスクあり」の高齢者は転倒に関して不安を感じている割合が高く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で33.7%、「リスクなし」で13.0%とその差が大きくなっています。

転倒リスク者



n=2,541

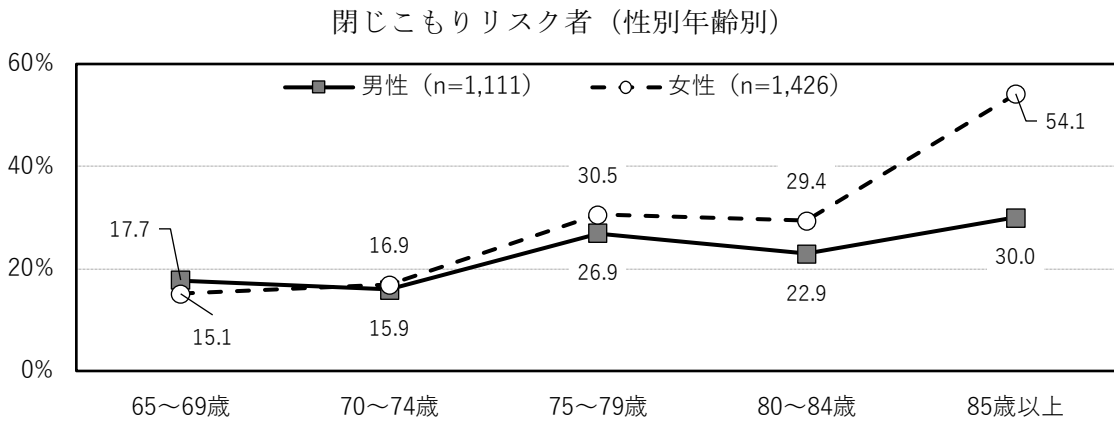
転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別） 単位：%

		合計 (人)	とても不安 である	やや不安で ある	あまり不安 でない	不安でない	無回答
転倒リスク	全体	2,541	19.2	38.1	20.8	20.3	1.6
	転倒リスクあり	759	33.7	46.0	15.3	5.0	0.0
	転倒リスク無し	1,737	13.0	35.1	23.7	27.3	1.0

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
	2. 週1回
	3. 週2～4回
	4. 週5回以上



本調査において閉じこもり傾向の高齢者とは、外出頻度が週に1回以下であることです。外出頻度が低下する要因は数多く考えられます。そもそも、外出する目的が無ければ無理に自宅の外に出る必要性も無く、現に自宅内で穏やかに過ごすことを好む高齢者も多くいらっしゃいます。しかしながら、一般的に閉じこもり状態が長くなることで、人との交流が減り、うつ傾向になったり、認知機能が低下したりすると考えられています。

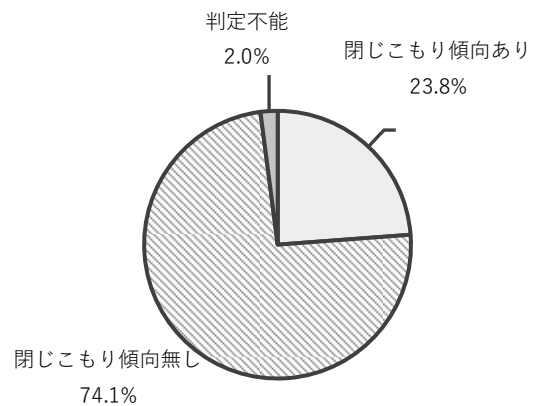
本市において、閉じこもりのリスク者の割合は23.8%となっています。

性別年齢別にみると、年齢が上がるともに、概ねリスク者の割合が上昇する傾向にあります。

その傾向は、他のリスク要因と比べると明確なものではなく、年齢階層の高まりに従って一貫した上昇基調を示していると言えませんが、前期高齢者は2割以下であったことを踏まえれば、加齢の影響は少なからずあるものと考えられます。

特に、女性の85歳以上の過半数(54.1%)が週に1回以下の外出となっています。

閉じこもり傾向



n=2,541

(4) 外出の状況

①外出を控えているか・昨年と比べて外出の回数が減っているか

運動器の機能低下や転倒リスク、低栄養と閉じこもりは関連があると言われていたことから、他のリスク者の割合を低減するためにも外出頻度を増やし閉じこもり傾向のある高齢者を減らすことが大切です。

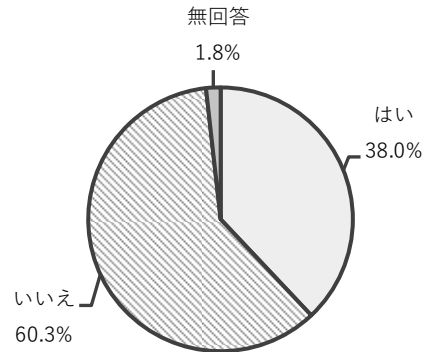
外出を控えているか尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は38.0%となっており、本市の高齢者の約4割が外出を控えているという結果となっています。

さらに、昨年と比べて外出の回数が減っているかを尋ねたところ、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は39.8%となっています。

閉じこもりリスクの有無別にみると、「リスクあり」で74.8%が昨年と比べて外出の回数が減っており、昨年からの外出控えの結果、閉じこもりリスク者と判定された高齢者が少なからず存在する可能性が考えられます。

年齢別にみると、外出を控えている人は年齢が上がるとともに高くなっており、84歳までは4割以下であるものの、85歳以上では59.9%となっています。

外出を控えているか



n=2,541

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別） 単位：%

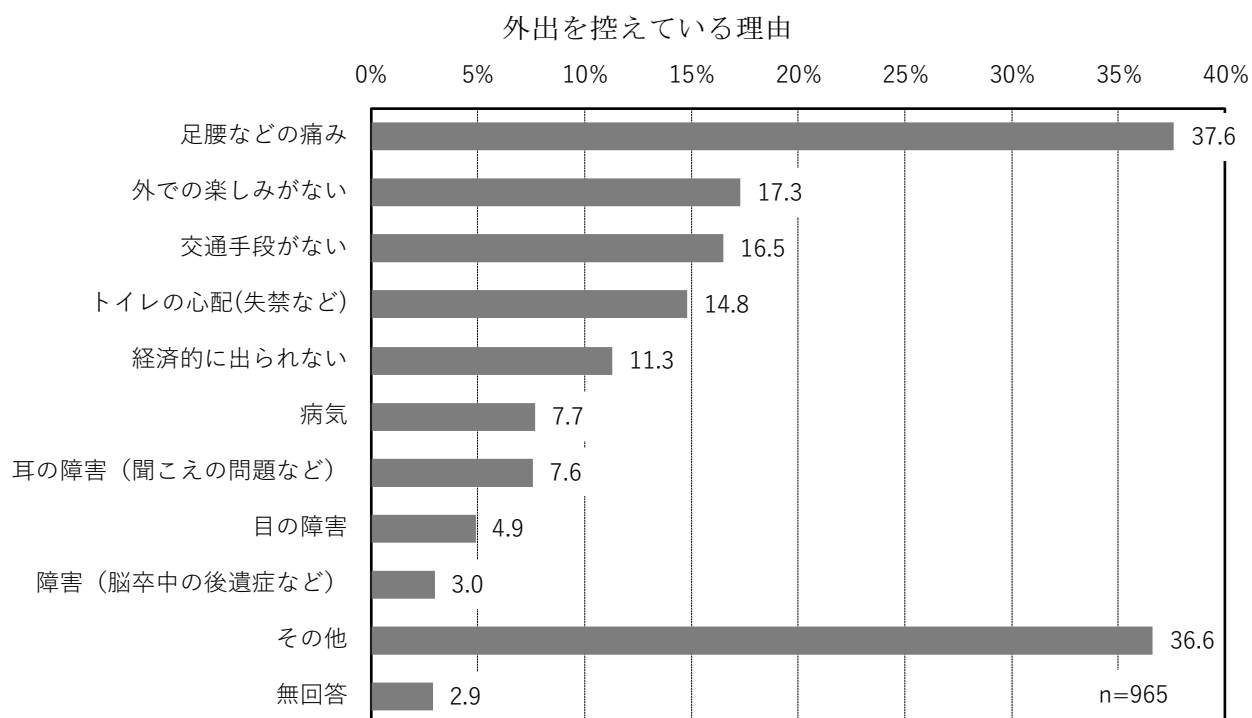
		合計 (人)	とても減っ ている	減っている	あまり減っ ていない	減っていな い	無回答
閉じこもり傾向	全体	2,541	8.9	30.9	25.4	32.7	2.0
	あり	605	27.4	47.4	14.7	8.9	1.5
	無し	1,884	3.0	26.1	29.1	40.9	0.8

外出を控えているか（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

		合計 (人)	はい	いいえ	無回答
全体		2,541	38.0	60.3	1.8
性別	男性	1,111	31.1	66.8	2.1
	女性	1,426	43.4	55.0	1.5
年齢	65～69歳	667	31.5	67.5	1.0
	70～74歳	718	33.7	65.0	1.3
	75～79歳	463	39.7	58.1	2.2
	80～84歳	370	37.3	59.2	3.5
	85歳以上	319	59.9	38.2	1.9
日常生活圏域	北部	385	41.3	56.1	2.6
	中部北	357	37.0	61.3	1.7
	中部南	324	41.7	56.8	1.5
	東部北	368	38.9	60.1	1.1
	東部南	381	31.5	67.5	1.0
	西部北	341	37.2	59.8	2.9
	西部南	381	39.1	59.3	1.6

②外出を控えている理由

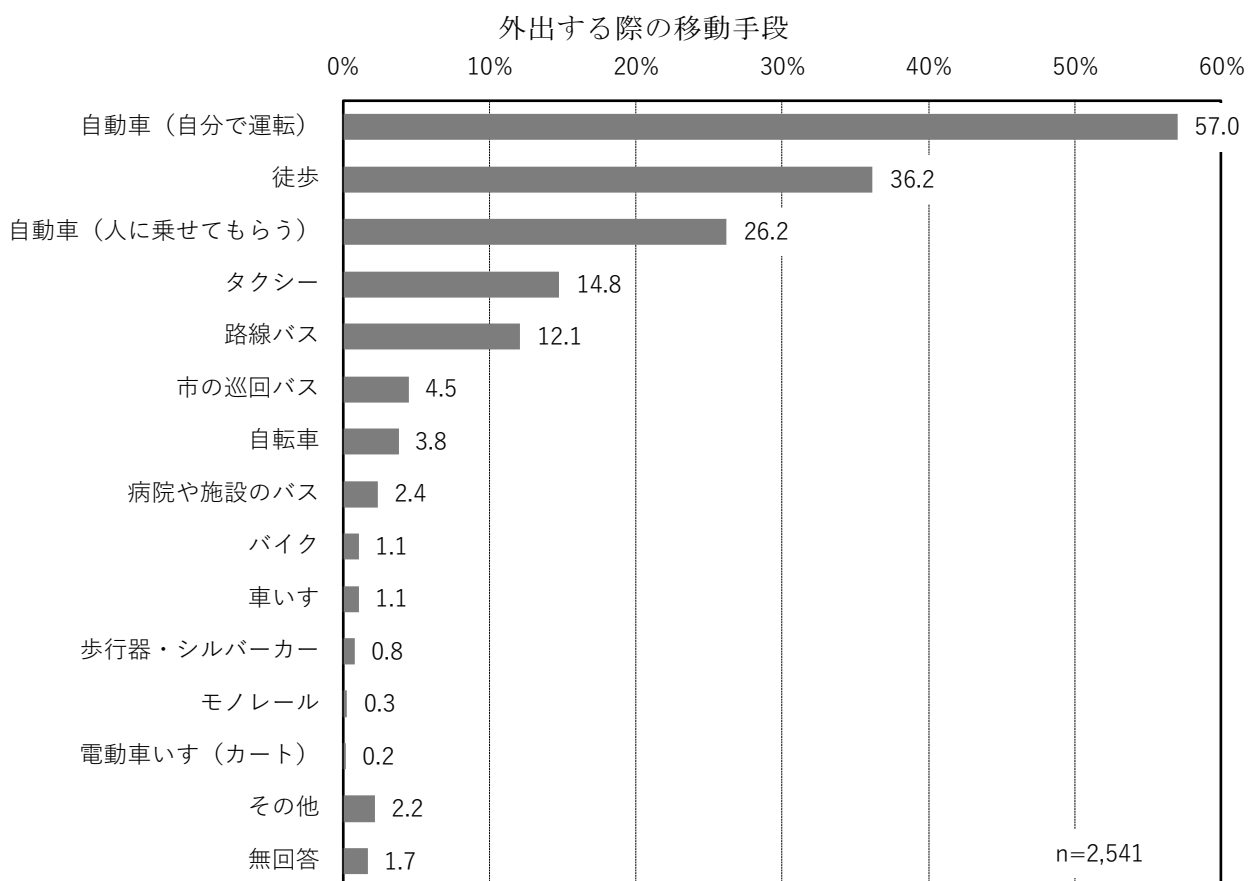
外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」と回答した人が最も多く、37.6%となっています。次いで、「外での楽しみがない」(17.3%)、「交通手段がない」(16.5%)、「トイレの心配(失禁など)」(14.8%)が続いていますが、「その他」が36.6%となっていることも特徴的です。その他の回答内訳としては、新型コロナウイルス感染予防のために外出を控えたという声が84.0%占めています。仮に、新型コロナウイルスに関連する選択肢を調査票に盛り込んだ場合、 $36.6\% \times 84.0\% = 30.7\%$ となっていたものと考えられます。これは、「足腰などの痛み」(37.6%)に次いで外出を控えている理由の第2位に相当します(p.64「(5)新型コロナウイルス禍による影響について」参照)。



③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段を尋ねたところ、「自動車(自分で運転)」と回答した人が最も多く57.0%となっています。次いで、「徒歩」(36.2%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(26.2%)が続いています。

このように、本市では自動車を自分で運転する人が多くなっていますが、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるに従って自分で自動車を運転する人の割合が急速に低下していることが分かります。65～69歳では75.0%の人が自ら車を運転していますが、75～79歳では56.8%となり、80～84歳では41.1%、85歳以上では僅か15.7%になっています。一方、年齢階層が高くなるに従って増加する交通手段は「自動車(人に乗せてもらう)」と「タクシー」ですが、代替手段を確保できない高齢者は外出しづらくなることで閉じこもりにつながる可能性があるといえます。



移動の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

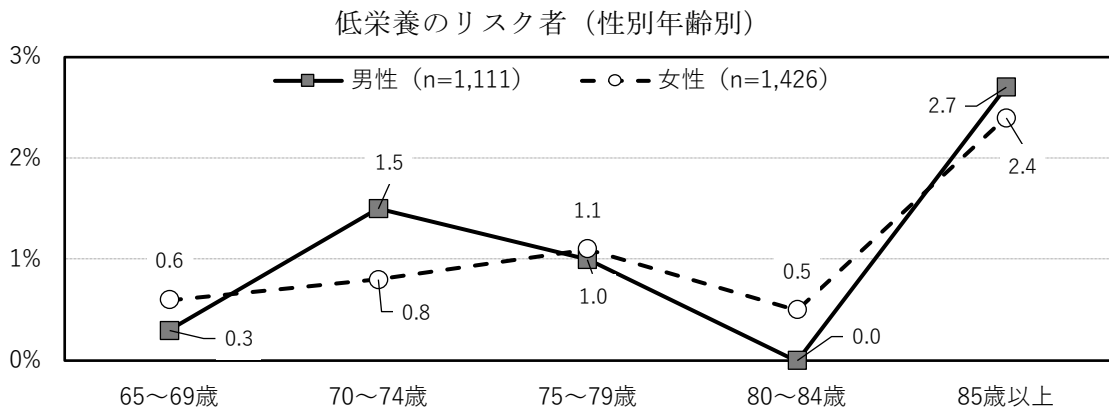
		合計 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	6位
			自動車（自分で運転）	徒歩	自動車（人に 乗せてもら う）	タクシー	路線バス	市の巡回バス
	全体	2,541	57.0	36.2	26.2	14.8	12.1	4.5
性別	男性	1,111	69.0	39.0	14.9	11.3	9.4	3.2
	女性	1,426	47.6	34.0	35.1	17.5	14.2	5.6
年齢	65～69歳	667	75.0	36.6	16.5	9.4	11.5	4.6
	70～74歳	718	67.0	35.1	20.3	9.9	10.6	4.3
	75～79歳	463	56.8	36.7	27.9	15.3	11.9	3.7
	80～84歳	370	41.1	36.5	30.8	24.1	15.9	5.7
	85歳以上	319	15.7	36.7	52.4	25.4	12.5	4.7
日常生活圏域	北部	385	60.0	28.3	24.2	11.9	8.6	2.3
	中部北	357	57.1	38.9	28.6	16.5	14.6	4.5
	中部南	324	46.3	40.7	29.0	18.8	18.5	7.1
	東部北	368	61.4	26.6	25.8	12.0	7.3	2.7
	東部南	381	65.9	29.7	22.3	11.0	7.1	3.4
	西部北	341	50.1	51.0	27.9	13.8	15.8	7.9
	西部南	381	55.9	40.2	26.8	19.9	14.2	4.5

3. 食べることについて

(1) 低栄養の傾向（リスク者）

下記の設問で、BMIが18.5未満となり、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

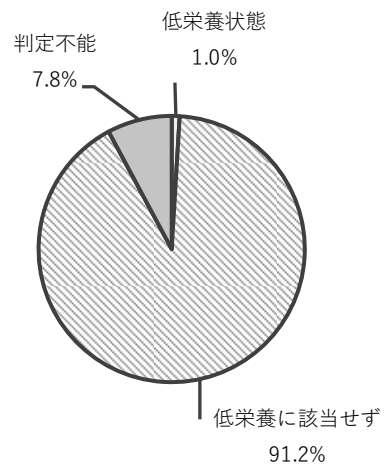
設問内容	選択肢
身長・体重	身長・体重から算出されるBMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5未満の場合、低栄養が疑われる
6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ



本市においては、低栄養に係るリスク者の割合は1.0%となっており、比較的低くなっています。

性別年齢別にみると、85歳以降でリスク者の割合が急増する傾向にあるものの、全ての年齢階層で低栄養のリスク者の割合は低い水準で推移しています。

低栄養の傾向



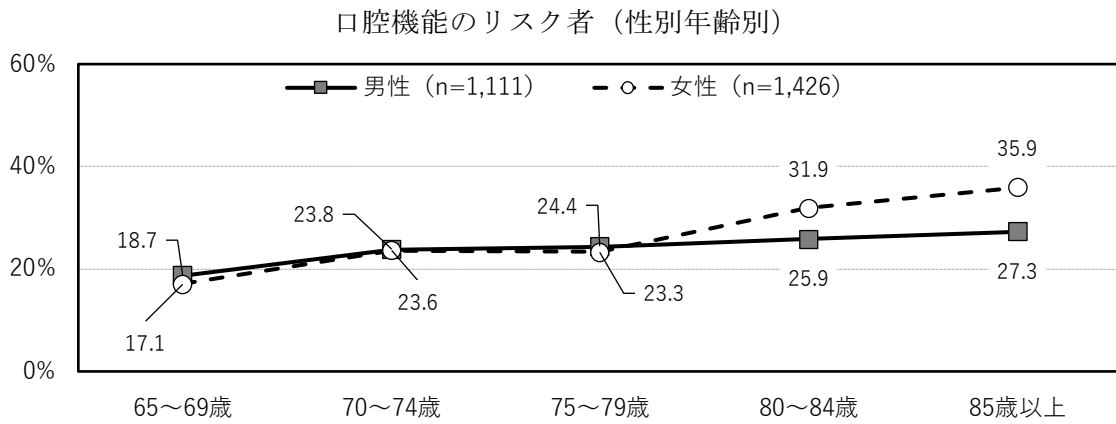
n=2,541

(2) 口腔機能低下

① 口腔機能の低下者（リスク者）

下記の設問で2問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

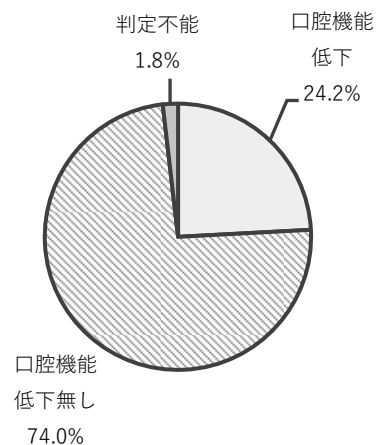


口腔機能のリスク者は 24.2% となっており、本市の高齢者のうち、約 4 人に 1 人程度となっています。

性別年齢別にみると、年齢が上がるともに、概ねリスク者の割合が上昇する傾向にありますが、その傾向は、男性よりも女性により顕著にみられます。

特に、女性は 80 歳以降、男性に比べてリスク者の割合の伸びが顕著であり、85 歳以上では 35.9% がリスク者となっています。

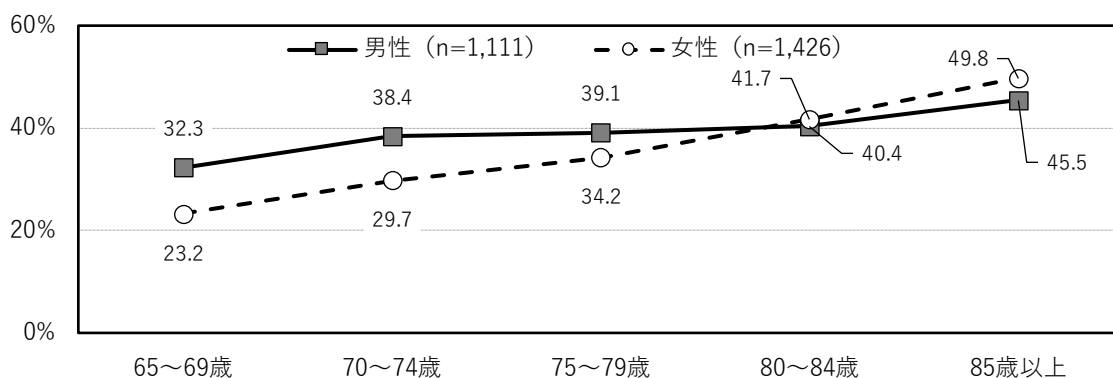
口腔機能の低下



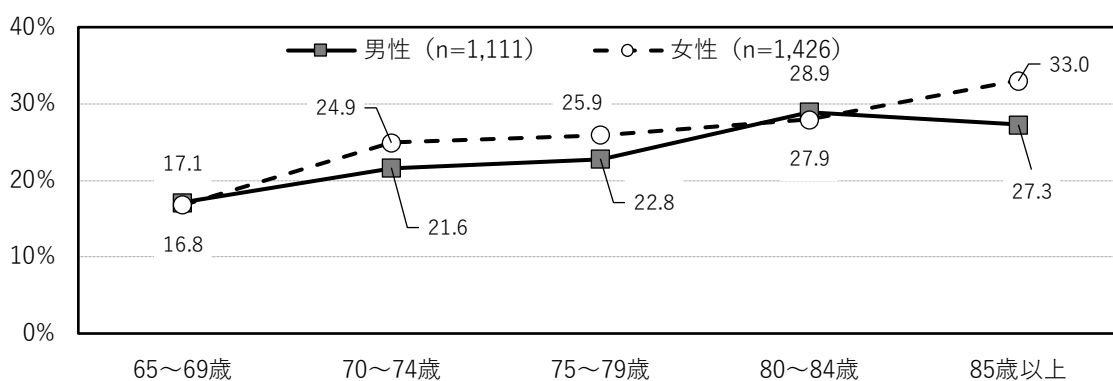
n=2,541

②咀嚼機能・嚥下機能の低下者（リスク者）

咀嚼機能のリスク者（性別年齢別）

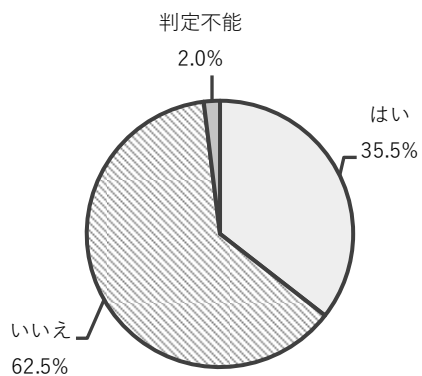


嚥下機能のリスク者（性別年齢別）



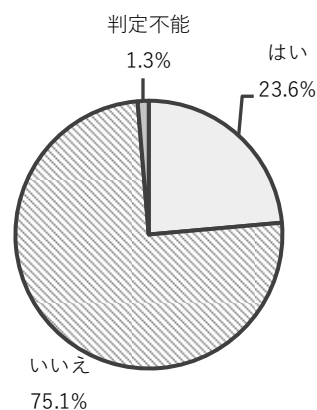
口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握したところ、35.5%が該当しました。また、口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握したところ、23.6%が該当しました。

咀嚼機能の低下者



n=2,541

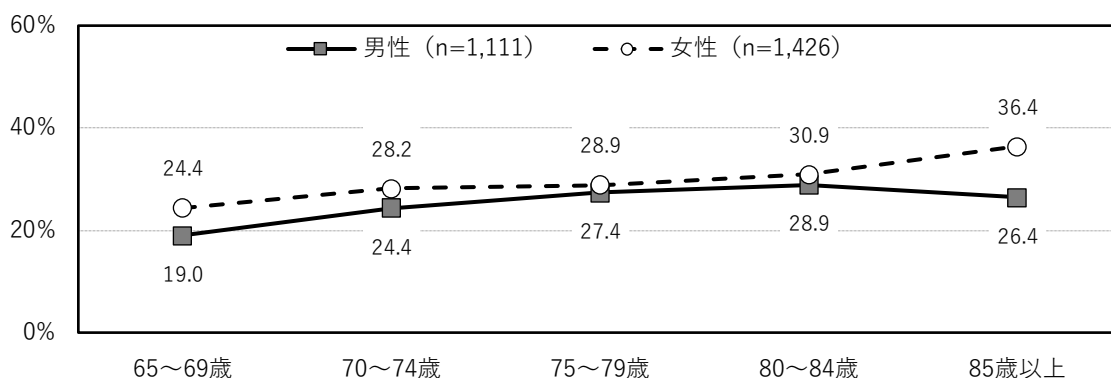
嚥下機能の低下者



n=2,541

③肺炎発症リスク者（リスク者）

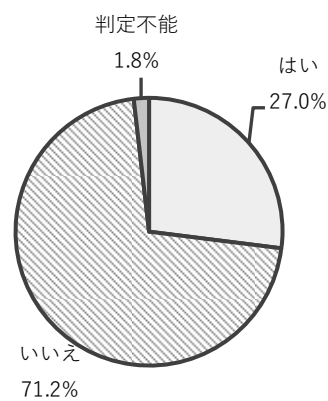
肺炎発症のリスク者（性別年齢別）



口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握したところ、27.0%となりました。

性別年齢別にみると、概ね年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合が高くなる傾向にありますが、他のリスク要因と比較するとその傾向は強くありません。

肺炎発症のリスク



n=2,541

(3) 歯の健康

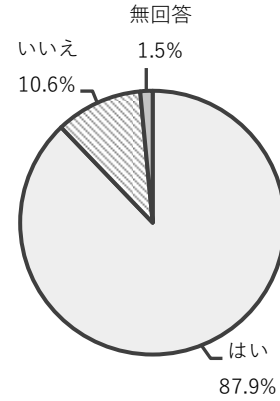
① 歯磨きの習慣、歯の本数と入れ歯の利用状況

毎日の歯磨きをしている人は 87.9% となっています。

歯の本数と入れ歯の利用についてみると、自分の歯が 20 本以上あり、入れ歯を利用していない高齢者の割合は年齢階層が高くなるに従って低くなり、65～69 歳では 38.2%であったのが 80 歳以上では 14.1%となっています。

逆に、自分の歯が 19 本以下で入れ歯を利用している高齢者の割合は年齢階層が高くなるに従って増加しており、85 歳以上では 58.0%となっています。

毎日歯磨きしているか



n=2,541

歯の数と入れ歯の利用状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	自分の歯は20 本以上、かつ 入れ歯を利用	自分の歯は20 本以上、入れ 歯の利用なし	自分の歯は19 本以下、かつ 入れ歯を利用	自分の歯は19 本以下、入れ 歯の利用なし	無回答
全体		2,541	13.3	25.7	41.7	14.3	5.1
性別	男性	1,111	12.9	28.0	38.0	16.7	4.4
	女性	1,426	13.6	23.8	44.5	12.4	5.7
年齢	65～69歳	667	9.9	38.2	31.2	18.1	2.5
	70～74歳	718	12.4	28.3	40.0	15.5	3.9
	75～79歳	463	17.9	20.5	43.6	13.2	4.8
	80～84歳	370	18.1	14.1	47.3	13.0	7.6
	85歳以上	319	10.0	14.1	58.0	6.9	11.0
日常生活圏域	北部	385	14.5	26.8	39.0	14.0	5.7
	中部北	357	16.0	25.2	40.3	14.3	4.2
	中部南	324	13.9	22.2	43.8	14.5	5.6
	東部北	368	10.3	26.9	37.2	19.0	6.5
	東部南	381	12.6	27.3	40.9	14.7	4.5
	西部北	341	14.7	24.0	44.3	12.0	5.0
	西部南	381	11.3	26.2	46.5	11.5	4.5

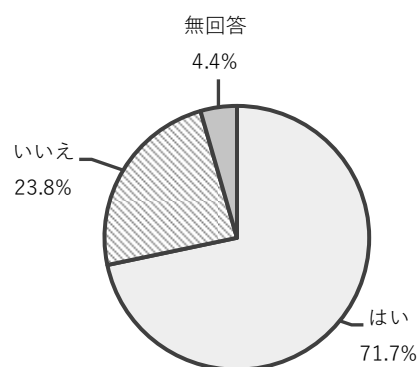
②噛み合わせは良いか

噛み合わせが良いと回答した人の割合は71.7%となっています。

年齢別にみても、年齢階層に対する明確な傾向はみられませんが、85歳以上では68.7%とわずかに噛み合わせが良い人の割合が低下しています。

日常生活圏域別にみると、「西部南」(75.9%)は他の圏域に比べて噛み合わせが良い人の割合が高くなっており、「西部北」(69.2%)と比べて6.7ポイントの差がみられます。

噛み合わせは良いか



n=2,541

噛み合わせは良いか (性別・年齢別・日常生活圏域別) 単位：%

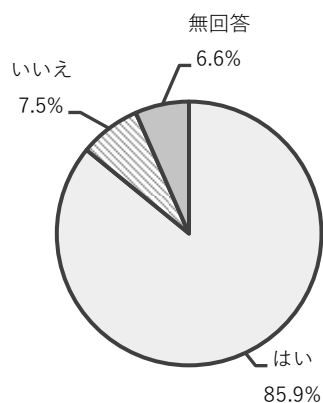
		合計 (人)	はい	いいえ	無回答
全体		2,541	71.7	23.8	4.4
性別	男性	1,111	69.6	25.8	4.6
	女性	1,426	73.4	22.4	4.2
年齢	65～69歳	667	70.3	26.4	3.3
	70～74歳	718	73.0	23.3	3.8
	75～79歳	463	73.0	22.7	4.3
	80～84歳	370	73.0	22.4	4.6
	85歳以上	319	68.7	23.5	7.8
日常生活圏域	北部	385	71.2	24.4	4.4
	中部北	357	70.3	24.6	5.0
	中部南	324	71.3	25.9	2.8
	東部北	368	69.6	25.8	4.6
	東部南	381	74.3	21.3	4.5
	西部北	341	69.2	26.1	4.7
	西部南	381	75.9	19.7	4.5

③毎日入れ歯の手入れをしているか

入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は85.9%となっています。

年齢階層別にみても、すべての年齢階層において比較的高い割合で入れ歯の手入れをしている様子が見えます。

毎日入れ歯の手入れをしているか



n=1,396

毎日入れ歯の手入れをしているか（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	はい	いいえ	無回答
全体		1,396	85.9	7.5	6.6
性別	男性	565	79.6	12.0	8.3
	女性	829	90.3	4.3	5.3
年齢	65～69歳	274	84.3	8.0	7.7
	70～74歳	376	87.5	5.9	6.6
	75～79歳	285	85.6	7.4	7.0
	80～84歳	242	87.6	7.9	4.5
	85歳以上	217	84.3	9.2	6.5
日常生活圏域	北部	206	85.9	7.3	6.8
	中部北	201	84.1	9.0	7.0
	中部南	187	87.2	6.4	6.4
	東部北	175	86.3	5.1	8.6
	東部南	204	88.2	6.9	4.9
	西部北	201	85.6	8.5	6.0
	西部南	220	85.0	8.6	6.4

(4) 孤食の状況

だれかと食事をとにもする機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

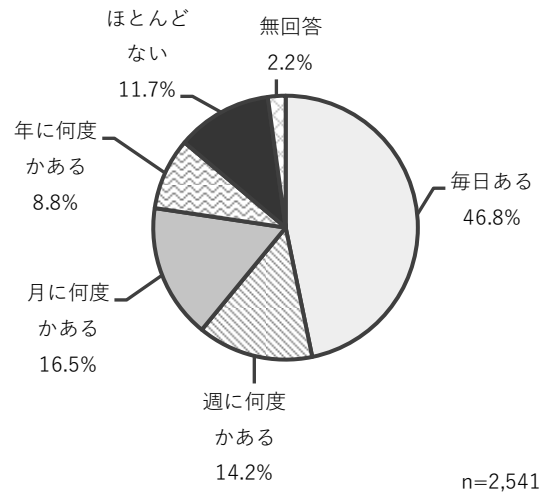
誰かと食事をとにもする機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」と回答した人は46.8%となっています。

性別にみると、「ほとんどない」と回答した人の割合は女性（8.6%）に比べて男性（15.6%）の方が高く、明らかな傾向があることがわかります。

年齢別にみると、孤食傾向にある高齢者の割合は年齢階層による明らかな傾向はみられません。

日常生活圏域別にみると、「中部南」は「ほとんどない」と回答した人の割合が16.7%となっており、他の圏域に比べて高くなっています。一方、「東部南」は「毎日ある」と回答した人の割合が50.4%と半数を超えており、孤食の状況は地域差がみられます。

孤食の状況



孤食の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

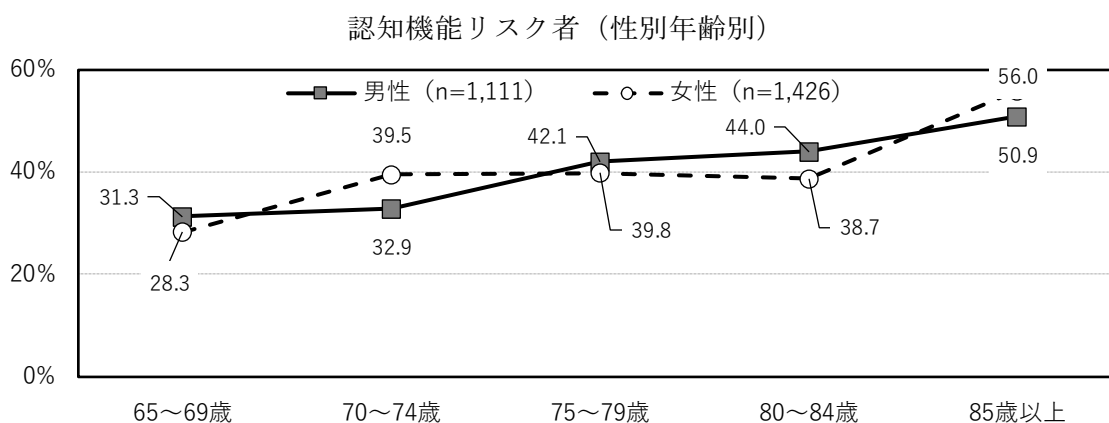
		合計 (人)	毎日ある	週に何度か ある	孤食傾向の高齢者			無回答
					月に何度か ある	孤食の高齢者		
						年に何度か ある	ほとんどない	
全体		2,541	46.8	14.2	16.5	8.8	11.7	2.2
性別	男性	1,111	48.1	11.7	13.6	8.8	15.6	2.3
	女性	1,426	45.8	16.1	18.7	8.8	8.6	2.1
年齢	65～69歳	667	52.2	14.2	15.0	6.9	10.6	1.0
	70～74歳	718	47.8	14.2	15.7	7.9	12.4	1.9
	75～79歳	463	46.4	12.5	18.1	9.9	10.8	2.2
	80～84歳	370	38.4	15.1	19.7	11.9	11.9	3.0
	85歳以上	319	43.6	15.0	14.7	9.4	13.2	4.1
日常生活圏域	北部	385	49.6	14.5	14.3	8.6	10.9	2.1
	中部北	357	49.6	12.6	14.8	10.1	10.6	2.2
	中部南	324	39.2	17.0	16.7	8.6	16.7	1.9
	東部北	368	47.8	14.7	15.2	9.2	10.1	3.0
	東部南	381	50.4	14.2	16.8	7.9	8.7	2.1
	西部北	341	44.6	15.2	17.0	7.9	13.2	2.1
	西部南	381	45.1	11.3	20.2	9.2	12.3	1.8

4. 毎日の生活について

(1) 認知機能の低下者（リスク者）

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ



認知症を引き起こす原因疾患は多数存在しますが、認知症が進行する最大の原因は加齢です。今後、いわゆる団塊の世代が順次後期高齢者に移行することで、認知症の高齢者の数は増加することが見込まれています。

認知症（特にアルツハイマー病）による症状が出現する十数年前から脳内ではタンパク質の異常な蓄積が既に始まっており、認知症と診断される時期には相当の神経細胞が機能不全に陥っていると考えられています。従って、明らかな認知症を発症した時点では予防対策は極めて困難といえます。

認知症を予防するためには、その前段階とされる「軽度認知機能障害」(MCI)の時期で認知機能低下を抑制する方法が現時点では最も効果的であると考えられています。MCIの診断では、記憶障がいの有無とそのほかの認知機能障がいの有無でタイプ分けされます。記憶障がいがある場合は「健忘型MCI」、注意などに障がいがある場合は「非健忘型MCI」に分類され、さらに単一または複数の機能障がいの有無によって「単一領域」と「多重領域」へと細分化されます。

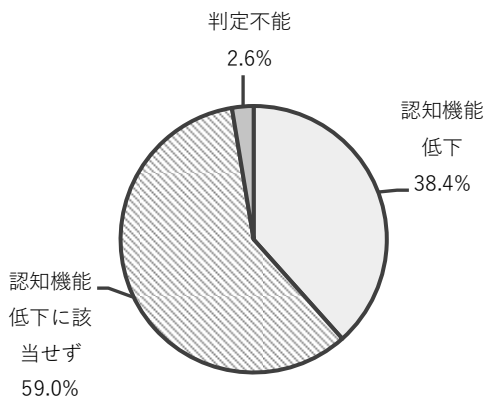
軽度認知障害を放置しておくると将来的に症状が悪化する可能性が高いと言われています。

本市における認知機能のリスク者の割合は38.4%であり、約3人に1人以上が相当します。

認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」と回答した人の割合は86.1%、「いいえ(かけられない)」と回答した人の割合は12.5%となっています。また、今日が何月何日かわからない時があるかと尋ねたところ、「はい(わからない時がある)」と回答した人の割合は29.4%、「いいえ(わからない時はない)」

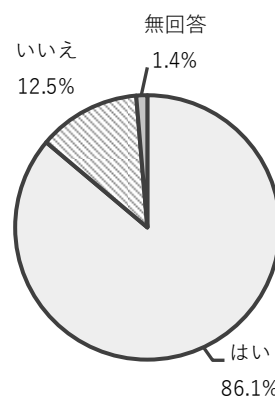
と回答した人の割合は 68.9% となっています。また、物をしまった場所がわからなくなると回答した人の割合は 49.7% となっており、ほぼ半数の人が該当しています。性別年齢別で見ると、性差はほとんどみられず、また、年齢階層による明らかな傾向もみられません。

認知機能の低下



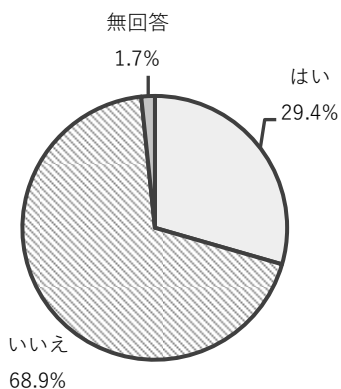
n=2,541

電話をかけられるか



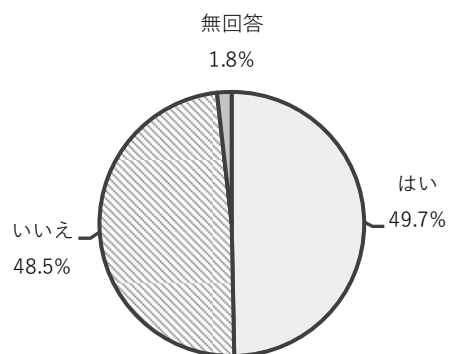
n=2,541

日付がわからない時があるか



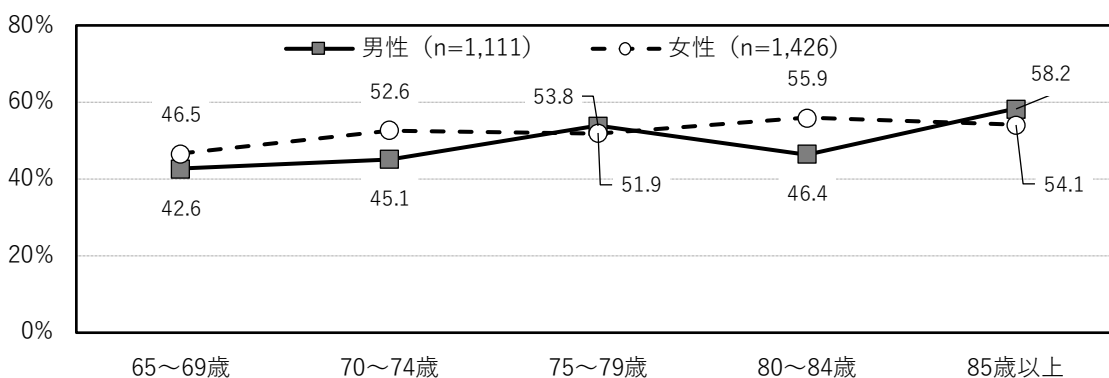
n=2,541

物をしまった場所がわからなくなることがあるか



n=2,541

物をしまった場所がわからなくなる人の割合（性別年齢別）



(2) IADLの低下者（リスク者）

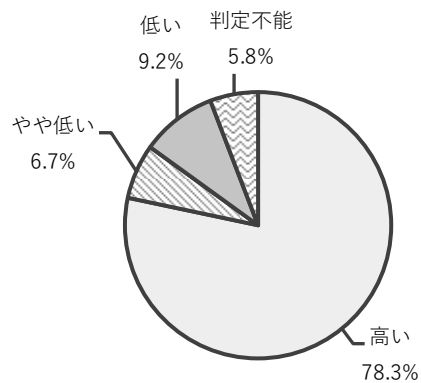
下記の設問で、5点満点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価します。

設問内容	選択肢	点
バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している	1点
	2. できるけどしていない	1点
	3. できない	0点
自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している	1点
	2. できるけどしていない	1点
	3. できない	0点
自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している	1点
	2. できるけどしていない	1点
	3. できない	0点
自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している	1点
	2. できるけどしていない	1点
	3. できない	0点
自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している	1点
	2. できるけどしていない	1点
	3. できない	0点

本市におけるIADLのリスク者（「やや低い」+「低い」）は15.9%となっています。

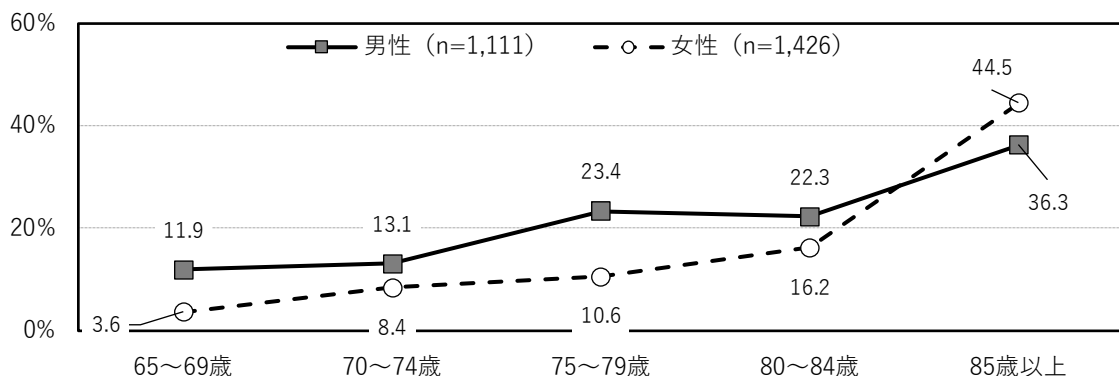
性別をみると、男女による大きな傾向はみられません。年齢階層別にみると、85歳以降でIADLが低い人の割合が高くなる傾向にあり、女性の80~84歳では16.2%であったのが、85歳以上では44.5%と28.3ポイント増加しています。

IADLの低下



n=2,541

IADLリスク者（性別年齢別）



※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）

(3) 知的能動性の低下者（リスク者）

下記の設問で、4点満点中、2点以下を「低下」として評価します。

知的能動性は、探索、創作、余暇活動などの知的な活動をすることです。

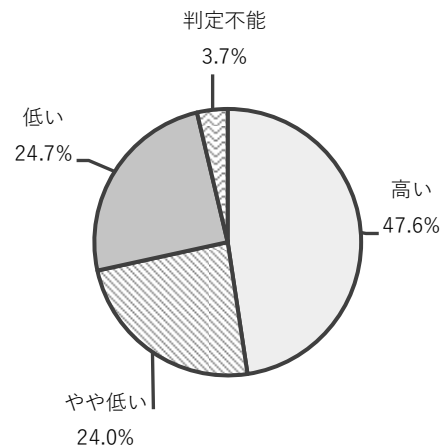
設問内容	選択肢	点
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1. はい	1点
	2. いいえ	0点
新聞を読んでいますか	1. はい	1点
	2. いいえ	0点
本や雑誌を読んでいますか	1. はい	1点
	2. いいえ	0点
健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	1点
	2. いいえ	0点

「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類はかけるか」などの能力である知的能動性のリスク者は48.7%となっています。

性別年齢別にみると、リスク者の割合は、75歳未満では女性よりも男性の方が高く推移しているものの、75歳以降はほとんど性差がみられません。

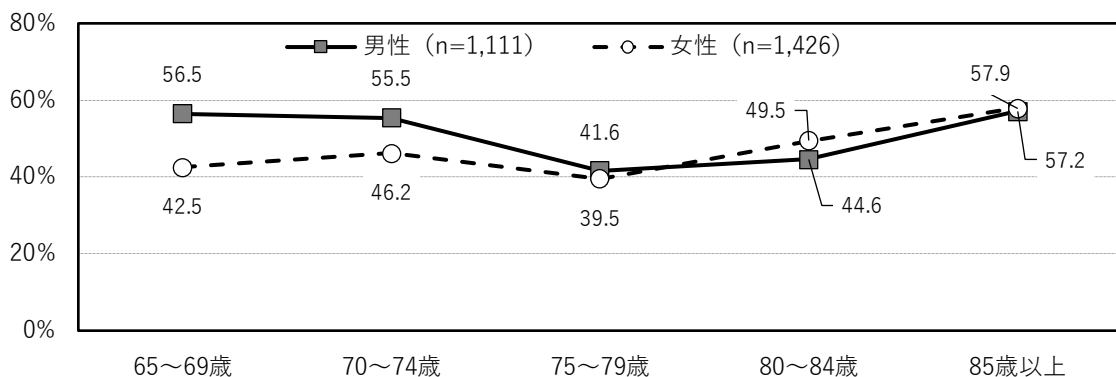
また、年齢階層による明確な傾向もみられません。

知的能動性の低下



n=2,541

知的能動性のリスク者（性別年齢別）



※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）

(4) 社会的役割の低下者（リスク者）

下記の設問で、4点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

社会的役割は、仲間と会食の機会を持ったり、地域の活動に参加したりするなど、地域で社会的な役割を果たすことです。

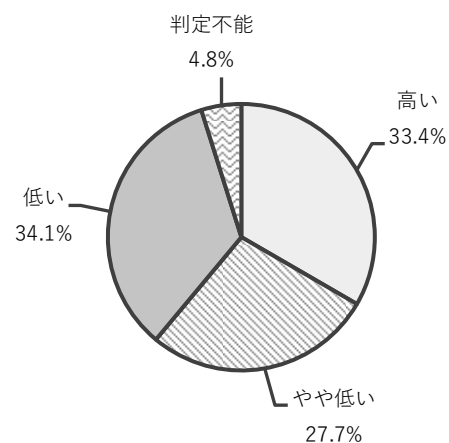
設問内容	選択肢	点
友人の家を訪ねていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
病人を見舞うことができますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの行動意欲をみた社会的役割のリスク者は61.8%となっています。

性別年齢別にみると、リスク者の割合は男女ともに85歳以上で上昇しているものの、年齢階層による明らかな傾向はありません。

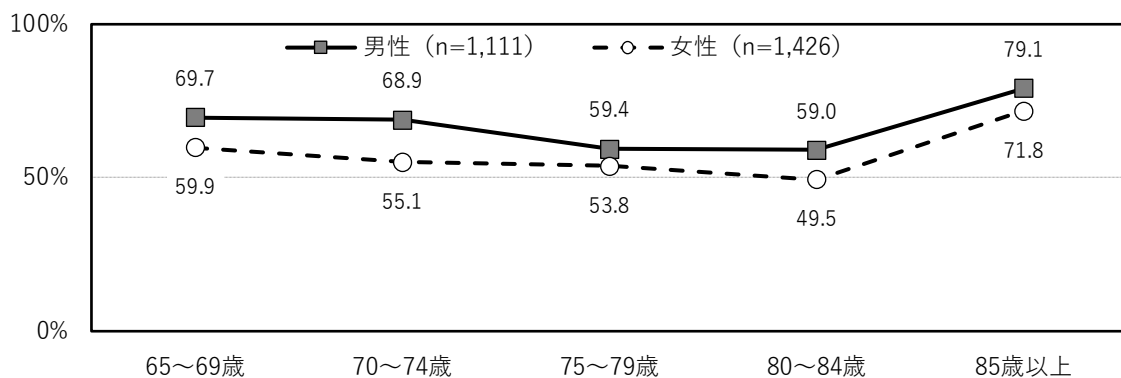
但し、全ての年齢階層において、女性に比べて男性の方が常にリスク者の割合が高く推移していることが特徴的です。

社会的役割の低下



n=2,541

社会的役割リスク者（性別年齢別）



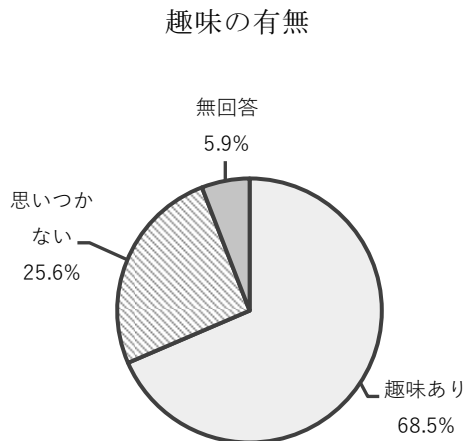
※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

(5) 趣味や生きがい

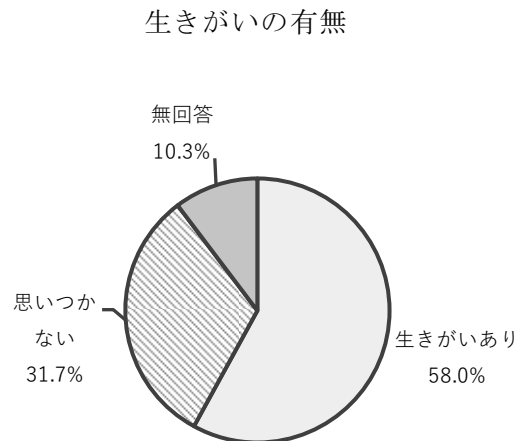
① 趣味・生きがいの有無

趣味があるか尋ねたところ、「趣味あり」と回答した人の割合は 68.5%、「思いつかない」と回答した人の割合は 25.6%となっています。

一方、生きがいがあるか尋ねたところ、「生きがいあり」と回答した人の割合は 58.0%、「思いつかない」と回答した人の割合は 31.7%となっています。



n=2,541

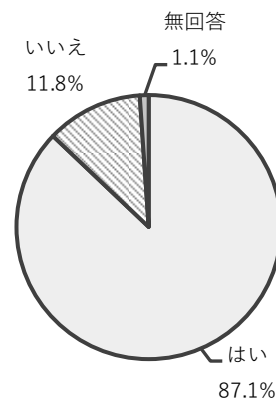


n=2,541

② 健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があるか尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は 87.1%となっています。

健康についての記事や番組に関心があるか



n=2,541

5. 地域での活動について

(1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、参加割合が高いのは「③趣味関係のグループ」であり18.6%となっています。次いで、「⑧収入のある仕事」(16.3%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(16.2%)が続いています。

一方、「今後は参加したい」と回答した人の割合が最も高いのは「⑤介護予防のための通いの場」(17.9%)や「④学習・教養サークル」(17.4%)、「③趣味関係のグループ」(16.6%)となっています。

社会参加していない人にその理由を尋ねたところ、どの活動においても「興味・関心がない」と答えた方が最も多くなっています。「興味・関心がない」と回答した人は、「②スポーツ関係のグループやクラブ」を除き、女性に比べて男性の方がより多く挙げられる傾向にあります。

女性は、「時間の都合が合わない」「歩いて行ける場所ではない」という理由を挙げた人の割合が男性に比べて概ね高くなる傾向にあり、一定の性差がみられます。

また、年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従って「歩いて行ける場所ではない」と回答した人の割合が高くなる傾向にあります。

社会参加の状況単位 単位：%

	合計 (人)	週4回 以上	週 2～3 回	週1回	月 1～3 回	年 に 数回	今後は 参加し たい	今後も 参加し たくない	無回答	参加者
①ボランティアのグループ	2,541	0.7	1.3	0.8	2.6	2.7	16.1	32.2	43.6	8.1
②スポーツ関係のグループやクラブ	2,541	2.8	4.8	2.9	3.9	1.8	11.4	32.0	40.5	16.2
③趣味関係のグループ	2,541	2.0	3.3	5.0	5.7	2.6	16.6	26.5	38.2	18.6
④学習・教養サークル	2,541	0.3	0.5	1.5	1.3	2.3	17.4	31.7	45.1	5.9
⑤介護予防のための通いの場	2,541	0.4	1.6	1.5	1.3	0.6	17.9	33.6	43.2	5.4
⑥老人クラブ	2,541	0.6	0.9	0.6	1.7	1.3	11.8	39.2	43.8	5.1
⑦町内会・自治会	2,541	0.6	0.8	0.9	2.2	5.8	12.9	34.7	42.2	10.3
⑧収入のある仕事	2,541	8.8	3.7	1.1	1.1	1.6	10.7	30.8	42.2	16.3

社会参加していない理由（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

① ボランティアのグループ

		合計 (人)	顔見知りがない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いている 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,228	16.7	17.7	27.9	19.7	8.9	1.9	12.9	13.4
性別	男性	557	18.0	17.1	33.6	15.3	5.7	1.4	12.2	11.7
	女性	668	15.7	18.3	23.1	23.5	11.5	2.2	13.3	14.8
年齢	65～69歳	397	20.2	18.4	24.2	25.7	5.3	2.5	10.8	12.3
	70～74歳	380	15.3	20.3	29.5	21.3	3.9	1.8	11.3	13.7
	75～79歳	181	17.1	16.0	25.4	18.8	13.3	2.2	12.2	16.0
	80～84歳	120	13.3	14.2	31.7	15.8	15.0	0.8	15.0	13.3
	85歳以上	147	13.6	14.3	33.3	4.1	21.1	0.7	21.1	12.2
日常生活圏域	北部	171	12.3	18.1	30.4	21.1	5.3	1.2	13.5	8.8
	中部北	179	20.1	20.1	28.5	19.0	8.9	3.4	12.8	14.5
	中部南	157	14.0	19.1	23.6	19.7	17.2	2.5	8.9	12.7
	東部北	180	18.9	16.1	29.4	20.6	6.1	0.6	13.9	15.0
	東部南	198	20.2	16.7	24.7	18.7	12.1	1.0	10.6	15.7
	西部北	161	14.3	15.5	27.3	23.0	4.3	1.9	14.3	14.3
	西部南	179	16.2	18.4	30.7	16.8	8.4	2.8	15.6	12.3

② スポーツ関係のグループやクラブ

		合計 (人)	顔見知りがない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いている 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,103	12.5	14.1	33.1	14.1	8.3	7.3	13.5	13.6
性別	男性	483	14.5	15.9	32.7	13.0	5.4	5.4	14.3	11.2
	女性	617	11.0	12.8	33.2	14.9	10.5	8.8	13.0	15.6
年齢	65～69歳	352	15.1	16.2	30.4	19.0	5.7	9.9	10.2	13.4
	70～74歳	337	11.9	16.0	33.2	13.9	3.9	6.8	13.9	13.4
	75～79歳	162	11.1	9.9	35.2	12.3	8.6	10.5	13.6	16.0
	80～84歳	107	8.4	10.3	35.5	15.0	15.9	1.9	15.0	14.0
	85歳以上	142	12.7	12.7	34.5	3.5	19.0	2.1	19.7	12.0
日常生活圏域	北部	164	7.9	15.2	38.4	14.0	6.7	6.7	10.4	12.2
	中部北	153	11.8	17.6	30.1	17.0	9.2	9.2	14.4	14.4
	中部南	140	12.1	15.0	30.7	9.3	12.9	10.0	10.7	15.0
	東部北	165	13.9	13.3	32.7	17.6	6.1	5.5	13.3	15.2
	東部南	174	14.4	11.5	34.5	12.1	9.8	6.3	11.5	16.1
	西部北	142	12.0	14.8	31.7	14.1	7.0	6.3	16.9	10.6
	西部南	162	15.4	12.3	32.1	14.2	6.8	7.4	17.9	11.7

③ 趣味関係のグループ

		合計 (人)	顔見知りが少ない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いている 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,097	15.0	14.8	27.6	15.8	9.2	7.6	12.5	16.0
性別	男性	481	17.0	15.8	31.6	12.1	5.6	5.6	13.9	12.1
	女性	615	13.5	14.0	24.4	18.7	12.0	9.1	11.4	19.2
年齢	65～69歳	360	18.6	16.7	22.5	20.6	6.4	8.3	10.3	16.7
	70～74歳	337	12.5	16.9	30.0	17.2	5.0	7.4	12.5	15.4
	75～79歳	156	15.4	9.6	28.8	12.2	12.8	10.9	10.9	19.2
	80～84歳	105	12.4	9.5	28.6	15.2	12.4	6.7	13.3	17.1
	85歳以上	138	13.8	14.5	32.6	4.3	20.3	2.9	19.6	11.6
日常生活圏域	北部	160	10.6	16.9	26.3	18.1	6.9	7.5	11.3	14.4
	中部北	157	13.4	15.3	28.7	14.0	8.9	10.2	12.1	18.5
	中部南	136	12.5	16.2	30.9	11.8	16.9	8.8	9.6	14.7
	東部北	165	15.8	11.5	30.3	19.4	5.5	6.7	14.5	15.2
	東部南	173	17.9	13.3	26.0	12.1	11.6	8.1	12.1	17.9
	西部北	144	14.6	16.7	25.7	19.4	5.6	4.2	13.9	14.6
	西部南	161	19.9	14.3	25.5	15.5	9.9	7.5	13.7	16.8

④ 学習・教養サークル

		合計 (人)	顔見知りが少ない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いている 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,249	11.6	12.7	30.3	16.0	8.2	7.3	12.1	17.1
性別	男性	576	12.2	12.5	36.5	12.5	4.2	5.7	12.8	14.1
	女性	669	11.2	13.0	25.0	19.0	11.7	8.5	11.5	19.9
年齢	65～69歳	411	12.7	14.6	25.1	22.1	6.3	9.5	10.5	16.8
	70～74歳	389	11.1	13.9	32.6	16.5	3.9	7.5	10.3	17.2
	75～79歳	184	10.9	9.8	32.6	12.5	9.8	6.5	13.6	20.1
	80～84歳	120	10.0	10.0	33.3	12.5	12.5	4.2	13.3	18.3
	85歳以上	141	12.8	10.6	33.3	4.3	19.9	3.5	19.1	13.5
日常生活圏域	北部	184	8.2	12.5	32.1	17.4	6.0	8.2	10.3	19.6
	中部北	177	11.9	14.7	31.6	15.3	7.9	7.9	13.0	15.8
	中部南	159	10.1	14.5	30.8	11.9	12.6	8.8	10.1	16.4
	東部北	185	11.9	10.3	30.8	18.4	6.5	5.9	11.9	18.4
	東部南	193	14.5	12.4	27.5	14.5	11.4	6.7	10.9	17.6
	西部北	159	10.7	12.6	31.4	18.9	5.7	6.3	15.1	13.2
	西部南	188	13.8	12.8	28.2	15.4	7.4	6.9	13.8	18.6

⑤ 介護予防のための通いの場

		合計 (人)	顔見知りが少ない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いていける 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,311	11.7	13.7	32.6	14.6	7.0	2.7	13.0	18.5
性別	男性	596	11.9	13.8	39.4	9.1	3.7	1.8	14.4	15.4
	女性	712	11.5	13.6	26.7	19.4	9.8	3.5	11.8	21.1
年齢	65～69歳	423	10.9	15.1	33.1	18.0	4.3	3.3	13.2	15.8
	70～74歳	418	11.0	14.4	34.2	15.8	4.5	2.4	10.3	18.9
	75～79歳	202	12.9	11.4	30.7	12.9	6.9	2.5	13.9	24.8
	80～84歳	128	11.7	8.6	29.7	14.1	10.9	1.6	12.5	21.9
	85歳以上	137	14.6	15.3	30.7	4.4	19.7	3.6	19.7	13.1
日常生活圏域	北部	193	9.8	15.5	31.6	15.0	3.1	1.0	13.0	18.7
	中部北	181	13.3	14.4	32.0	15.5	11.6	3.3	12.7	17.1
	中部南	166	10.8	13.3	32.5	15.1	10.8	4.2	10.2	21.1
	東部北	200	12.0	11.5	35.5	17.5	3.5	2.5	14.0	20.0
	東部南	206	13.1	12.1	35.0	11.2	10.2	1.5	10.7	18.9
	西部北	167	9.0	14.4	29.3	16.2	3.6	1.8	15.6	17.4
	西部南	195	13.3	14.9	30.8	12.8	6.7	5.1	14.9	16.4

⑥ 老人クラブ

		合計 (人)	顔見知りが少ない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いていける 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,297	13.6	16.6	35.9	13.1	5.7	2.5	13.5	14.7
性別	男性	590	14.2	16.8	40.2	10.2	2.9	1.4	14.4	11.4
	女性	703	12.9	16.5	32.1	15.6	8.1	3.4	12.7	17.6
年齢	65～69歳	413	11.9	16.7	39.2	16.2	3.4	2.7	13.1	12.6
	70～74歳	417	13.2	19.4	38.4	13.2	2.4	1.9	12.2	14.1
	75～79歳	198	16.2	13.1	31.8	13.1	7.6	3.5	11.6	19.7
	80～84歳	120	11.7	13.3	28.3	13.3	7.5	1.7	16.7	18.3
	85歳以上	145	17.2	15.9	30.3	4.1	17.9	2.8	17.9	13.1
日常生活圏域	北部	189	12.7	15.9	37.0	11.1	2.1	2.1	14.3	16.4
	中部北	187	17.1	17.1	34.2	13.4	8.6	2.7	12.3	14.4
	中部南	164	10.4	17.7	36.0	14.0	11.0	3.7	11.0	14.0
	東部北	195	12.8	16.4	34.9	17.4	3.1	1.0	15.9	15.4
	東部南	202	15.8	13.4	39.6	10.4	6.9	2.0	9.9	15.3
	西部北	168	10.7	19.6	32.7	14.3	2.4	1.2	16.1	13.7
	西部南	188	14.4	17.0	35.6	11.7	6.4	4.8	14.9	13.8

⑦ 町内会・自治会

		合計 (人)	顔見知りが少ない	人づきあいが 苦手	興味・関心が ない	時間の都合が 合わない	歩いていけない 場所ではない	費用がかかる (高い)	その他	無回答
全体		1,210	15.9	17.9	32.9	15.2	5.5	2.4	12.0	15.0
性別	男性	540	16.3	17.8	36.5	11.5	3.1	1.3	13.3	13.1
	女性	667	15.4	18.0	29.8	18.3	7.5	3.3	10.9	16.6
年齢	65～69歳	395	17.5	19.7	33.7	19.7	2.0	2.5	9.4	13.9
	70～74歳	382	16.2	19.4	34.8	16.0	2.1	2.1	10.2	14.1
	75～79歳	179	12.3	15.1	31.8	14.0	8.4	2.8	12.3	19.0
	80～84歳	113	14.2	11.5	31.9	12.4	8.0	0.9	16.8	17.7
	85歳以上	138	15.9	17.4	26.8	4.3	19.6	3.6	20.3	13.8
日常生活圏域	北部	170	12.4	20.6	35.3	14.7	3.5	1.2	12.4	14.1
	中部北	173	19.1	17.3	29.5	15.0	7.5	2.9	12.7	15.0
	中部南	157	14.0	18.5	33.1	14.0	9.6	3.8	10.8	14.0
	東部北	175	18.3	17.7	32.0	19.4	3.4	1.1	13.1	14.9
	東部南	195	19.0	14.4	35.4	12.3	6.2	1.0	8.7	16.9
	西部北	156	10.3	18.6	32.1	16.7	2.6	2.6	16.0	12.8
	西部南	181	16.6	18.8	32.0	14.9	6.1	4.4	11.0	17.1

(2) 地域づくりへの参加意向

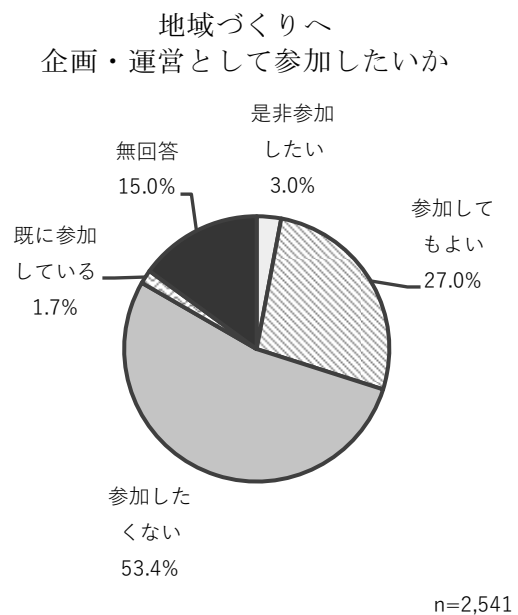
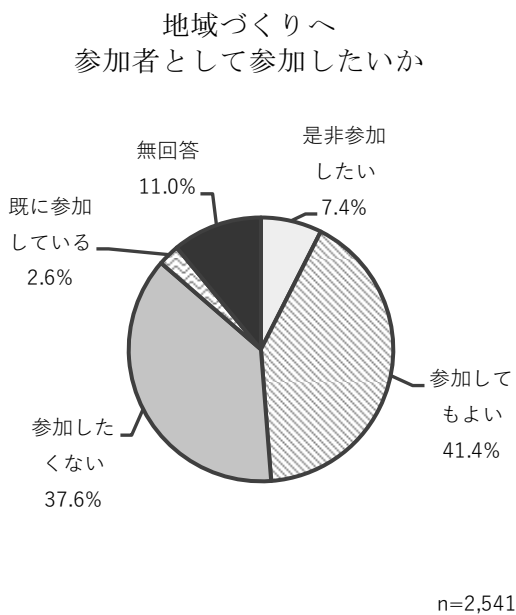
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」と回答した人の割合は7.4%、「参加してもよい」と回答した人の割合は41.4%であり、「既に参加している」(2.6%)を合わせると、地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合は51.4%となっています。

一方、地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」と回答した人の割合は3.0%、「参加してもよい」と回答した人の割合は27.0%であり、「既に参加している」(1.7%)を合わせると、企画・運営への参加意向がある高齢者は31.7%となっています。

このように、本市においては、一定の高齢者が地域づくりへの参加意向を有していることがわかります。

日常生活圏域別にみると、地域づくりへ参加者として既に参加している割合が高いのは、「西部南」であり、5.0%となっています。これは、「東部南」(1.3%)の3.8倍に相当します。

「西部南」は、地域づくりへ企画・運営として参加している割合も2.9%であり、他の圏域に比べて高い傾向にあります。



地域づくりへ参加者として参加したいか（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

		合計 (人)	是非参加 したい	参加しても よい	参加したく ない	既に参加して いる	無回答
全体		2,541	7.4	41.4	37.6	2.6	11.0
性別	男性	1,111	5.3	41.7	41.4	2.1	9.5
	女性	1,426	9.0	41.2	34.6	3.1	12.1
年齢	65～69歳	667	6.3	47.7	36.4	1.2	8.4
	70～74歳	718	5.2	43.0	40.1	2.9	8.8
	75～79歳	463	9.5	43.2	32.6	3.7	11.0
	80～84歳	370	9.7	36.8	34.3	3.8	15.4
	85歳以上	319	9.1	27.3	45.1	2.2	16.3
日常生活圏域	北部	385	7.5	37.9	37.7	3.1	13.8
	中部北	357	9.0	42.0	36.1	3.1	9.8
	中部南	324	7.4	38.6	41.0	2.2	10.8
	東部北	368	8.2	41.8	40.5	1.4	8.2
	東部南	381	9.2	43.6	34.6	1.3	11.3
	西部北	341	5.6	41.1	37.8	2.3	13.2
	西部南	381	5.0	44.4	35.7	5.0	10.0

地域づくりへ企画・運営として参加したいか（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

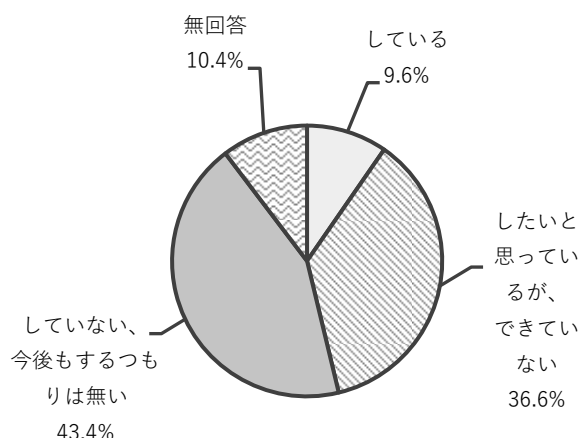
		合計 (人)	是非参加 したい	参加しても よい	参加したく ない	既に参加して いる	無回答
全体		2,541	3.0	27.0	53.4	1.7	15.0
性別	男性	1,111	2.3	28.6	55.9	1.4	11.8
	女性	1,426	3.4	25.6	51.5	2.0	17.5
年齢	65～69歳	667	2.8	30.1	54.4	1.2	11.4
	70～74歳	718	3.1	28.1	55.6	1.8	11.4
	75～79歳	463	3.5	26.3	51.0	1.7	17.5
	80～84歳	370	1.6	27.0	48.4	2.2	20.8
	85歳以上	319	3.8	18.2	55.8	1.9	20.4
日常生活圏域	北部	385	2.3	26.8	52.7	1.6	16.6
	中部北	357	3.4	26.6	53.5	1.4	15.1
	中部南	324	4.0	24.7	55.2	1.9	14.2
	東部北	368	2.2	27.7	55.4	1.4	13.3
	東部南	381	3.7	29.9	51.7	0.8	13.9
	西部北	341	2.6	25.8	52.5	2.1	17.0
	西部南	381	2.6	26.5	53.0	2.9	15.0

ボランティア活動をしているか尋ねたところ、「している」と回答した人の割合は9.6%となっています。

「したいと思っているが、できていない」と回答した人の割合は36.6%であり、「している」と回答した人の割合と合わせて46.2%の市民はボランティア活動に対して前向きな意志を有していることが分かります。

一方、「したいと思っているが、できていない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「体力的にきびしい」と答えた人の割合が32.6%と最も高く、年齢階層が上がるにつれて高くなっています。

ボランティア活動をしているか



n=2,541

ボランティア活動をしているか (性別・年齢別・日常生活圏域別) 単位：%

		合計 (人)	している	したいと思っているが、できていない	していない、今後もするつもりは無い	無回答
全体		2,541	9.6	36.6	43.4	10.4
性別	男性	1,111	11.1	33.7	46.6	8.6
	女性	1,426	8.6	38.8	40.9	11.7
年齢	65～69歳	667	9.7	46.9	35.2	8.1
	70～74歳	718	9.2	36.9	44.2	9.7
	75～79歳	463	10.8	38.0	38.7	12.5
	80～84歳	370	11.1	27.8	49.2	11.9
	85歳以上	319	7.2	22.3	58.9	11.6
日常生活圏域	北部	385	9.9	36.4	42.9	10.9
	中部北	357	9.5	37.3	43.7	9.5
	中部南	324	7.7	34.6	46.3	11.4
	東部北	368	10.1	36.1	43.5	10.3
	東部南	381	9.4	39.4	42.0	9.2
	西部北	341	9.4	36.4	41.3	12.9
	西部南	381	11.3	35.7	44.4	8.7

ボランティア活動ができない理由（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

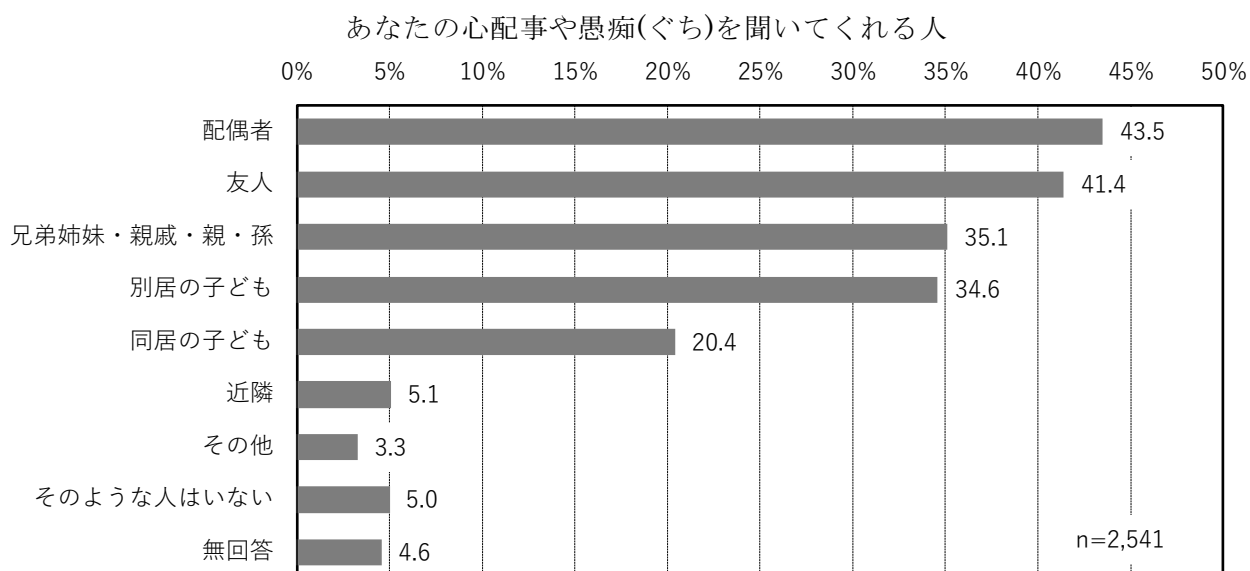
		合計 (人)	仕事等のため 時間がない	体力的に厳し い	興味はある が、どこでど んなことをし て良いのかわ からない	その他	無回答
全体		930	29.6	32.6	30.2	10.4	3.1
性別	男性	374	32.9	28.3	31.6	8.3	2.7
	女性	554	27.1	35.6	29.4	11.9	3.4
年齢	65～69歳	313	43.1	18.2	32.9	8.0	2.6
	70～74歳	265	29.4	28.3	34.7	9.8	3.0
	75～79歳	176	19.3	39.2	27.3	19.3	4.5
	80～84歳	103	21.4	49.5	23.3	6.8	3.9
	85歳以上	71	5.6	71.8	19.7	7.0	1.4
日常生活圏域	北部	140	29.3	32.9	30.7	12.9	2.1
	中部北	133	32.3	28.6	31.6	9.8	3.8
	中部南	112	23.2	35.7	30.4	10.7	7.1
	東部北	133	33.8	31.6	25.6	12.8	2.3
	東部南	150	32.0	25.3	36.0	9.3	1.3
	西部北	124	29.0	38.7	26.6	8.9	2.4
	西部南	136	25.0	37.5	30.1	8.8	3.7

6. たすけあいについて

(1) たすけあいの状況

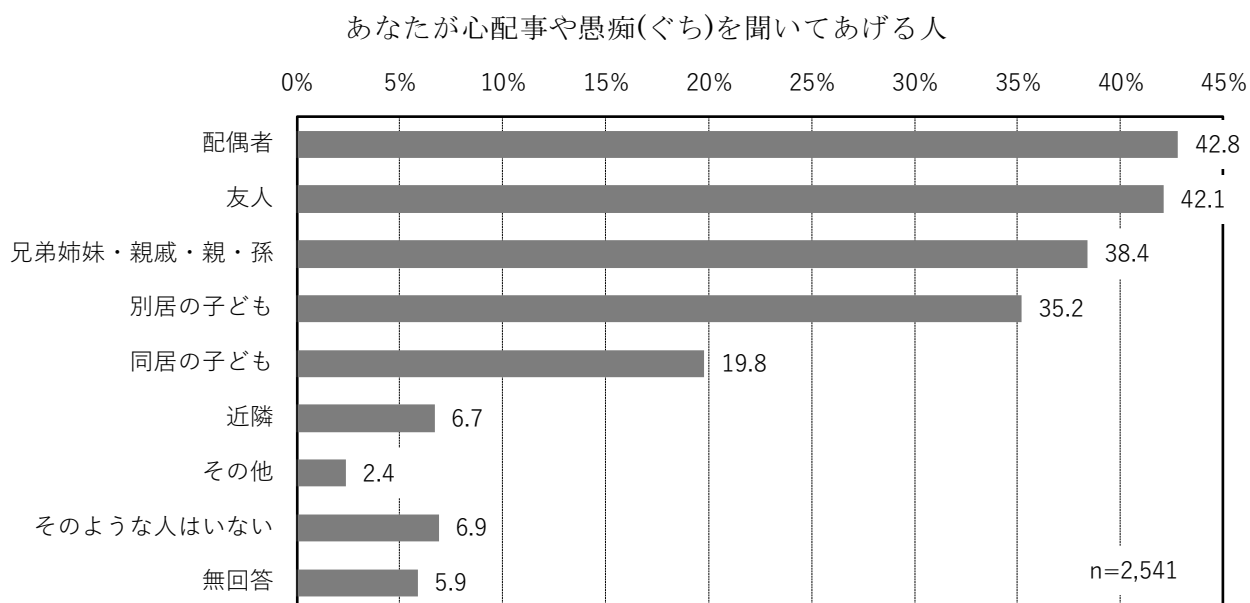
① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

心配事や愚痴を聞いてくれる人について尋ねたところ、最も多く挙げられたのは「配偶者」であり、43.5%となっています。次いで、「友人」(41.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(35.1%)、「別居の子ども」(34.6%)となっています。



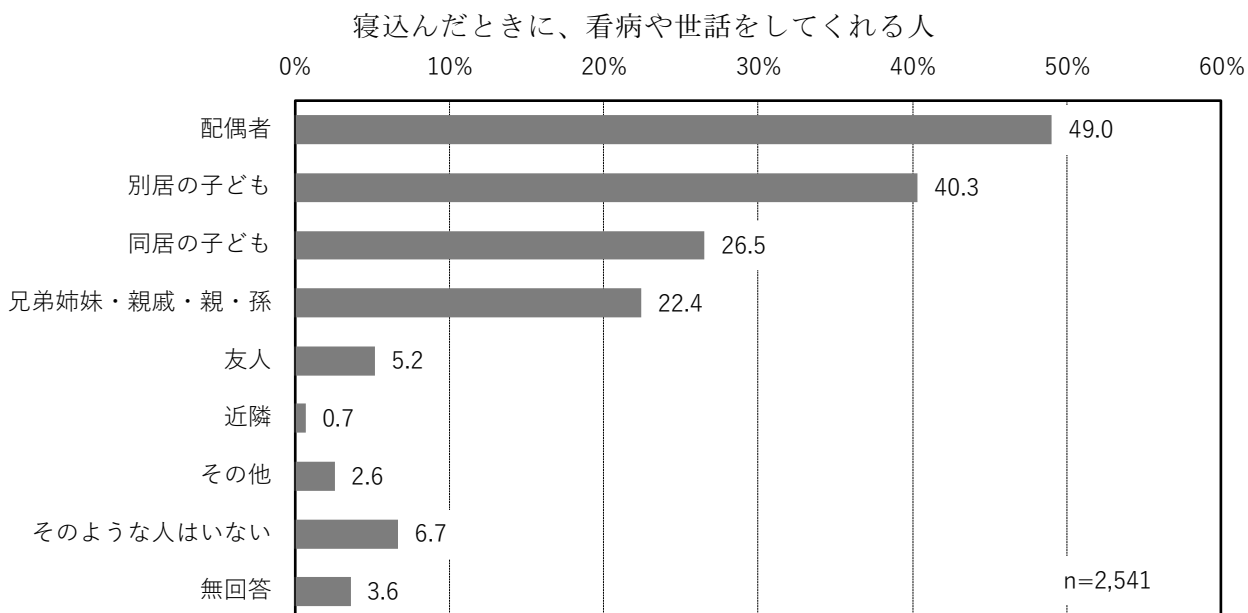
② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、最も多く挙げられたのは「配偶者」であり、42.8%となっています。次いで、「友人」(42.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(38.4%)、「別居の子ども」(35.2%)となっています。



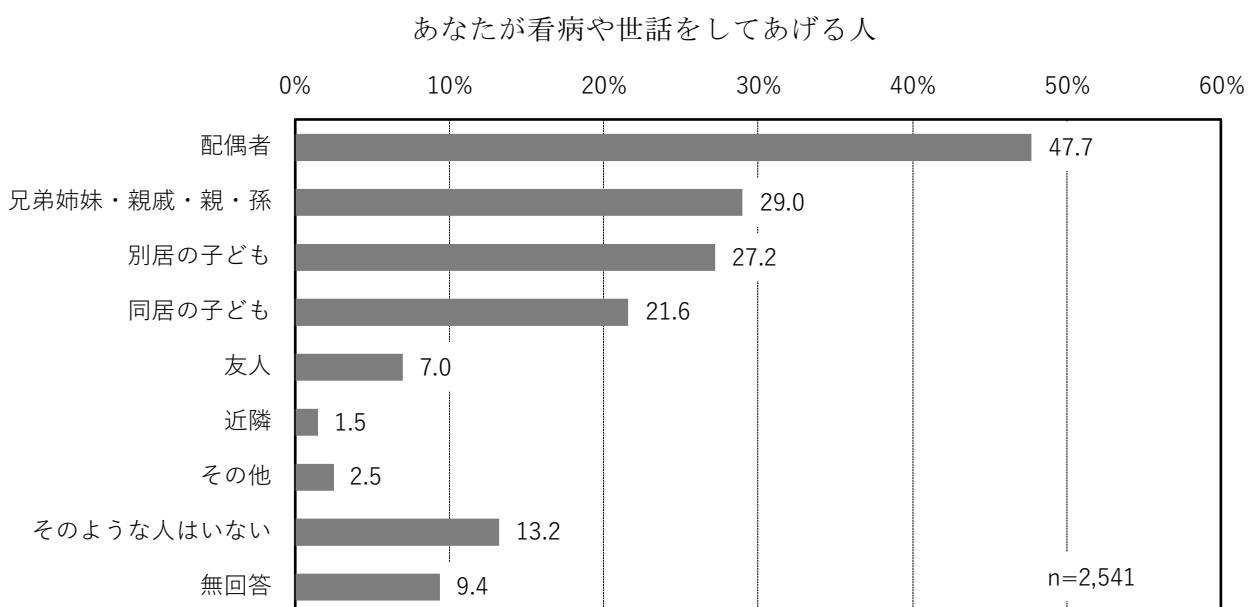
③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

寝込んだときに看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、最も多く挙げられていたのは「配偶者」であり、49.0%となっています。次いで、「別居の子ども」(40.3%)、「同居の子ども」(26.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(22.4%)が続いています。



④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

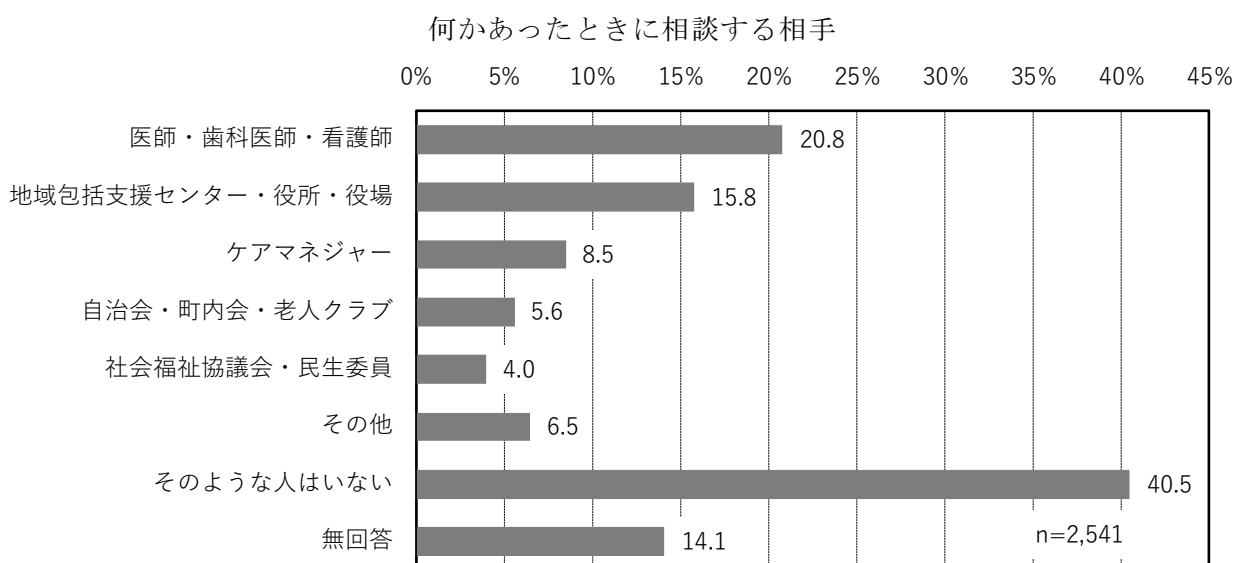
寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねたところ、最も多く挙げられていたのは「配偶者」であり、47.7%となっています。次いで、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.0%)、「別居の子ども」(27.2%)、「同居の子ども」(21.6%)と続いています。



⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手として最も多く挙げられていたのは「医師・歯科医師・看護師」であり、20.8%となっています。次いで、「地域包括支援センター・役所・役場」(15.8%)、「ケアマネジャー」(8.5%)が続いています。

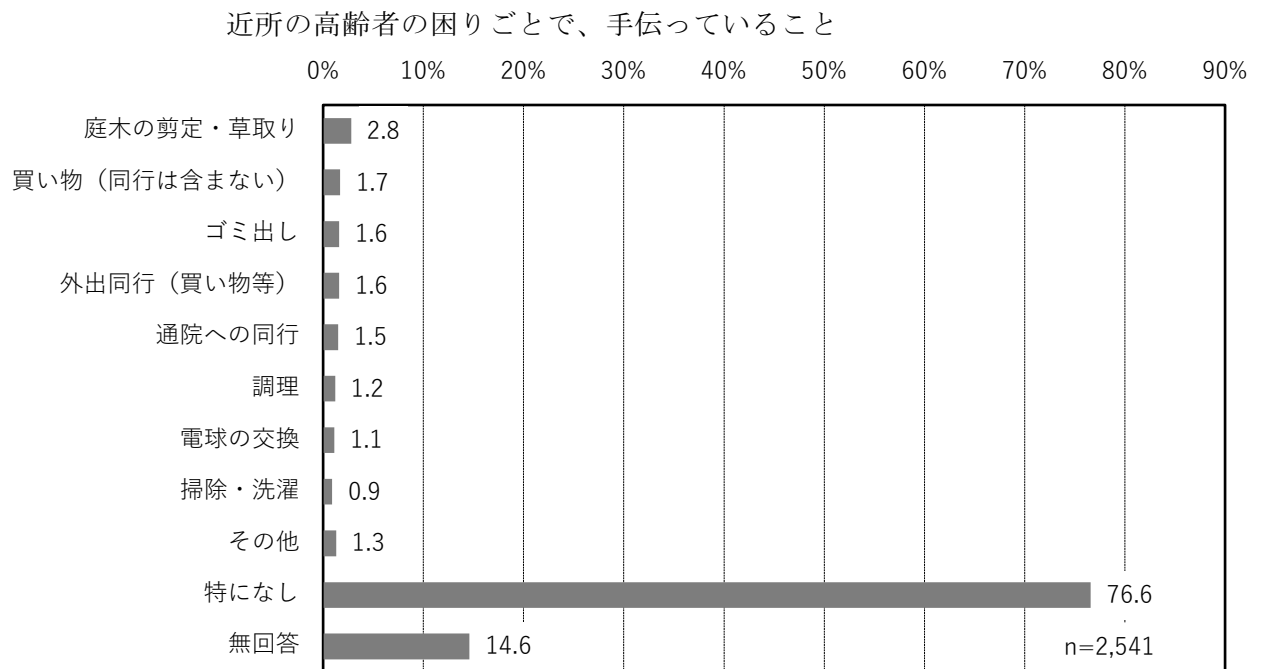
なお、「そのような人はいない」という回答が40.5%となっており、相談相手として家族や友人・知人に限られる高齢者の実態がうかがえます。これらの高齢者については、死別等により身近に相談する相手が失われた瞬間に地域で孤立してしまう可能性が高いと考えられます。



⑥近所の高齢者の困りごとで、現在「手伝っている（有償を含めて）」こと

近所の高齢者の困りごとで手伝っていることを尋ねたところ、「特になし」という回答が76.6%となっています。これと「無回答」（14.6%）を除いた8.8%の人は近所の高齢者の困りごとに対して何らかの手伝いをしていることがわかります。

その内訳としては、「庭木の剪定・草取り」が2.8%と最も多く挙げられています。次いで、「買い物（同行は含まない）」（1.7%）、「ゴミ出し」「外出同行（買い物等）」（1.6%）が続いています。

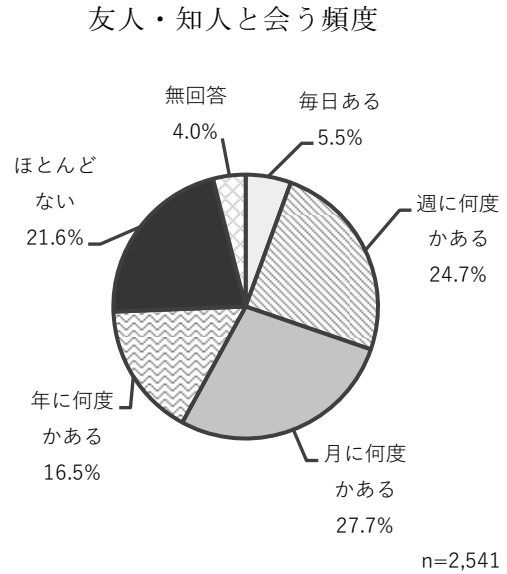


(2) 友人、知人との交流

① 友人、知人と会う頻度

友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が5.5%、「週に何度かある」が24.7%となっており、これらを合わせると概ね3割の人が比較的活発に友人、知人と交流していることが分かります。

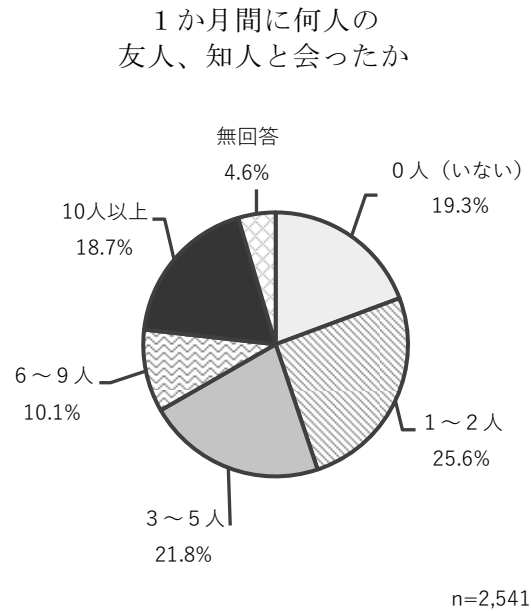
一方、「ほとんどない」と回答した人も21.6%存在しています。



② 1か月間に何人の友人、知人と会ったか

この1か月の間に、何人の友人、知人に会ったかを尋ねたところ、「1～2人」が25.6%で最も高く、「3～5人」が21.8%で続いています。これらを合わせると、47.4%が1～5人の友人、知人と会っていることが分かります。

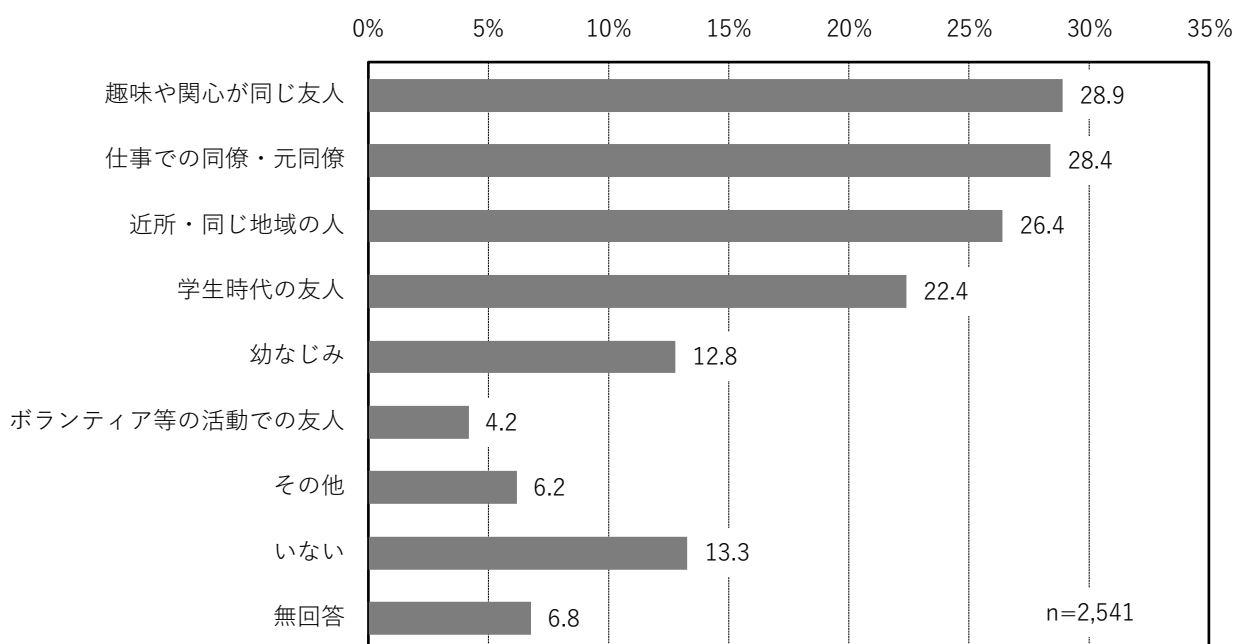
「10人以上」と回答した人が18.7%存在する一方で、「0人(いない)」と回答した人が19.3%おり、個人差が大きいことが分かります。



③ よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人か尋ねたところ、最も多く挙げられたのが「趣味や関心と同じ友人」であり、28.9%となっています。次いで、「仕事での同僚・元同僚」(28.4%)、「近所・同じ地域の人」(26.4%)、「学生時代の友人」(22.4%)が続いています。

よく会う友人・知人との関係性



④隣近所の人とのつきあいの程度

日頃、隣近所の人とどの程度のつきあいがあるか尋ねたところ、最も多く挙げられたのが「会えば立ち話をする程度」、「顔を合わせればあいさつする」であり、ともに33.6%となっています。次いで、「ほとんどつきあいはない」(16.1%)、「簡単な頼みごとをしあうつきあい」(8.3%)が続いています。

隣近所の人とのつきあいの程度 単位：%

		合計 (人)	困りごとを相談するなど家族同様のつきあい	簡単な頼みごとをしあうつきあい	会えば立ち話をする程度	顔を合わせればあいさつする	ほとんどつきあいはない	無回答
全体		2,541	4.8	8.3	33.6	33.6	16.1	3.6
性別	男性	1,111	2.7	6.8	29.3	38.4	19.5	3.2
	女性	1,426	6.5	9.5	36.9	29.8	13.3	3.9
年齢	65～69歳	667	3.4	5.2	29.7	39.7	20.1	1.8
	70～74歳	718	3.6	7.0	33.4	35.0	17.3	3.8
	75～79歳	463	6.5	8.6	36.3	33.5	12.7	2.4
	80～84歳	370	8.4	14.1	34.1	27.6	10.5	5.4
	85歳以上	319	4.1	11.0	37.6	24.8	16.0	6.6
日常生活圏域	北部	385	5.5	8.6	38.4	24.9	16.6	6.0
	中部北	357	4.5	9.2	26.6	38.1	17.1	4.5
	中部南	324	4.6	11.4	35.5	29.9	15.7	2.8
	東部北	368	4.3	5.2	34.2	38.0	16.3	1.9
	東部南	381	3.7	7.6	29.4	37.3	17.6	4.5
	西部北	341	5.3	9.4	35.2	31.4	15.8	2.9
	西部南	381	6.0	7.6	35.7	35.2	13.1	2.4

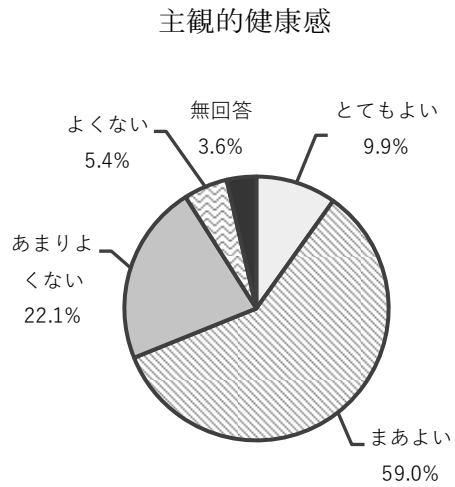
7. 健康について

(1) 主観的健康感

健康状態について尋ねたところ、主観的健康感がよい（「とてもよい」又は「まあよい」と回答した人）割合は68.9%となっています。

年齢別にみると、「とてもよい」「よくない」と回答した人の割合は年齢階層による明確な傾向がみられないものの、「まあよい」との回答は年齢階層が高くなるに従って低下する傾向にあることが分かります。

また、「あまりよくない」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるに従って増加傾向にあります。



n=2,541

主観的健康感（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
全体		2,541	9.9	59.0	22.1	5.4	3.6
性別	男性	1,111	8.6	58.9	21.7	6.7	4.2
	女性	1,426	10.9	59.3	22.2	4.4	3.2
年齢	65～69歳	667	10.6	67.5	16.0	3.4	2.4
	70～74歳	718	8.9	62.4	20.1	4.9	3.8
	75～79歳	463	9.7	56.8	22.5	6.3	4.8
	80～84歳	370	11.9	48.1	28.6	7.3	4.1
	85歳以上	319	8.5	50.2	30.4	7.2	3.8
日常生活圏域	北部	385	8.8	60.8	21.3	6.0	3.1
	中部北	357	8.4	58.8	24.1	5.3	3.4
	中部南	324	7.4	60.2	23.8	5.9	2.8
	東部北	368	9.8	57.9	23.9	5.7	2.7
	東部南	381	11.0	61.4	18.4	4.2	5.0
	西部北	341	10.6	59.8	18.8	6.5	4.4
	西部南	381	12.9	54.9	23.9	4.5	3.9

(2) 主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答していただきました。

「10点」（とても幸せ）と回答した人の割合は、全体では16.9%となっています。性別にみると、男性（14.1%）に比べて女性（19.1%）の方が「10点」（とても幸せ）と回答した人の割合が高くなっています。また、年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従って「10点」（とても幸せ）と回答した人の割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では25.1%となっています。

さらに、日常生活圏域別にみると、「10点」（とても幸せ）と回答した人の割合は、「西部北」が19.4%で最も高くなっており、次いで「東部北」（18.2%）、「西部南」（17.6%）、「中部北」（17.4%）、「東部南」（17.3%）と続いています。

一方、主観的幸福感が低い（3点以下）であるのは、日常生活圏域別では「西部北」（8.0%）が最も高く、「西部北」は主観的幸福感が高い人と低い人のバラツキが他の圏域に比べて高い傾向にあることが分かります。

主観的幸福感（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

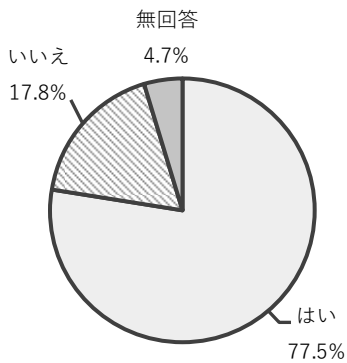
		合計 (人)	0点 (幸福ではない)	1点～3点 (やや幸福ではない)	4点～6点 (普通)	7点～9点 (やや幸せ)	10点 (とても幸せ)	無回答
全体		2,541	0.8	5.2	31.2	38.1	16.9	7.8
性別	男性	1,111	0.9	6.7	34.7	35.5	14.1	8.1
	女性	1,426	0.7	4.1	28.5	40.3	19.1	7.4
年齢	65～69歳	667	0.6	6.1	34.3	43.2	11.1	4.6
	70～74歳	718	1.0	5.6	31.9	39.1	15.5	7.0
	75～79歳	463	0.6	4.5	29.2	40.0	16.6	9.1
	80～84歳	370	1.1	3.5	27.3	33.5	23.5	11.1
	85歳以上	319	0.6	5.3	30.7	28.2	25.1	10.0
日常生活圏域	北部	385	1.0	4.4	30.9	40.0	14.5	9.1
	中部北	357	0.6	4.8	36.4	34.5	17.4	6.4
	中部南	324	0.3	7.1	34.6	36.1	13.9	8.0
	東部北	368	1.4	6.5	27.4	39.1	18.2	7.3
	東部南	381	0.3	4.2	28.3	42.5	17.3	7.3
	西部北	341	1.5	6.5	29.9	34.9	19.4	7.9
	西部南	381	0.5	3.4	31.5	39.1	17.6	7.9

(3) 人とふれあう機会・頻度

人とふれあう機会の有無について尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は77.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は17.8%となっています。

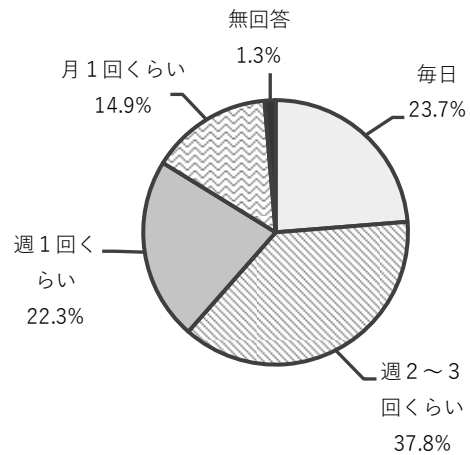
日頃外出したり、誰かが訪ねてきたりするなど、人とふれあう機会がある人に、人とふれあう機会の頻度を尋ねたところ、「毎日」「週2～3回」「週1回くらい」と回答した人の割合は83.8%となっています。

人とふれあう機会の有無



n=2,541

人とふれあう機会の頻度



n=1,970

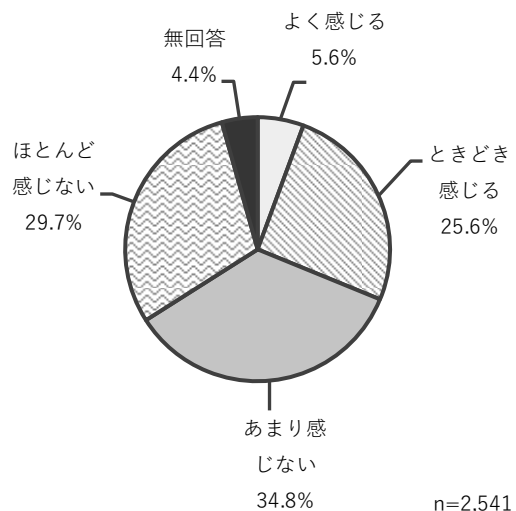
(4) 孤独感の有無

孤独感を「よく感じる」「ときどき感じる」と回答した人の割合は31.2%となっています。

一方、「あまり感じない」「ほとんど感じない」と回答した人の割合は64.5%となっています。

孤独感について家族構成別にみると、孤独を「よく感じる」は、「1人暮らし」が最も高く12.7%あるほか、「ときどき感じる」が35.9%あり、これらを合わせると48.6%を占めています。

孤独感の有無



n=2,541

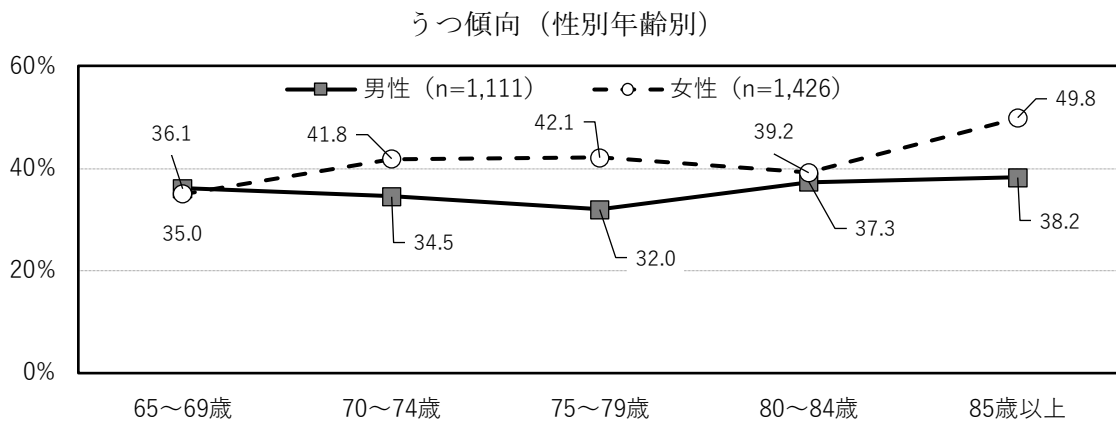
孤独感の有無（家族構成別） 単位：%

		合計 (人)	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
家族構成	全体	2,541	5.6	25.6	34.8	29.7	4.4
	1人暮らし	621	12.7	35.9	28.5	19.0	3.9
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	818	3.5	21.8	35.5	34.6	4.6
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	80	3.8	15.0	33.8	41.3	6.3
	配偶者以外と2人暮らし	214	3.7	28.5	35.0	29.4	3.3
	3人以上の同居世帯	642	2.5	20.4	38.2	35.0	3.9
	その他	114	3.5	25.4	42.1	20.2	8.8

(5) うつ傾向（リスク者）

下記の設問で1問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

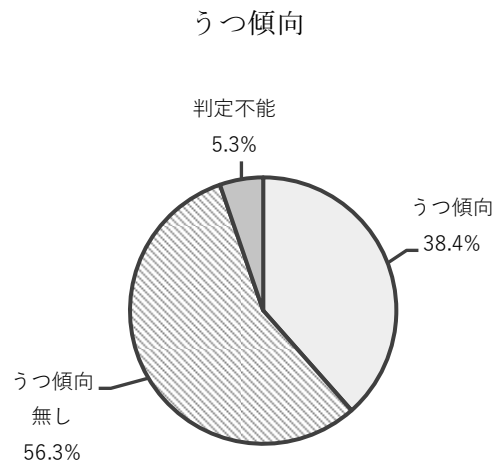
設問内容	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ



うつ傾向のリスク者は 38.4% となっています。

性別年齢別をみると、70歳以降ではすべての年齢階層で男性に比べて女性の方がリスク者の割合が高く推移しています。

女性の85歳以上ではリスク者の割合がほぼ半数（49.8%）と急増しているものの、年齢階層による明らかな傾向はみられません。



n=2,541

(6) 喫煙、飲酒の状況

① 喫煙の状況

現在喫煙している人の割合は 10.3% となっています。

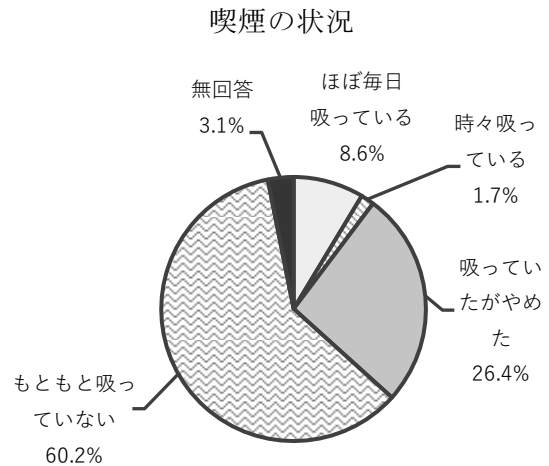
喫煙経験者は 36.7% であることを踏まえると、過去に喫煙した経験のある人の 71.9% は禁煙（卒煙）していることが分かります。

現在喫煙している人のうち 83.5% は「ほぼ毎日吸っている」と回答しており、いわゆる「ニコチン依存」の状態になっている可能性が高いと考えられます。

性別年齢別にみると、「ほぼ毎日吸っている」と回答した人は女性（3.9%）に比べて男性（14.7%）の方が大幅に高いことが分かります。

年齢階層が高くなるに従って「ほぼ毎日吸っている」と回答した人の割合が低くなる傾向にあります。本調査の対象者は要介護認定を受けていない高齢者であることに注意が必要です。

「もともと吸っていない」と回答した人の割合が年齢階層が高くなるに従って増加していますが、このことは、喫煙者が要介護認定を受けて調査対象から外れている可能性を示唆しています。



n=2,541

喫煙の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	ほぼ毎日吸 っている	時々吸って いる	吸っていたが やめた	もともと吸 っていない	無回答
全体		2,541	8.6	1.7	26.4	60.2	3.1
性別	男性	1,111	14.7	2.3	47.8	31.9	3.4
	女性	1,426	3.9	1.2	9.7	82.3	2.9
年齢	65～69歳	667	12.4	2.5	30.9	52.2	1.9
	70～74歳	718	12.3	2.6	26.6	55.8	2.6
	75～79歳	463	6.3	0.6	24.8	63.9	4.3
	80～84歳	370	2.4	0.3	24.1	69.7	3.5
	85歳以上	319	2.8	0.6	21.6	70.5	4.4
日常生活圏域	北部	385	8.3	1.3	26.0	62.1	2.3
	中部北	357	9.0	1.1	28.6	59.1	2.2
	中部南	324	13.0	1.5	23.8	58.3	3.4
	東部北	368	6.0	2.7	27.7	60.6	3.0
	東部南	381	7.9	1.6	29.1	57.5	3.9
	西部北	341	7.9	1.5	24.3	63.3	2.9
	西部南	381	8.7	1.8	24.9	60.6	3.9

②飲酒の状況

現在飲酒している人（「ほぼ毎日飲む」又は「時々飲む」と回答した人）の割合は30.4%となっています。

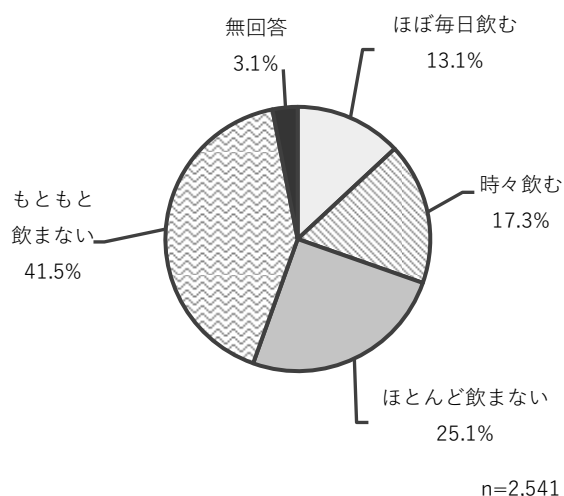
一方、「もともと飲まない」と回答した人の割合は41.5%であり、「ほとんど飲まない」（25.1%）と合わせると66.6%となっています。

性別で見ると、「ほぼ毎日飲む」と回答した女性は3.4%に過ぎず、圧倒的に男性（25.6%）の飲酒者が多いことがわかります。

年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従って「ほぼ毎日飲む」と回答した人の割合は減少する傾向にあります。

但し、「もともと飲まない」と回答した人が年齢階層が高くなるに従って増加していることから、喫煙状況と同様、飲酒者の一部が要介護認定を受けることによって調査対象から外れている可能性があることに注意が必要です。

飲酒の状況



飲酒の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

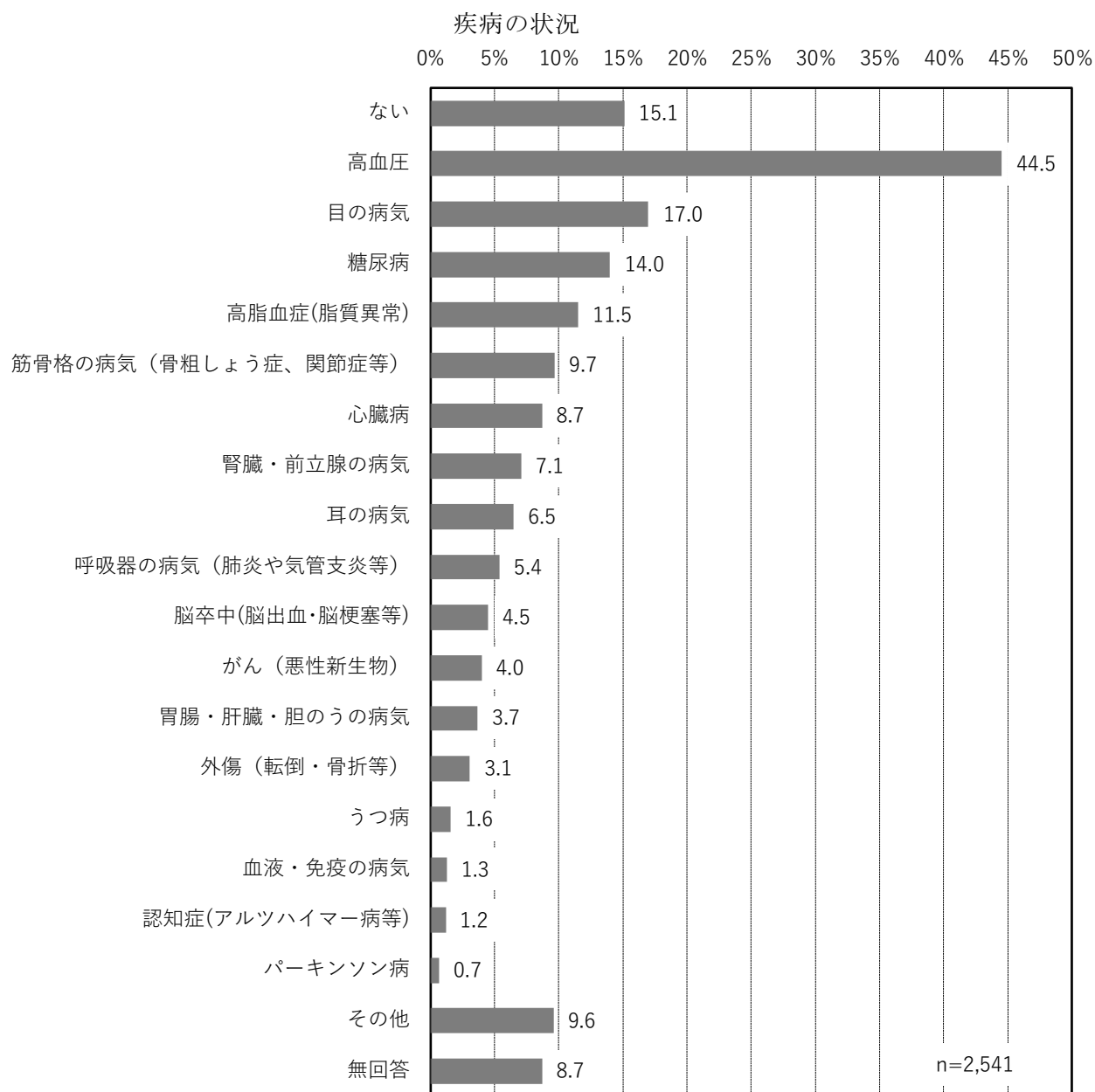
	合計 (人)	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど飲まない	もともと飲まない	無回答	
全体	2,541	13.1	17.3	25.1	41.5	3.1	
性別	男性	1,111	25.6	24.1	29.3	17.3	3.8
	女性	1,426	3.4	12.0	21.8	60.3	2.5
年齢	65～69歳	667	20.4	20.8	22.6	34.2	1.9
	70～74歳	718	15.5	19.4	26.9	35.8	2.5
	75～79歳	463	8.6	16.6	30.5	39.7	4.5
	80～84歳	370	7.6	14.9	24.6	50.0	3.0
	85歳以上	319	5.3	9.1	18.8	62.1	4.7
日常生活圏域	北部	385	11.7	17.4	24.2	43.6	3.1
	中部北	357	14.3	15.7	24.9	42.9	2.2
	中部南	324	12.7	16.7	24.4	43.5	2.8
	東部北	368	14.1	17.1	27.2	37.5	4.1
	東部南	381	16.8	19.2	24.4	36.7	2.9
	西部北	341	9.7	19.9	24.6	42.8	2.9
	西部南	381	12.1	15.2	25.7	43.6	3.4

(7) 疾病の状況

① 全体的な状況

疾病の状況をみると、「高血圧」が 44.5%を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に多く挙げられています。次いで、「目の病気」、「糖尿病」、「高脂血症(脂質異常)」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が続いています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、糖尿病や目の病気の予防を元気なうちから行うことが肝要です。

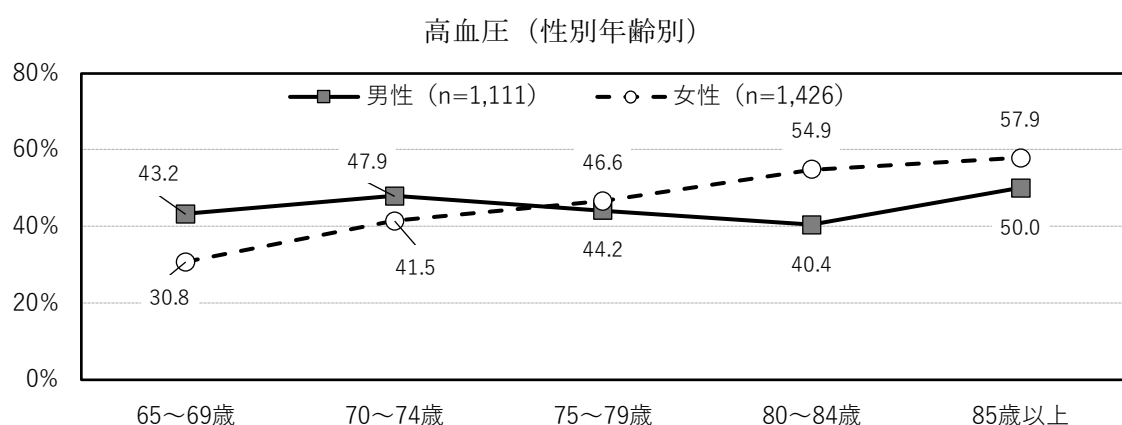


疾病の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：％

		合計 (人)	高血圧	脳卒中(脳出 血・脳梗塞 等)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂 質異常)
男 性	男性	1,111	45.0	6.2	10.7	16.9	9.4
	65～69歳	310	43.2	4.2	8.4	16.8	12.3
	70～74歳	328	47.9	6.1	8.2	17.1	11.3
	75～79歳	197	44.2	8.6	16.2	17.8	7.1
	80～84歳	166	40.4	8.4	12.0	16.3	6.6
	85歳以上	110	50.0	4.5	12.7	16.4	3.6
女 性	女性	1,426	44.1	3.2	7.0	11.8	13.1
	65～69歳	357	30.8	2.5	3.6	10.9	10.9
	70～74歳	390	41.5	2.8	6.2	12.6	14.6
	75～79歳	266	46.6	5.6	6.4	13.9	15.4
	80～84歳	204	54.9	2.5	8.3	10.8	11.8
	85歳以上	209	57.9	2.4	13.9	10.0	12.4

②高血圧

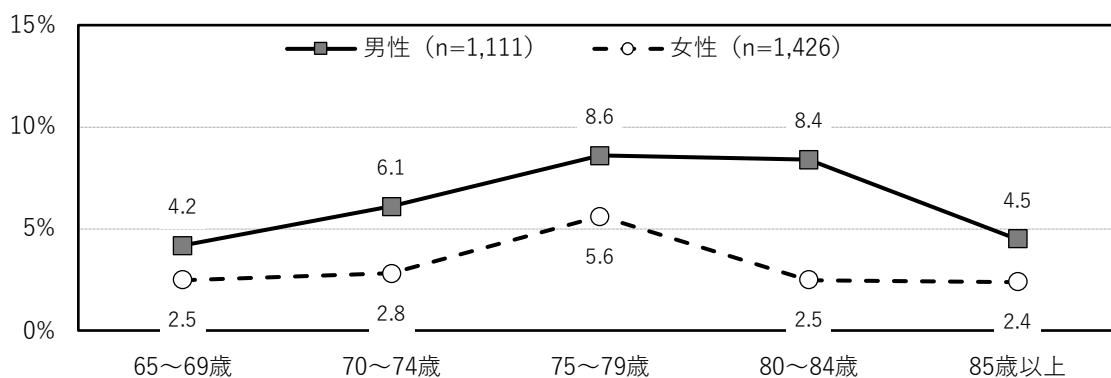
高血圧の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は45.0%、女性は44.1%で、男女の差はほとんどありません。性別年齢別で見ると、男性は年齢階層による明確な傾向がみられませんが、女性に比べてより若年から高血圧である人の割合が高いという特徴があります。一方、女性は65～69歳では30.8%であったのが、年齢階層が高くなるに従って緩やかに高血圧の該当者が増加し、85歳以上では57.9%となっています。



③脳卒中（脳出血・脳梗塞等）

脳卒中の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は6.2%、女性は3.2%で、女性に比べて男性の方が高くなっています。性別年齢別で見ると、全ての年齢階層で女性よりも男性が上回って推移しています。年齢階層による明確な傾向はみられません。

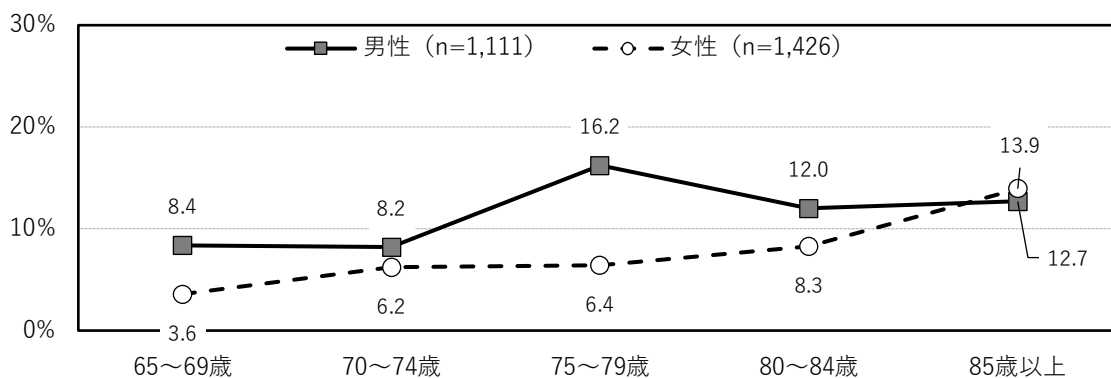
脳卒中(脳出血・脳梗塞等) (性別年齢別)



④心臓病

心臓病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は10.7%、女性は7.0%で、男性の方が高くなっています。性別年齢別で見ると、85歳以上を除き、全ての年齢階層で女性より男性が上回って推移しています。

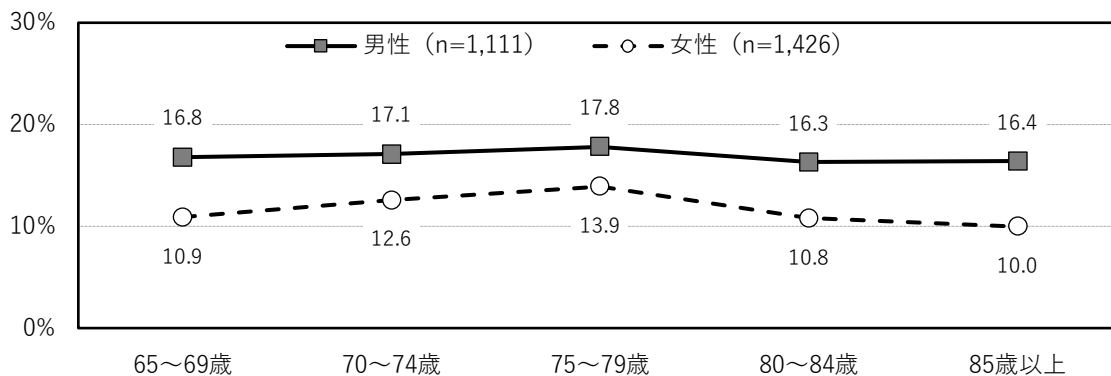
心臓病 (性別年齢別)



⑤糖尿病

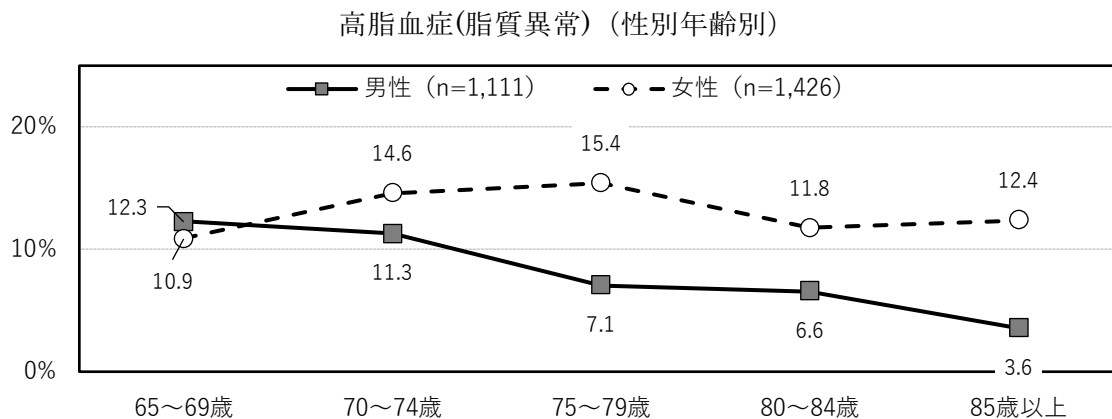
糖尿病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は16.9%、女性は11.8%で、男性の方が高くなっています。性別年齢別で見ると、全ての年齢階層で女性よりも男性が上回って推移しています。

糖尿病 (性別年齢別)



⑥高脂血症（脂質異常）

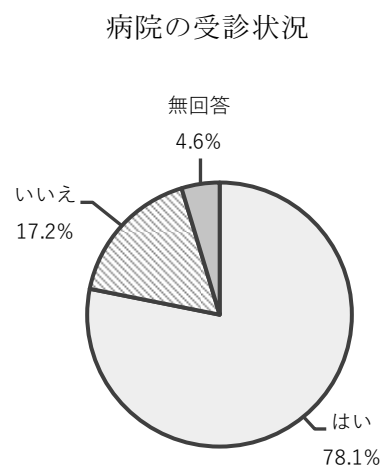
高脂血症の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は9.4%、女性は13.1%で、女性の方が高くなっています。65～69歳を除き全ての年齢階層で男性よりも女性が上回って推移しています。男性は年齢階層が高くなるに従って高脂血症の該当者の割合が低下しています。



(8) 病院の受診

①病院の受診状況

病院の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が78.1%、「いいえ(受診していない)」が17.2%となっており、8割弱が病院で治療を受けています。

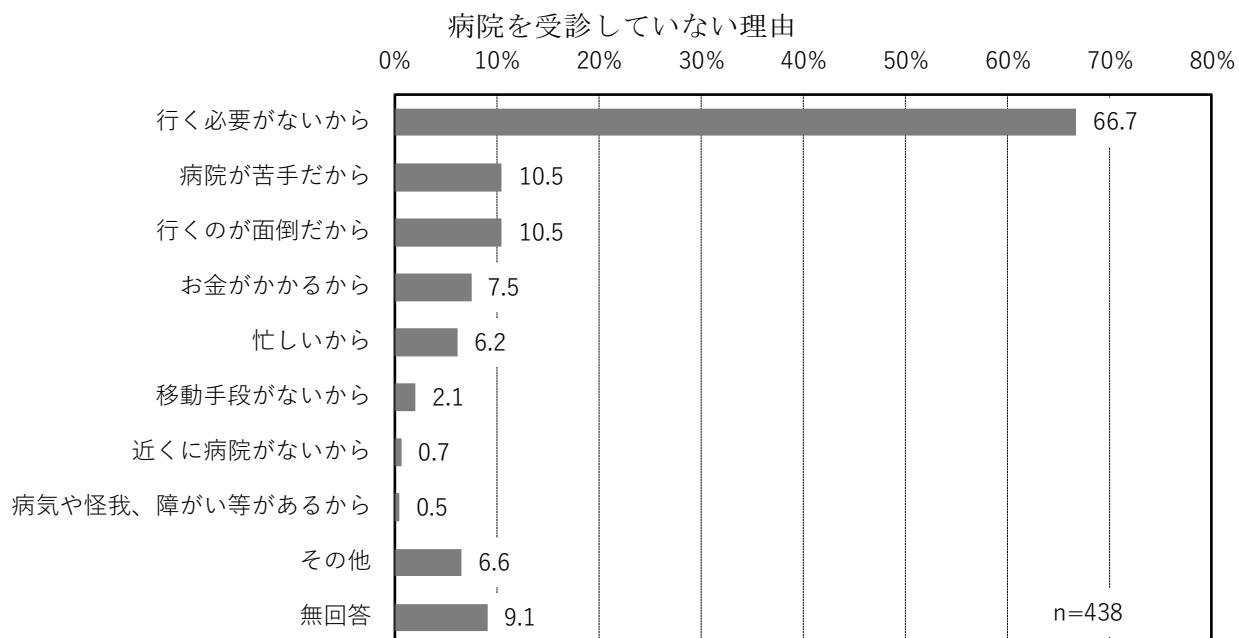


n=2,541

②病院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に病院を受診していない理由について尋ねると、「病院が苦手だから」「行くのが面倒だから」と回答した人が最も多く、ともに10.5%となっています。

次いで、「お金がかかるから」(7.5%)、「忙しいから」(6.2%)が続いています。



(9) 耳の聞こえ

① 耳の聞こえの状況

最近耳の聞こえが悪くなったと感じることがあるかと尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は37.7%となっています。年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従って、最近耳の聞こえが悪くなったと感じることがある人の割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では57.1%となっています。

最近耳の聞こえが悪くなったと感じる人に、耳鼻科受診や補聴器の活用の状況を尋ねたところ、年齢階層が高くなるに従って耳鼻科受診や補聴器の活用が増加しています。

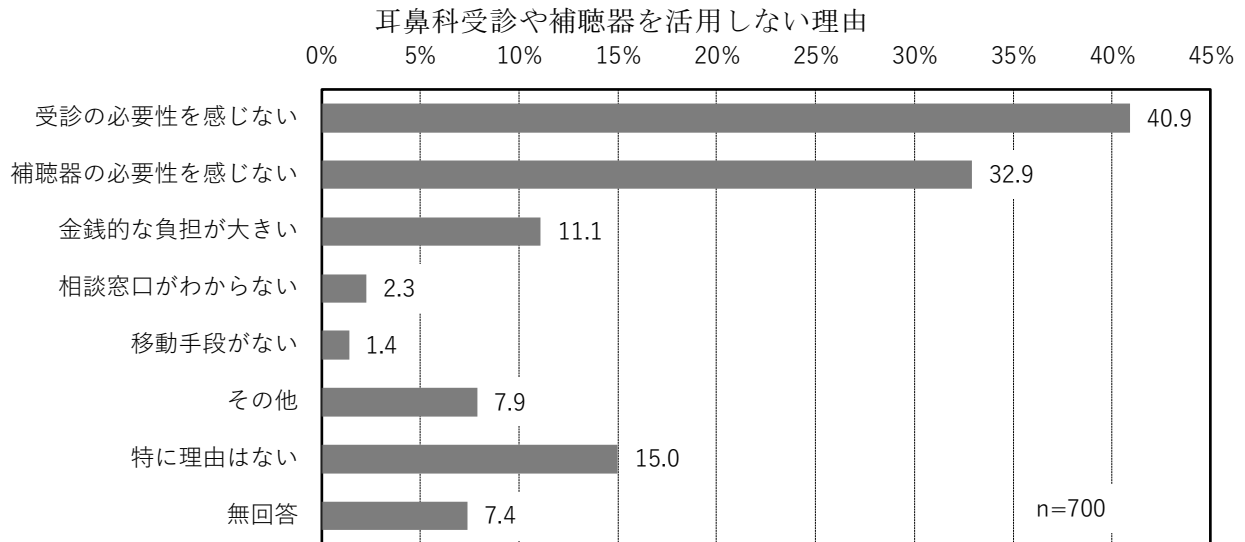
耳の聞こえの状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	はい	いいえ	無回答
全体		2,541	37.7	57.0	5.3
性別	男性	1,111	41.1	54.6	4.2
	女性	1,426	35.1	58.8	6.0
年齢	65～69歳	667	29.8	66.4	3.7
	70～74歳	718	31.6	63.0	5.4
	75～79歳	463	39.7	55.5	4.8
	80～84歳	370	44.9	47.6	7.6
	85歳以上	319	57.1	37.0	6.0
日常生活圏域	北部	385	39.5	54.3	6.2
	中部北	357	39.5	56.0	4.5
	中部南	324	36.4	59.3	4.3
	東部北	368	36.1	58.7	5.2
	東部南	381	35.7	57.7	6.6
	西部北	341	39.9	54.5	5.6
	西部南	381	37.3	58.5	4.2

耳鼻科受診や補聴器の活用の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	はい	いいえ	無回答
全体		958	25.4	73.1	1.6
性別	男性	457	24.3	74.0	1.8
	女性	501	26.3	72.3	1.4
年齢	65～69歳	199	20.6	77.9	1.5
	70～74歳	227	23.8	75.3	0.9
	75～79歳	184	25.5	72.8	1.6
	80～84歳	166	28.3	69.9	1.8
	85歳以上	182	29.7	68.1	2.2
日常生活圏域	北部	152	23.0	74.3	2.6
	中部北	141	27.0	73.0	0.0
	中部南	118	28.8	69.5	1.7
	東部北	133	27.8	70.7	1.5
	東部南	136	25.7	74.3	0.0
	西部北	136	22.1	75.7	2.2
	西部南	142	23.9	73.2	2.8

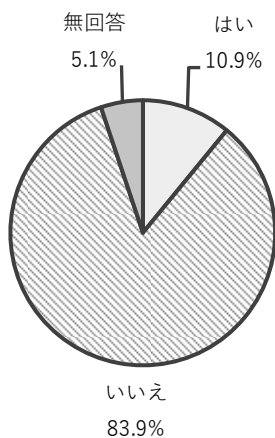
耳鼻科受診や補聴器を活用しないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「受診の必要性を感じない」(40.9%)、「補聴器の必要性を感じない」(32.9%)など、自身が耳鼻科受診や補聴器の必要性を感じていないことがうかがえます。



8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

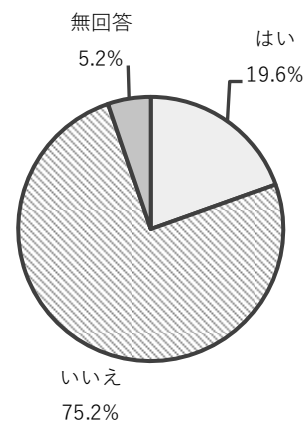
家族に認知症の方がいるか尋ねたところ、10.9%の人が「はい」と回答しています。
また、認知症に関する相談窓口の認知について尋ねたところ、「はい(知っている)」という回答は19.6%となっています。

家族に認知症の方がいるか



n=2,541

認知症に関する
相談窓口を知っているか



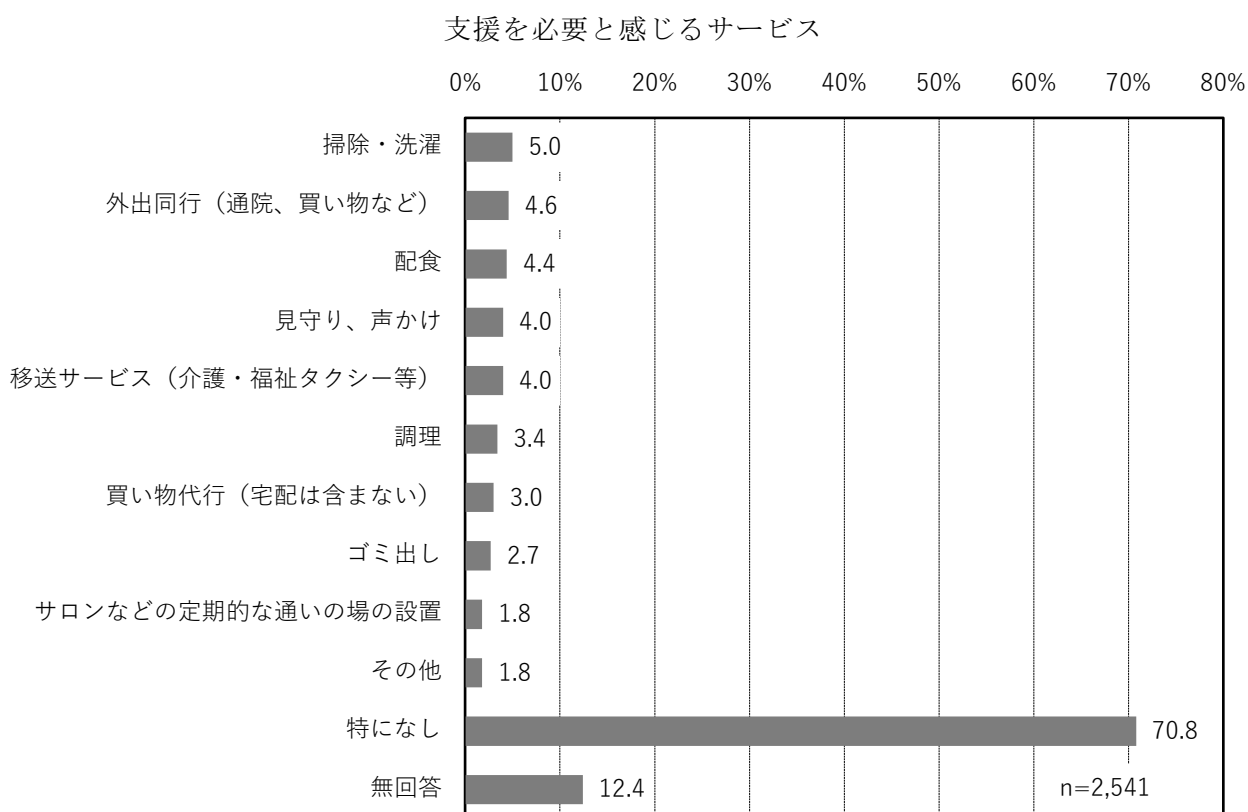
n=2,541

9. 必要な支援・情報について

(1) 支援を必要と感じるサービス

支援を必要と感じるサービスについて尋ねたところ、70.8%の人が「特になし」と答えています。これと「無回答」(12.4%)をのぞく16.8%の人は、何らかの支援を必要と感じています。

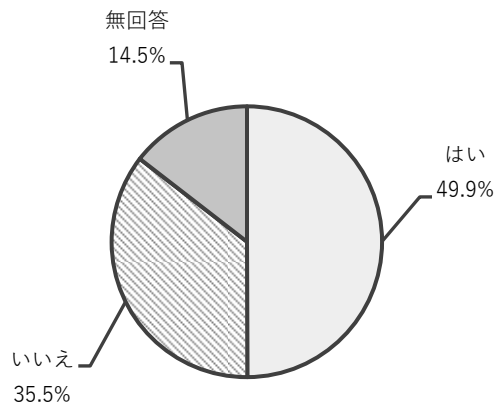
支援を必要とするサービスの内訳として、「掃除・洗濯」と回答した人が最も多く、5.0%となっています。次いで、「外出同行（通院、買い物など）」(4.6%)、「配食」(4.4%)が続いています。



(2) 介護予防の教室や地域活動の情報の取得

沖縄市の介護予防の教室や地域活動の情報を得ることができるか尋ねたところ、「はい」が49.9%、「いいえ」が35.5%となっており、約5割の方が情報を得ていることが分かります。

介護予防の教室や地域活動の情報を得ることができるか

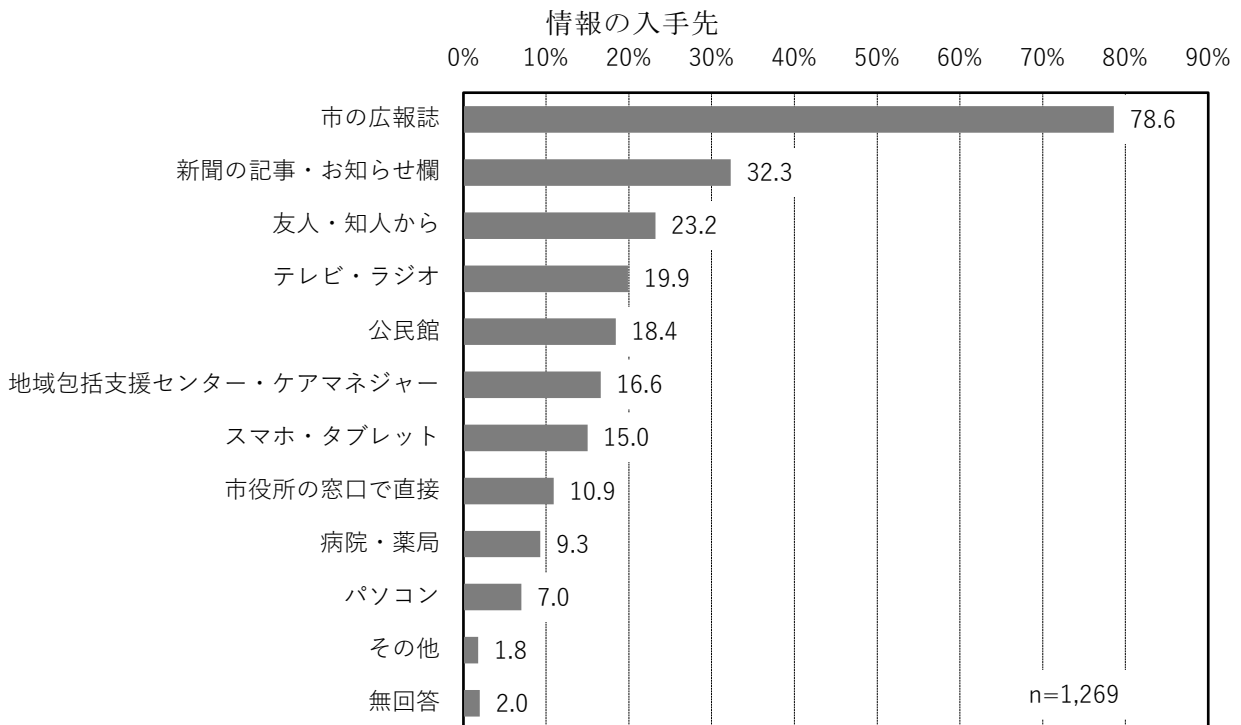


n=2,541

① どのようなものから情報を得ているか

沖縄市の介護予防の教室や地域活動の情報を得ることができるかと答えた人に、どのようなものから情報を得ているか尋ねたところ、「市の広報誌」と回答した人が最も多く、78.6%となっています。

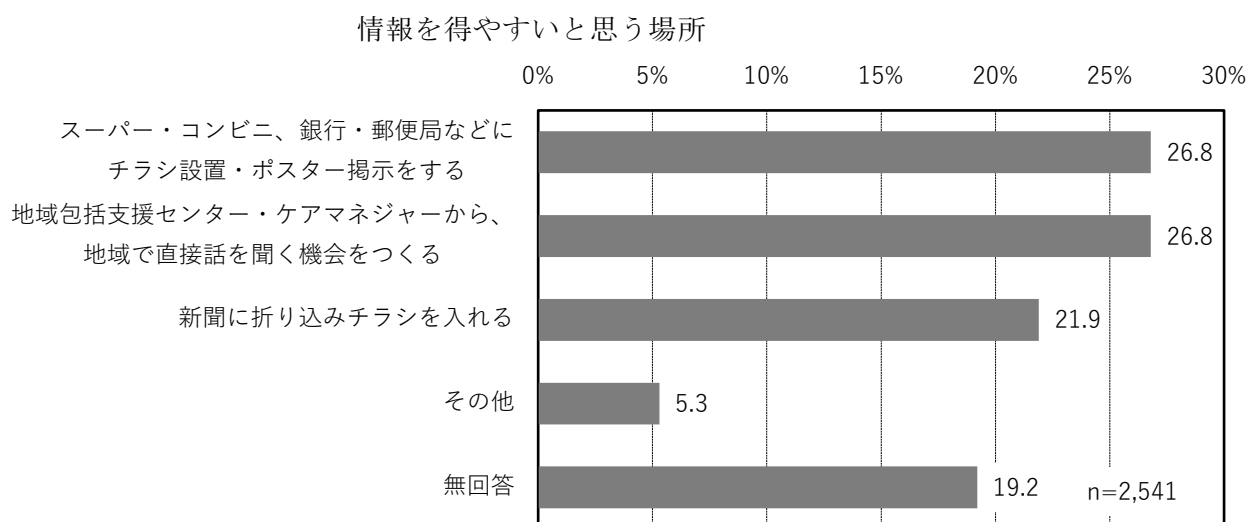
次いで、「新聞の記事・お知らせ欄」(32.3%)、「友人・知人から」(23.2%)が続いています。



②情報を得やすいと思う場所

介護予防や地域活動に関する情報が必要になった場合、どのような場所なら情報を得やすいと思うか尋ねたところ、「スーパー・コンビニ、銀行・郵便局などにチラシ設置・ポスター掲示をする」、「地域包括支援センター・ケアマネジャーから、地域で直接話を聞く機会をつくる」と挙げた人が最も多く、それぞれ26.8%となっています。

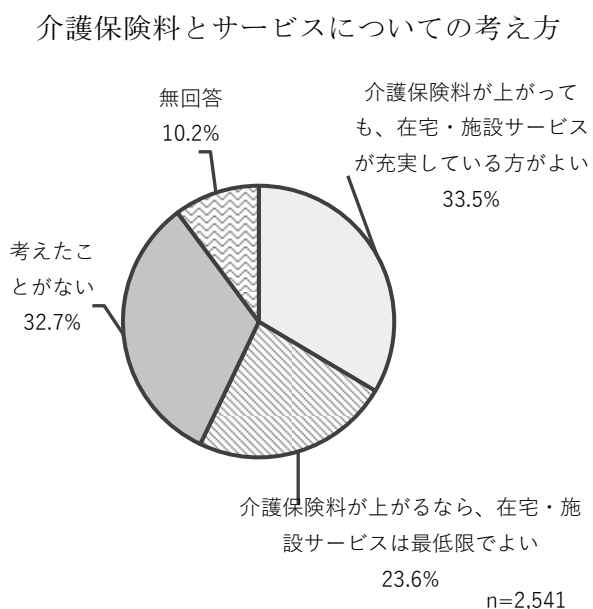
次いで、「新聞に折り込みチラシを入れる」(21.9%)が続いています。



(3) 介護保険料とサービスの関係についての考え方

介護保険料とサービスの関係について尋ねたところ、「介護保険料が上がっても、在宅・施設サービスが充実している方がよい」と回答した人の割合が最も高く、33.5%となっています。

次いで、「考えたことがない」(32.7%)、「介護保険料が上がるなら、在宅・施設サービスは最低限でよい」(23.6%)と続いています。

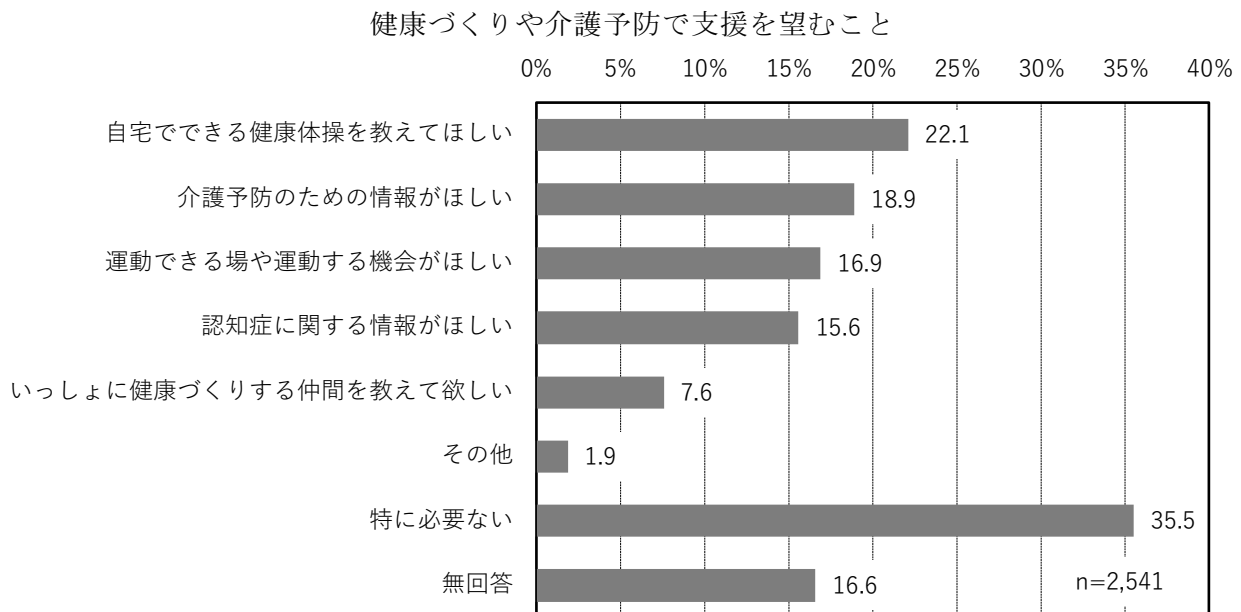


10. その他

(1) 健康づくりや介護予防で支援を望むこと

健康づくりや介護予防で支援を望むことを尋ねたところ、最も多く挙げられたのは「自宅でできる健康体操を教えてほしい」であり、22.1%となっています。

次いで、「介護予防のための情報がほしい」(18.9%)、「運動できる場や運動する機会がほしい」(16.9%)、「認知症に関する情報がほしい」(15.6%)が続いています。



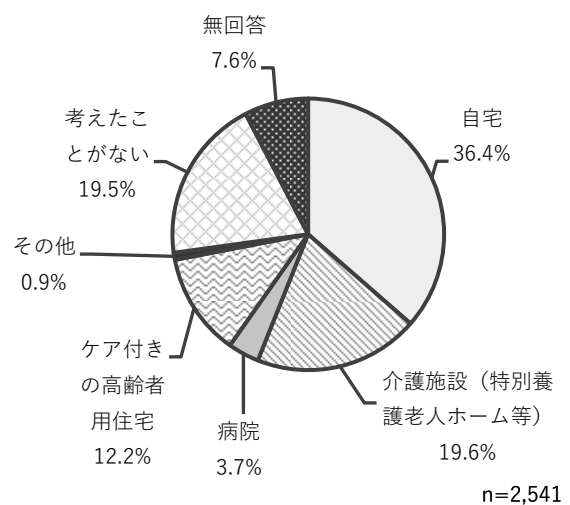
(2) 介護が必要になった場合に生活したい場所

介護が必要になった場合に生活したい場所として、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、36.4%となっています。

次いで、「介護施設（特別養護老人ホーム等）」(19.6%)が続いています。

一方、19.5%の人が「考えたことがない」と回答しています。

介護が必要になった場合に生活したい場所

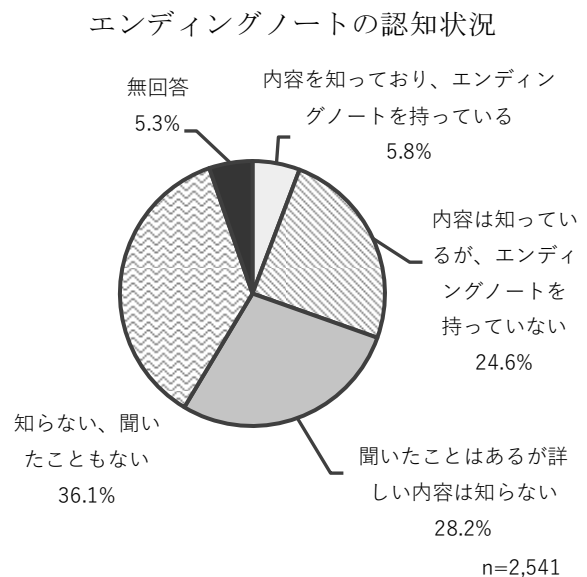
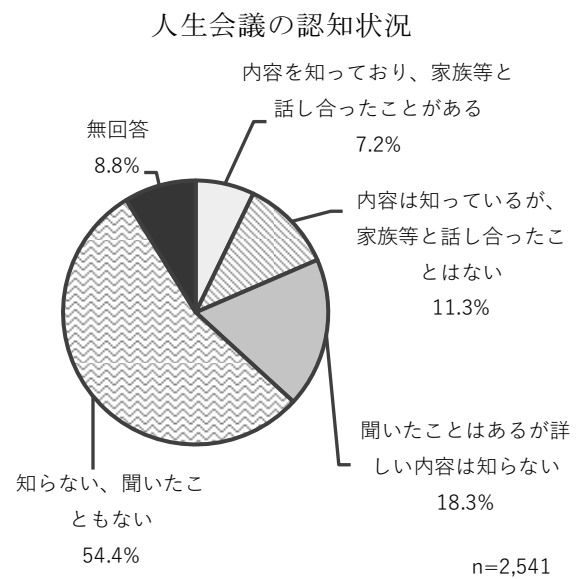
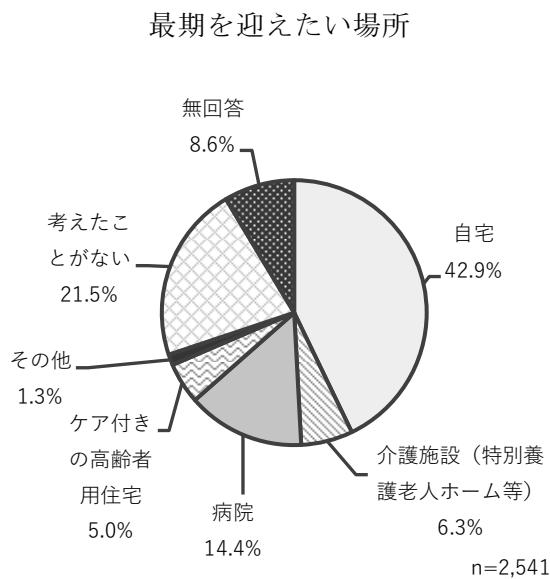


(3) 最期の迎え方について

最期を迎えたい場所は、「自宅」が42.9%で最も高く、次いで、「病院」が14.4%となっています。一方、21.5%が「考えたことがない」と回答しています。

人生会議の認知状況は、「知らない、聞いたこともない」が過半数(54.4%)を占めています。内容を知っている人の割合は18.5%であり、さらに家族等と話し合ったことがある人の割合は7.2%に留まっています。

エンディングノートの認知状況は、「知らない、聞いたこともない」と回答した人の割合が36.1%となっている一方で、エンディングノートを持っている人の割合は5.8%に留まります。



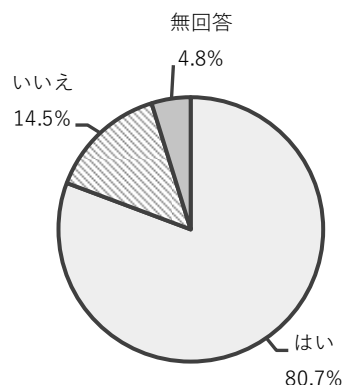
(4) 携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等について

携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等を所持している割合は80.7%となっています。

携帯電話等を所持している人のアプリ使用では、「LINE(ライン)」がほぼ半数(51.2%)の利用率となっています。

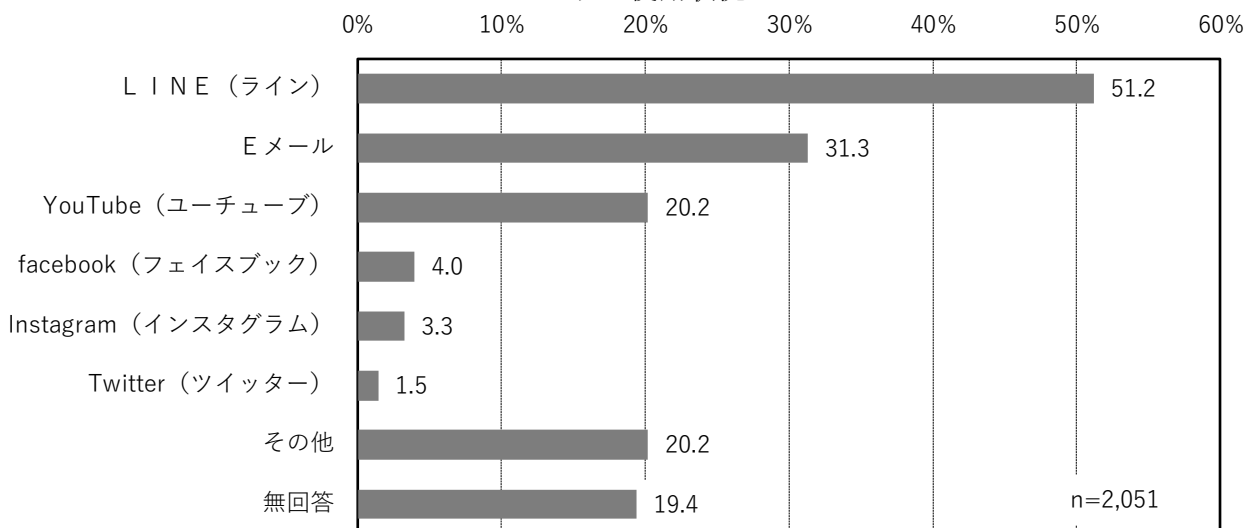
次いで、「Eメール」(31.3%)、「YouTube(ユーチューブ)」(20.2%)と続いています。

携帯電話等の所持状況



n=2,541

アプリの使用状況



(5) 新型コロナウイルス禍による影響について

新型コロナウイルス禍による悪影響(「深刻な悪影響があった」と「ある程度の悪影響があった」の和)が最も高かったのは「⑤ 友人・知人とのつながり」(38.5%)であり、次いで高かった「④ 家族や親族とのつながり」(37.6%)とともに、家族や友人等とのつながりに大きな影響があったことが分かります。

新型コロナウイルス禍の前と比べて日常生活に悪影響があったか 単位：%

	深刻な悪影響があった	ある程度の悪影響があった	あまり悪影響はなかった	全く悪影響はなかった	無回答
① からだの健康 (運動量、体力、物忘れ、持病)	3.4	21.9	28.2	26.8	19.8
② こころの健康 (気力、生きがい、孤独感、幸福度)	3.0	19.5	29.9	26.3	21.3
③ 仕事・趣味・生きがい活動の制限	5.5	25.1	26.4	21.9	21.1
④ 家族や親族とのつながり	6.1	31.5	23.2	21.3	17.9
⑤ 友人・知人とのつながり	5.6	32.9	23.8	18.9	18.9
⑥ 地域活動への参加	3.5	15.1	24.4	28.3	28.6
⑦ 外出(買い物、病院受診、相談など)の制限	4.1	29.0	26.5	21.4	19.1
⑧ 経済面 (収入減)	7.4	18.1	29.9	23.5	21.1

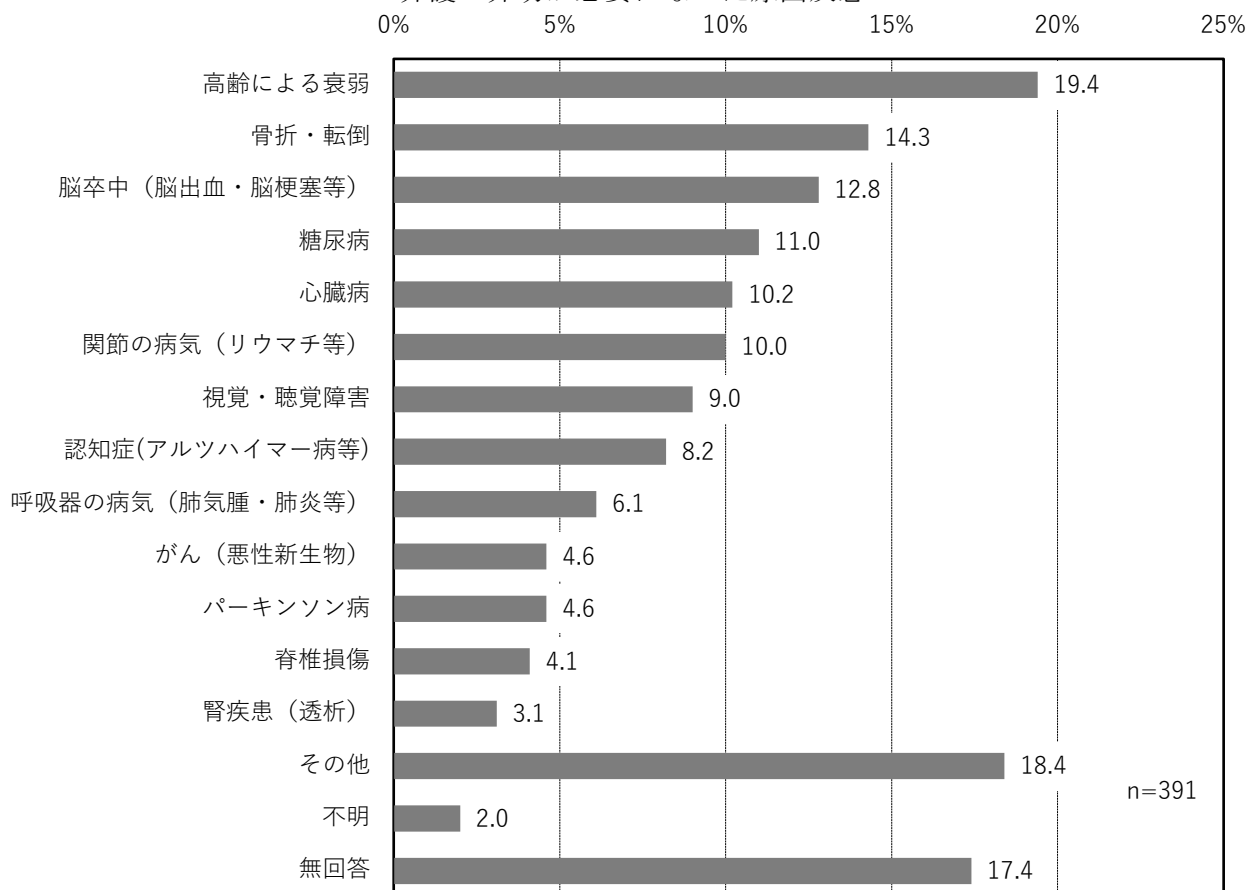
n=2,541

(6) 介護・介助が必要になった原因疾患

介護や介助が必要になった原因疾患として最も多く挙げられていたのは「高齢による衰弱」であり、19.4%となっています。次いで、「骨折・転倒」(14.3%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(12.8%)が続いています。

「骨折・転倒」は、「西部南」(22.8%)、「中部南」(18.5%)、「西部北」(16.1%)が高い一方で、「北部」(5.2%)、「中部北」(9.1%)が低いなど、介護や介助が必要になった原因疾患は圏域による差異がみられます。

介護・介助が必要になった原因疾患



介護・介助が必要になった原因疾患 (性別・年齢別・日常生活圏域別) 単位：%

	合計 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
		高齢による 衰弱	骨折・転倒	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	糖尿病	心臓病	関節の病気 (リウマチ等)	視覚・聴覚 障害	認知症 (アルツハイマー 病等)
全体	391	19.4	14.3	12.8	11.0	10.2	10.0	9.0	8.2
性別	男性	143	17.5	7.0	18.9	10.5	7.0	6.3	9.1
	女性	248	20.6	18.5	9.3	11.3	12.1	12.1	8.5
年齢	65～69歳	49	10.2	2.0	22.4	8.2	4.1	6.1	16.3
	70～74歳	66	9.1	13.6	16.7	13.6	13.6	10.6	6.1
	75～79歳	74	12.2	13.5	14.9	12.2	10.8	8.1	4.1
	80～84歳	82	23.2	15.9	12.2	13.4	9.8	14.6	8.5
	85歳以上	120	30.8	19.2	5.8	8.3	10.8	9.2	10.8
日常生活圏域	北部	58	20.7	5.2	19.0	8.6	10.3	8.6	5.2
	中部北	55	30.9	9.1	14.5	10.9	7.3	5.5	10.9
	中部南	54	5.6	18.5	5.6	9.3	5.6	11.1	7.4
	東部北	63	7.9	14.3	12.7	15.9	9.5	7.9	7.9
	東部南	42	23.8	14.3	14.3	14.3	9.5	11.9	4.8
	西部北	62	24.2	16.1	9.7	4.8	8.1	11.3	16.1
	西部南	57	24.6	22.8	14.0	14.0	21.1	14.0	8.8

(7) 就労、外出の状況

仕事をしている高齢者は、市全体では 16.3%であり、女性（13.0%）よりも男性（20.4%）の方が高くなっています。また、年齢階層が高くなるに従って仕事をしている人の割合が低くなる傾向にありますが、85歳以上の 1.2%が仕事をしています。

外出を比較的多くしている人（週1回以上の外出者）は、市全体では 88.3%となっています。年齢別にみると、84歳までは9割前後の人が週1回以上外出していることが分かります。

買い物をしている人の割合は、市全体では 81.3%となっています。圏域別にみると、「東部南」「西部南」がともに 84.0%で、買い物ができるし、している人の割合が他の日常生活圏域に比べて高い傾向にあります。

就労、外出、買い物の状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	仕事を している人	週1回以上の 外出者	買い物 (できるし、 している)
全体		2,541	16.3	88.3	81.3
性別	男性	1,111	20.4	88.8	77.5
	女性	1,426	13.0	87.9	84.3
年齢	65～69歳	667	29.8	92.4	90.7
	70～74歳	718	19.0	92.3	87.5
	75～79歳	463	11.0	89.0	80.1
	80～84歳	370	5.3	87.0	77.8
	85歳以上	319	1.2	70.9	53.6
日常生活圏域	北部	385	15.0	84.4	82.3
	中部北	357	14.2	88.5	81.8
	中部南	324	13.8	85.5	81.8
	東部北	368	17.4	88.3	76.1
	東部南	381	19.9	92.4	84.0
	西部北	341	15.6	88.6	78.9
	西部南	381	16.7	90.0	84.0

(8) 地域活動への参加

各種地域活動への参加状況を圏域別にみると、「北部」は「ボランティアのグループ」への参加が 9.4%で他の圏域に比べて高くなっています。「東部南」は「収入のある仕事」（19.9%）、「西部南」「中部北」「北部」は「趣味関係のグループ」の参加が高いなど、地域性があります。

地域活動への参加（日常生活圏域別） 単位：%

	合計 (人)	ボランティ アのグルー プ	スポーツ関 係のグルー プやクラブ	趣味関係の グループ	学習・教養 サークル	介護予防の ための通い の場	老人クラブ	町内会・ 自治会	収入のある 仕事
全体	2,541	8.1	16.1	18.6	5.8	5.2	5.1	10.2	16.3
北部	385	9.4	18.2	20.3	4.9	5.5	6.5	10.4	15.1
中部北	357	7.8	17.4	21.0	6.2	5.6	6.2	11.2	14.3
中部南	324	7.7	13.0	15.1	4.6	5.9	4.6	9.6	13.9
東部北	368	7.3	14.1	15.2	6.0	4.1	5.2	13.3	17.4
東部南	381	8.1	17.6	18.9	7.1	3.7	3.7	8.1	19.9
西部北	341	7.9	15.0	17.3	6.7	6.7	4.4	8.8	15.5
西部南	381	8.4	16.8	21.5	5.0	5.5	5.2	9.7	16.8

(9) リスク者割合の比較

リスク者の割合についてみると、市全体では、「社会的役割の低下」が最も高く 61.8%、次いで「知的能動性の低下」の 48.7%となっています。そのほか、「認知機能の低下」と「うつ傾向」がそれぞれ4割弱で比較的高くなっています。日常生活圏域別にみると、「中部南」は「運動機能低下」が 26.5%となっており、市平均（18.7%）と比べて高くなっています。

「中部南」「西部北」「東部北」はそれぞれ「転倒リスク」の割合が3割を超えており、他の圏域に比べてリスク者の割合が高くなっています。「中部南」は閉じこもり傾向にある高齢者の割合も高くなっています。「うつ傾向」（44.1%）、「知的能動性の低下」（55.9%）、「社会的役割の低下」（63.9%）についても、他の圏域に比べて高くなっています。「東部南」は、「運動機能低下」が 13.1%と他の圏域に比べて最も低く、「転倒リスク」（25.5%）、「閉じこもり傾向」（21.0%）、「口腔機能低下」（19.2%）、「うつ傾向」（31.2%）も低くなっています。

リスク者割合の比較（日常生活圏域別） 単位：%

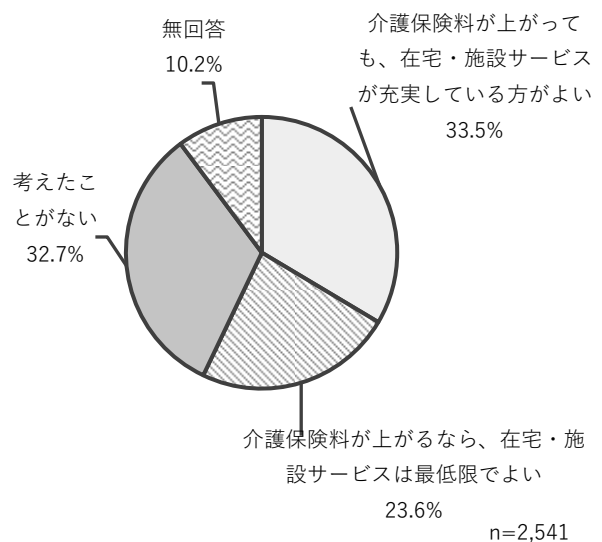
	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
北 部	385	17.7	29.9	23.9	0.5	26.2	39.7	40.5	16.6	46.5	53.5
中部北	357	20.2	28.9	24.1	0.6	24.9	40.9	39.5	18.2	49.0	62.2
中部南	324	26.5	32.1	26.2	0.6	23.8	44.1	38.3	16.4	55.9	63.9
東部北	368	17.1	31.5	24.5	0.8	24.5	35.3	37.0	16.6	48.9	67.7
東部南	381	13.1	25.5	21.0	0.5	19.2	31.2	36.0	16.0	46.5	61.7
西部北	341	20.2	33.7	23.2	1.5	29.0	41.1	42.8	14.7	48.7	62.8
西部南	381	17.8	28.3	24.4	2.4	21.8	38.1	35.2	12.9	46.5	61.4

(10) 介護保険料とサービスの関係についての考え方

介護保険料とサービスの関係について尋ねたところ、「介護保険料が上がっても、在宅・施設サービスが充実している方がよい」と回答した人の割合が最も高く、33.5%となっています。

次いで、「考えたことがない」（32.7%）、「介護保険料が上がるなら、在宅・施設サービスは最低限でよい」（23.6%）と続いています。

介護保険料とサービスについての考え方



Ⅲ. 詳細分析

1. 世帯構成別リスク者等の状況

(1) 全体的な状況

「一人暮らし」と回答した人の割合は24.4%であるものの、男性(20.3%)よりも女性(27.7%)の方が一人暮らしである割合が高くなっています。「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の世帯は全体で32.2%であり、一人暮らし世帯である24.4%と合わせると過半数が高齢者のみ世帯であることが分かります。

「一人暮らし」と回答した人は、日常生活圏域による傾向がみられます。「中部南」は33.0%で最も一人暮らし世帯の割合が高く、次いで、「西部北」(31.1%)も3割を超えています。

「中部南」は「3人以上の同居世帯」の割合が18.2%と他の圏域と比べて低くなっています。

全体的な状況（性別・年齢別・日常生活圏域別） 単位：%

		合計 (人)	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	配偶者以外と 2人暮らし	3人以上の同居世帯	その他	無回答
全体		2,541	24.4	32.2	3.1	8.4	25.3	4.5	2.0
性別	男性	1,111	20.3	35.6	5.0	6.0	28.4	3.0	1.7
	女性	1,426	27.7	29.5	1.8	10.3	22.7	5.7	2.3
年齢	65～69歳	667	24.1	27.0	7.5	9.0	28.2	2.8	1.3
	70～74歳	718	24.1	36.9	1.3	8.6	22.7	4.7	1.7
	75～79歳	463	21.2	38.9	1.7	6.3	25.3	4.3	2.4
	80～84歳	370	28.1	30.3	2.7	7.3	24.9	4.6	2.2
	85歳以上	319	26.3	25.1	0.9	11.3	25.1	7.5	3.8
日常生活圏域	北部	385	22.1	32.7	2.1	8.8	29.1	3.9	1.3
	中部北	357	22.4	32.8	3.9	9.8	25.2	4.2	1.7
	中部南	324	33.0	30.6	2.8	9.6	18.2	4.3	1.5
	東部北	368	20.9	35.3	3.5	7.6	25.0	5.4	2.2
	東部南	381	20.5	36.7	3.1	6.8	27.6	2.6	2.6
	西部北	341	31.1	24.9	3.5	8.2	25.8	4.1	2.3
	西部南	381	22.8	31.5	3.1	8.4	24.7	6.8	2.6

(2) 買い物の状況

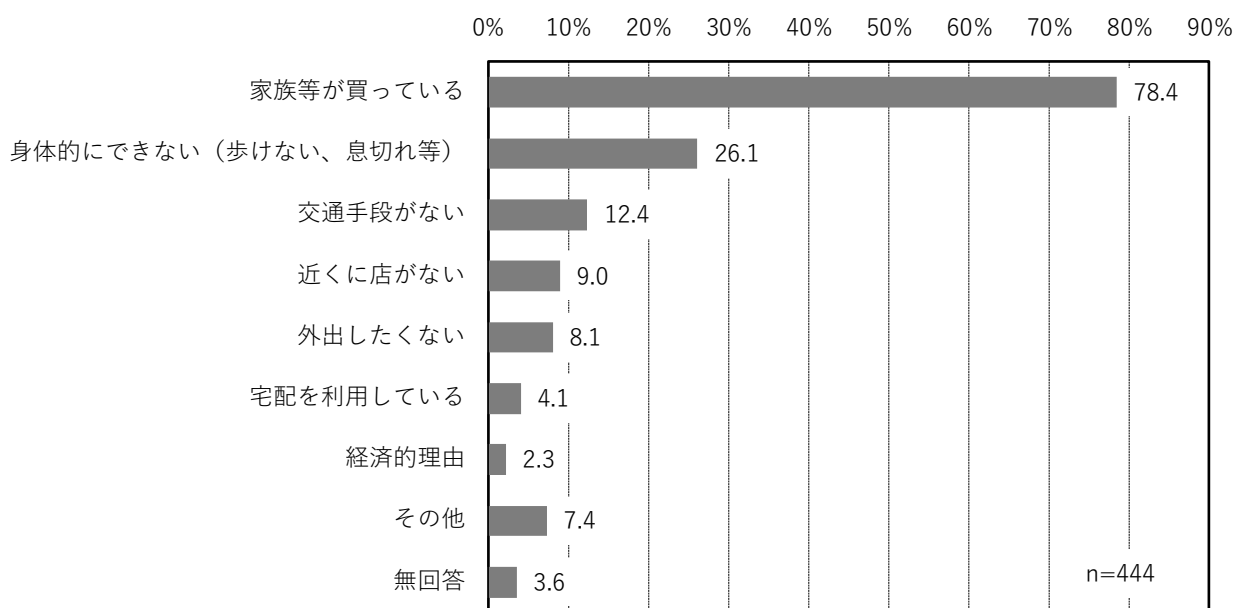
買い物の状況を世帯構成別にみると、「できるけどしていない」と回答した人の割合は「3人以上の同居世帯」が最も高く、15.4%となっています。

「できるけどしていない」と回答した人に、買い物をしない理由を尋ねたところ、「家族等が買っている」を挙げた人が最も多く78.4%となっています。

買い物の状況（家族構成別） 単位：%

	合計 (人)	できるし、 している	できるけど していない	できない	無回答
全体	2,541	81.3	9.6	7.9	1.2
1人暮らし	621	86.2	3.4	9.0	1.4
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	818	81.8	11.5	5.3	1.5
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	80	88.8	8.8	1.3	1.3
配偶者以外と2人暮らし	214	84.1	6.1	8.9	0.9
3人以上の同居世帯	642	76.0	15.4	8.4	0.2
その他	114	71.9	4.4	21.9	1.8

買い物できない理由



(3) 転倒について

「転倒経験あり」という回答を世帯構成別にみると、「1人暮らし」で3割半ばとなっており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

特に、「何度もある」と回答した人の割合は「1人暮らし」で14.0%となっており、他の世帯構成と比べて高くなっています。

転倒について（家族構成別） 単位：%

	合計 (人)	何度もある	1度ある	ない	無回答
全体	2,541	10.4	19.5	68.4	1.8
1人暮らし	621	14.0	21.7	61.8	2.4
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	818	8.3	18.9	71.1	1.6
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	80	3.8	20.0	76.3	0.0
配偶者以外と2人暮らし	214	6.1	22.0	70.6	1.4
3人以上の同居世帯	642	10.6	17.9	69.9	1.6
その他	114	15.8	20.2	64.0	0.0

(4) 地域活動への参加

地域活動への参加状況を世帯構成別にみると、夫婦2人暮らしは他の家族類型に比べて「ボランティアのグループ」への参加割合が高くなっています。

特に、夫婦2人暮らしのうち配偶者が65歳以上の世帯では、「学習・教養サークル」の参加割合が他の世帯よりも高くなっています。

地域活動への参加（家族構成別） 単位：%

	合計 (人)	ボラン ティアの グループ	スポーツ 関係のグ ループや クラブ	趣味関係 のグルー プ	学習・教 養サーク ル	介護予防 のための 通いの場	老人クラ ブ	町内会・ 自治会	収入のあ る仕事
全体	2,541	8.1	16.1	18.6	5.8	5.2	5.1	10.2	16.3
1人暮らし	621	6.9	12.6	15.3	5.0	5.5	3.7	7.9	15.5
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	818	8.6	19.1	21.8	6.8	4.8	4.9	9.8	16.4
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	80	8.8	23.8	18.8	2.5	1.3	1.3	10.0	22.5
配偶者以外と2人暮らし	214	4.7	15.9	15.0	6.1	5.6	5.6	9.8	15.4
3人以上の同居世帯	642	10.1	16.0	19.8	5.8	5.6	6.5	13.4	17.6
その他	114	8.8	13.2	14.9	7.0	7.9	7.9	10.5	14.0

(5) リスク者割合の比較

リスク者割合を世帯構成別にみると、「1人暮らし」では「運動機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」「口腔機能低下」「うつ傾向」「認知機能低下」「知的能動性の低下」の7つの項目においてリスク者割合が最も高くなっています（「その他」を除く）。特に、「社会的役割の低下」は約6割を占めています。

「配偶者以外と2人暮らし」では、「社会的役割の低下」が他の世帯構成よりも高くなっており、7割を超えています。

リスク者割合の比較（世帯別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
1人暮らし	621	25.3	35.7	26.1	1.4	30.6	45.2	40.1	14.7	57.6	64.9
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	818	15.4	27.3	22.9	0.2	22.5	37.9	38.6	13.8	43.8	58.1
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	80	6.3	23.8	11.3	0.0	18.8	28.8	33.8	8.8	50.0	63.8
配偶者以外と2人暮らし	214	19.6	28.0	23.8	2.8	22.4	38.8	39.7	16.4	54.7	70.6
3人以上の同居世帯	642	17.1	28.5	23.2	0.8	20.6	32.6	36.3	18.8	44.1	60.9
その他	114	26.3	36.0	32.5	2.6	29.8	44.7	38.6	25.4	52.6	63.2

2. 歯の健康状況別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

歯の健康状況別にリスク者割合をみると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、自分の歯が19本以下の方は、20本以上の人に比べ、「運動機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」「低栄養の傾向」「口腔機能低下」「うつ傾向」「IADLの低下」「知的能動性の低下」「社会的役割の低下」でリスク者割合が高くなっています。

入れ歯の利用の有無によって明らかな差が生じているのは「認知機能低下」となっています。

リスク者割合の比較（噛み合わせの状況別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
噛み合わせが良い	1,822	14.9	26.0	21.2	0.7	17.1	34.4	34.6	12.9	43.9	58.3
噛み合わせが悪い	606	28.9	42.6	31.2	1.8	45.5	51.8	50.8	24.8	64.0	72.6

リスク者割合の比較（歯の状況別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
自分の歯は20本以上、 かつ入れ歯を利用	337	10.4	26.1	22.0	0.6	17.5	36.5	37.7	12.2	40.1	54.9
自分の歯は20本以上、 入れ歯の利用なし	652	10.4	24.4	18.3	0.6	15.0	37.3	32.7	9.0	41.3	60.6
自分の歯は19本以下、 かつ入れ歯を利用	1,059	23.9	32.9	26.4	1.2	28.2	38.9	42.9	19.5	52.9	61.6
自分の歯は19本以下、 入れ歯の利用なし	363	22.6	34.4	25.3	1.4	34.2	41.0	36.6	20.1	57.6	71.1

3. 社会参加別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合を社会参加別でみると、「介護予防のための通いの場」は、比較的リスク者割合が高くなっています。これは、各リスクが高い人が、より「介護予防のための通いの場」に参加しやすいという特性を示しています。

逆に、「スポーツ関係のグループ」や「収入のある仕事」については、運動機能低下のリスクがある人の割合が低いなど、参加しているグループ等の性質によって参加者の状態が異なる傾向にあります。

リスク者割合の比較（社会参加別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能 低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
ボランティアのグループ	206	6.8	25.7	10.2	1.5	23.3	35.4	38.8	6.3	26.7	41.3
スポーツ関係のグループ やクラブ	408	5.9	20.8	7.4	0.2	17.6	27.9	37.7	6.9	31.6	48.8
趣味関係のグループ	473	9.9	24.7	9.3	0.4	19.9	29.4	38.3	5.1	30.7	44.0
学習・教養サークル	147	13.6	31.3	8.8	0.7	22.4	40.8	45.6	4.8	21.1	34.0
介護予防のための通いの場	133	30.1	33.8	21.8	3.0	30.1	45.9	42.1	24.1	40.6	51.9
老人クラブ	130	12.3	26.2	14.6	1.5	19.2	36.2	39.2	13.1	36.2	42.3
町内会・自治会	259	10.4	27.0	14.3	0.8	22.8	33.2	39.8	10.4	32.4	44.4
収入のある仕事	413	4.1	23.5	7.3	1.0	19.1	35.4	32.0	4.4	42.9	57.1
参加していない	1,228	20.2	29.9	26.0	1.3	25.4	40.6	38.4	19.2	55.8	70.4

4. 幸福度、主観的健康感、生きがいの有無別リスク者の状況

(1) 主観的幸福度別リスク者割合の比較

リスク者割合を幸福度別でみると、幸福度が高いほど、各リスクの割合が低下する傾向にあることが分かります。

特に幸福度が3点以下になると、ほとんどのリスク項目で大幅に割合が高くなっています。

幸福度に最も影響を受けるリスク項目は「うつ傾向」であり、幸福度が「0点(幸福ではない)」である場合は95.0%が「うつ傾向」を示しています。

リスク者割合の比較（幸福度別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
0点 (幸福ではない)	20	30.0	60.0	30.0	0.0	50.0	95.0	60.0	25.0	70.0	90.0
1点～3点 (やや幸福ではない)	132	33.3	49.2	42.4	3.8	44.7	76.5	50.0	23.5	79.5	84.1
4点～6点 (普通)	794	23.0	36.4	29.1	1.4	31.2	54.9	45.0	19.1	56.5	71.2
7点～9点 (やや幸せ)	969	13.4	25.0	17.3	0.4	18.1	30.0	33.4	11.0	41.7	56.4
10点 (とても幸せ)	429	14.2	22.4	21.7	0.7	17.2	20.0	31.0	15.9	39.2	50.6

(2) 主観的健康感別リスク者割合の比較

リスク者割合を主観的健康感別にみると、すべてのリスク項目で主観的健康感が高いほどリスク者の割合が低下しています。

「運動機能低下」では、「とてもよい」と回答した人ではリスク者の割合が5.2%であるのに対して、「よくない」と回答した人のリスク者の割合は61.3%となっています。

リスク者割合の比較（主観的健康感） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
とてもよい	251	5.2	12.0	11.6	0.0	4.4	12.0	19.1	4.4	36.3	49.0
まあよい	1,500	10.7	24.7	17.7	0.3	18.8	32.1	34.4	11.0	43.3	56.9
あまりよくない	561	37.3	47.4	38.7	2.3	41.0	60.6	53.3	27.5	61.1	75.2
よくない	137	61.3	52.6	54.7	5.8	50.4	79.6	56.9	44.5	75.2	85.4

(3) 生きがいの有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を生きがいの有無別でみると、生きがいが無い(「思いつかない」)は、全項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「社会的役割の低下」が77.9%、「知的能動性の低下」は64.3%、「うつ傾向」は50.9%となっています。

リスク者割合の比較（生きがいの有無別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
生きがいあり	1,473	14.5	25.8	19.4	0.7	20.4	33.1	35.1	11.8	41.1	55.6
思いつかない	806	26.9	38.2	32.3	1.5	32.6	50.9	46.3	25.3	64.3	77.9

5. 孤独・孤食の状況別リスク者の状況

(1) 孤独感のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤独感の有無別でみると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が非常に高くなっています。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」で割合が高いです。

リスク者割合の比較（孤独感の有無別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
よく感じる	143	41.3	51.7	45.5	4.2	53.8	91.6	63.6	28.0	73.4	79.7
ときどき感じる	650	26.3	40.2	29.1	1.2	32.3	70.2	48.6	20.5	55.2	66.8
あまり感じない	883	14.9	26.5	22.5	0.8	20.2	29.9	35.9	14.7	46.4	62.1
ほとんど感じない	754	12.9	21.6	17.4	0.4	16.4	15.0	27.5	10.7	41.4	54.8

(2) 孤食のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤食の状況別でみると、「認知機能低下」を除く全ての項目について、だれかと食事をともにする機会が「ほとんどない」と回答した人でリスク者割合が最も高くなっています。

特に「知的能動性の低下」（70.0%）、「社会的役割の低下」（81.8%）のリスク者割合の高さが目立ちます。

リスク者割合の比較（孤食の状況別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
毎日ある	1,188	15.5	25.7	21.2	0.7	21.2	33.6	36.3	16.2	45.2	59.9
週に何度かある	360	20.8	31.7	16.7	0.8	24.7	38.3	37.5	13.9	46.4	55.3
月に何度かある	418	18.2	31.3	23.9	0.5	23.9	39.5	38.8	12.7	45.7	57.4
年に何度かある	223	22.4	32.3	27.8	0.4	27.8	46.2	45.3	15.2	50.7	66.4
ほとんどない	297	26.9	41.8	37.4	3.0	35.4	51.5	43.4	21.2	70.0	81.8

6. BMI別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合をBMI別でみると、「普通体重」が概ね各リスク者の割合が低くなっている傾向があります。肥満度が高くなるに従って概ね各リスク者割合が高くなる傾向にあります（肥満（4度）は基数が少ないため、標本誤差に注意）。

「低体重（やせ型）」は、「普通体重」と比べて多くの項目でリスク者の割合が高くなっています。「低栄養の傾向」のリスク者割合が高いのは当然ですが、「運動機能低下」（27.4%）、「閉じこもり傾向」（35.8%）、「IADLの低下」（26.3%）、「知的能動性の低下」（54.7%）、「社会的役割の低下」（72.6%）の高さが目立ちます。

リスク者割合の比較（BMI別） 単位：%

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
低体重 18.5未満	95	27.4	28.4	35.8	26.3	25.3	35.8	35.8	26.3	54.7	72.6
普通体重 18.5以上25.0未満	1,357	14.6	27.7	22.2	0.0	23.9	38.5	37.0	14.3	46.6	62.5
肥満（1度） 25.0以上30.0未満	764	19.0	31.0	22.1	0.0	23.8	37.7	39.0	13.9	50.7	59.6
肥満（2度） 30.0以上35.0未満	128	33.6	39.1	31.3	0.0	25.8	39.8	40.6	18.0	50.0	64.1
肥満（3度） 35.0以上40.0未満	26	46.2	38.5	38.5	0.0	38.5	57.7	53.8	38.5	53.8	76.9
肥満（4度） 40.0以上	7	57.1	42.9	57.1	0.0	57.1	28.6	28.6	28.6	57.1	28.6

7. 喫煙・飲酒の有無別リスク者の状況

(1) 喫煙の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を喫煙の有無別でみると、「もともと吸っていない」人と「吸っていたがやめた」人ではリスク者の割合に大きな差異はみられません。喫煙の有無・頻度と明確な傾向がみられるのは「知的能動性の低下」であり、「もともと吸っていない」人はリスク者の割合が42.7%であったのが、「ほぼ毎日吸っている」人ではリスク者の割合が77.2%となっています。

リスク者割合の比較（喫煙の有無別） 単位：%

	合計 (人)	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
ほぼ毎日吸っている	219	19.2	36.5	25.6	0.0	33.3	40.2	41.1	21.0	77.2	71.2
時々吸っている	42	21.4	47.6	33.3	2.4	31.0	59.5	31.0	14.3	61.9	71.4
吸っていたがやめた	671	15.1	28.5	23.7	1.3	25.5	39.6	41.4	18.2	52.0	65.7
もともと吸っていない	1,530	20.5	29.5	23.5	1.0	22.2	38.8	36.9	14.2	42.7	58.6

(2) 飲酒の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を飲酒状況別で見ると、「ほとんど飲まない」「もともと飲まない」人は、飲酒者（「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」）よりも、リスク者割合が高くなっています。

リスク者割合の比較（飲酒の有無別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
ほぼ毎日飲む	332	7.5	25.0	14.5	0.6	18.7	29.5	34.9	13.0	50.3	67.5
時々飲む	440	13.2	27.7	20.2	0.9	22.3	38.0	39.5	11.1	45.5	58.2
ほとんど飲まない	637	19.3	32.2	22.8	1.6	26.4	42.1	39.9	17.1	49.8	61.7
もともと飲まない	1,054	24.5	31.7	28.9	0.9	25.1	41.6	37.8	17.7	48.7	61.4

8. 暮らしの状況(経済的)別リスク者等の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合を暮らしの状況（経済的）別にみると、「大変苦しい」や「やや苦しい」と回答した人は、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっています。

特に、「知的能動性の低下」は、「大変ゆとりがある」と回答した人のリスク者割合は25.9%である一方で、「大変苦しい」と回答した人のリスク者割合は70.2%となっています。

リスク者割合の比較（暮らしの状況別） 単位：％

	合計 (人)	運動機能低下	転倒 リスク	閉じこ もり 傾向	低栄養 の傾向	口腔機 能低下	うつ 傾向	認知機 能低下	IADL の低下	知的能 動性の 低下	社会的 役割の 低下
全体	2,541	18.7	29.9	23.8	1.0	24.2	38.4	38.4	15.9	48.7	61.8
大変苦しい	225	30.2	39.1	35.6	2.2	44.0	53.8	44.4	25.8	70.2	74.2
やや苦しい	706	23.9	38.2	27.9	0.8	30.7	44.8	42.2	17.0	59.2	66.7
ふつう	1,383	15.4	25.1	21.0	0.9	19.1	33.6	36.0	13.7	41.5	58.1
ややゆとりがある	139	15.1	24.5	18.0	1.4	12.9	30.2	35.3	15.8	34.5	59.7
大変ゆとりがある	27	0.0	33.3	14.8	0.0	14.8	29.6	29.6	11.1	25.9	48.1

IV. 分析のまとめ

まとめ1. 身体機能リスク全般について

- ・本調査では、高齢者の身体機能の低下リスク（以下、身体機能リスクという）について、「運動器の機能の低下」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「低栄養の傾向」、「口腔機能の低下」、「うつ傾向」、「認知機能の低下」、「IADLの低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」の項目で把握した。
- ・リスク者の割合についてみると、「社会的役割の低下」が最も高く 61.8%、次いで「知的能動性の低下」の 48.7%となっている。そのほか、「認知機能の低下」と「うつ傾向」がそれぞれ4割弱で比較的高い。日常生活圏域別にみると、「中部南」は「運動機能低下」が 26.5%となっており、市平均（18.7%）と比べて高い。
- ・後期高齢者になると、各種身体機能リスクの割合が高くなっていく。特に80歳以上で急増する傾向が見られる。
- ・女性では「運動器の機能の低下」、「閉じこもり傾向」の項目における身体機能リスクの割合が男性より顕著に高い傾向にある。男性では、「知的能動性の低下」（情報を得る等）、「社会的役割の低下」（他人と交流する等）、「IADLの低下」（手段的日常生活動作＝料理、洗濯など）における身体機能リスクの割合が女性より高い傾向にある。
- ・「認知機能の低下」は、男女とも同程度の身体機能リスクの割合となっている。

- 高齢者の身体機能リスクを見ると、「運動機能の低下」や「転倒リスク」といった“筋力低下”よりも、「社会的役割の低下」「知的能動性の低下」「認知機能の低下」「うつ傾向」といったリスクの方が高くなる傾向が見られる。フレイル予防（心と体の働きが弱くなってきた状態（虚弱）の予防）の取組においては、この点を踏まえた事業展開が必要である。
- 性別・年代別で身体機能リスクの項目に特徴が見られるため、性別や年代別でフレイル予防のメニューを検討するなどの工夫が必要である。

まとめ2. 「一人暮らし」と「配偶者以外と2人暮らし」について

- ・高齢者の家族構成を見ると、最も多いのは「夫婦2人暮らし（配偶者が65歳以上）」の 32.2%となっているが、「一人暮らし」が 24.4%と、約4分の1を占めている。
- ・「一人暮らし」と回答した人は、圏域別では、「中部南」が 33.0%で最も高く、次いで、「西部北」（31.1%）も3割を超えている。
- ・身体機能リスクとの関係を見ると、「一人暮らし」では、身体機能リスクの多くの項目でリスク割合が高くなる傾向が見られる。また、「配偶者以外と2人暮らし」では、「社会的役割の低下」が他の家族構成よりも高いほか、「知的能動性の低下」、「IADLの低下」、「閉じこもり」などでは、「一人暮らし」に次いでリスクが高い傾向がみられる。

- 「1人暮らし高齢者」とともに「配偶者以外と2人暮らし」の世帯の高齢者が、身体機能リスクの各項目でリスク割合が高くなる傾向がみられる。
- 「1人暮らし高齢者」は言うまでもなく、「配偶者以外と2人暮らし」の世帯の高齢者等、家庭環境によって支援を要する高齢者の把握が必要である。

まとめ3. 主観的幸福感、主観的健康感、孤独感、生きがい

(主観的幸福感)

- ・主観的幸福感を見ると、全体では「10点(とても幸せ)」は16.9%である。男性では「5点(普通)」と感じる者が多く、女性では「10点(とても幸せ)」や9点、8点と感じる者が多い。幸福感は、全般的に女性の方が男性より高い傾向が見られる。
- ・年齢別に見ると、「10点(とても幸せ)」は年齢が上がると高くなる傾向にある。65歳～69歳では1割半ばであるが、85歳以上では2割半ばに上がっている。
- ・身体機能リスクの割合を幸福度別で見ると、「0点(幸福でない)」では、ほぼ全ての項目でリスク割合が高い。特に「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」、「うつ傾向」は、8割を超えている。「10点(とても幸せ)」のリスク割合は低く、「0点(幸福でない)」との差は顕著である。

(主観的健康感)

- ・健康状態について尋ねたところ、健康状態が良い(「とてもよい」「まあよい)」という回答は約7割を占める。
- ・身体機能リスクの割合を主観的健康感別で見ると、健康ではない(「あまりよくない」「よくない)」と回答した者では、全項目でリスクの割合が最も高くなっており、「社会的役割の低下」が8割強、「知的能動性の低下」、「うつ傾向」は7割強に及んでいる。

(孤独感)

- ・高齢者のうち、“孤独感あり”の割合は約3割あり、家族構成別にみると、「1人暮らし」では48.6%を占める。
- ・身体機能リスクの割合を孤独感の有無別で見ると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスクの割合が非常に高くなっている。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」で割合が高い。

(生きがい)

- ・生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいあり」は58%、「思いつかない」が31.4%であり、生きがいのある高齢者が大半を占めている。
- ・身体機能リスクの割合を生きがいの有無別で見ると、生きがいがない(「思いつかない」)は、

身体機能リスクの全項目でリスクの割合が高い。特に、「社会的役割の低下」が77.9%、「知的能動性の低下」は64.3%、「うつ傾向」は50.9%となっている。

- 幸福と感じる人は健康感が高く、孤独感が低い。反対に不幸と感じる人では健康感が低く、孤独感が高いという傾向が見られる。
- 幸福感や健康感が低いと身体機能リスクも高い傾向があり、さらに孤独感が高いと身体機能リスクも高い傾向にある。
- 生きがいがない（思いつかない）高齢者は、身体機能リスクが全項目で高い。
- 幸せな暮らしにおいては、健康であると感じること、孤独ではないこと、生きがいを持っていることが関連している。
- 高齢者の幸福感を高めるための「健康づくり」「集いの場づくり」「生きがいづくり」の取組を推進する必要がある。

まとめ4. 歯の健康

- ・口腔ケアの状況を見ると「毎日歯磨きをしている人」は87.9%、「入れ歯の手入れを毎日している人」は85.9%を占めており、「歯のかみ合わせが良い」は71.7%となっている。
- ・歯の健康状況別に身体機能リスクの割合を見ると、「かみ合わせが悪い」人では全ての身体機能リスク項目で「かみ合わせが良い」人よりリスクの割合が高い。
- ・入れ歯や歯の本数との関係を見ると、自分の歯が19本以下の人は、20本以上の人に比べ、多くの身体機能リスクにおいて、でリスク者割合が高い。

- 歯のかみ合わせが悪いと身体機能リスクの全項目において、リスクを抱える状況があることや、自分の歯が19本以下でも身体機能リスクを抱える割合が高いことが見て取れる。歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえる。
- 歯の健康を維持するための事業・施策を検討する必要がある。

まとめ5. BMI

- ・リスク者割合をBMI別で見ると、「普通体重」が概ね各リスク者の割合が低い傾向にある。肥満度が高くなるに従って概ね各リスク者割合が高くなる傾向にある。
- ・身体機能リスクの割合をBMI別で見ると、「低体重(やせ型)」は「普通」「肥満」と比べ、全項目でリスク割合が最も高い。特に、「社会的役割の低下」は約7割、「知的能動性の低下」が約5割半ば高い。

- BMIと身体機能リスクとの関係では、「低体重（やせ型）」はすべての項目で身体機能リスクの割合が高い。また、重度の肥満では、運動器機能低下のリスクの割合が高くなっている。
- 健康管理とともに体重管理から健康の保持を行っていくことが身体機能リスクの低減につながると考えられる。
- 体重管理を重点においた健康づくりの推進を検討する必要がある。

まとめ6. 経済的負担感を抱える人

- ・高齢者の中では、経済的な面で「苦しい」と回答した人が36.8%と4割近くを占め、経済的な負担を感じている人も多いことがわかる。
- ・経済的負担感を抱える人では、ほぼ全ての項目で身体機能リスクの割合が高くなっている。「知的能動性の低下」や「社会的役割の低下」は、「大変苦しい」と回答した人のリスク者割合が7割を占める。

- 経済的負担感を抱えている高齢者では身体機能リスクの割合が高い。特に「知的能動性の低下」や「社会的役割の低下」で高い。
- 経済的負担感を抱える高齢者へは、経済的支援だけでなく、心と身体への支援（生きがいづくり、介護予防、医療的ケアが必要であり、どのようにアプローチしていくか検討する必要がある。

まとめ7. 社会参加

- ・地域活動など社会参加については、「参加していない」が非常に高く、各社会参加活動共に3割を超えている。全般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めている。
- ・比較的参加されているものとしては、「趣味関係のグループ」、「収入のある仕事」、「スポーツ関係のグループやクラブ」となっているが、参加率は高齢者のうち2割未満にとどまっている。
- ・リスク割合を社会参加別で見ると、「スポーツ関係のグループ」や「収入のある仕事」については、運動機能低下のリスクがある人の割合が低いなど、参加しているグループ等の性質によって参加者の状態が異なる傾向にある。

- 地域活動など社会参加については、「参加していない」が非常に高い。「趣味関係のグループ」、「収入のある仕事」、「スポーツ関係のグループやクラブ」への参加がみられるが、2割に満たない。

- 「スポーツ関係のグループ」や「収入のある仕事」については、運動機能低下のリスクがある人の割合が低い。
- 地域活動への参加は、生きがいや介護予防において有効であると言われているが、参加率が低いほか、コロナ禍では外出控えも見られた。そういった中でも高齢者の就労率は上がっている。収入や人材の確保の観点だけではなく、「生きがい」「孤立の解消」と言った面からも高齢者の就労機会を確保し、社会参加を促進することも必要である。

まとめ8. 最期の迎え方（終活）

- ・最期を迎えたい場所は、「自宅」が42.9%で最も高く、「病院」が14.4%となっている。
- ・「人生会議」を「知らない、聞いたこともない」という回答は54.4%、「エンディングノート」を「知らない、聞いたこともない」が36.8%と、人生会議のほうが周知度は低い。エンディングノートを持っている割合は僅か5.8%であった。

- 人生の最期を迎えるにあたって、「人生会議」や「エンディングノート」の周知度を確認したが、周知度は低い。本調査は介護を必要としない高齢者が主な対象者であり、虚弱な高齢者が少ないこともあり、まだ考えていないという人が多いと見られる。最期の迎え方（終活）については、個人の意向を尊重すべきものであるが、必要と考えている高齢者に周知・広報が行き届くようにすることは重要である。

まとめ9. 携帯電話

- ・携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等を所持している高齢者は80.7%であった。利用しているアプリでは、「LINE（ライン）」の51.2%が最も高く、「Eメール」が31.3%、「You Tube（ユーチューブ）」が20.2%となっている。

- 携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等を所持している高齢者が大半を占めているが、アプリの利用はLINE（ライン）のほかは利用率が低くとどまっている。今後、ICTを活用した情報発信、リモートでの交流・相談など、幅広い展開が可能性としてあるが、ICTの活用を検討する上では、高齢者のスマートフォン等の操作方法習得も必要となる。

まとめ 10. 新型コロナウイルス感染症の影響

- ・新型コロナウイルス感染症による悪影響としては、「家族や親族とのつながり」や「友人・知人とのつながり」がそれぞれ 38%前後であり、身近な人との交流機会での大きな影響があったことがわかる。

- コロナ禍においては、高齢者も家族・親族・友人・知人との交流機会での大きな影響を受けているが、「孤立状態・孤食状態にある」、「生きがいが無い」場合には身体機能リスクが高まる傾向が見られるため、つながりの機会づくりは必要である。

V. 自由回答のまとめ

1. 自由回答の概要

本調査には自由記述欄を設け、日頃困っていることや意見・要望などを自由に記載していただきました。回収した2,541票のうち、466票から582件もの自由意見が寄せられています。

自由回答では、一人ひとりの高齢者が抱える生活課題や経済面での不安など日頃の状況をつぶさに記入されているものが多くなっています。高齢者の課題は各人がおかれた状況に応じて千差万別であり、その意味では、高齢者一人ひとりにそれぞれ異なる課題があると言えます。

従って、本報告書では、本市民から寄せられた意見を原則として無編集で掲載しています。

2. 市民から寄せられた声の分類・集計

市民から寄せられた意見は類似点も多いことから、寄せられた意見を分類し、高齢者の関心の高い分野を分析しました。

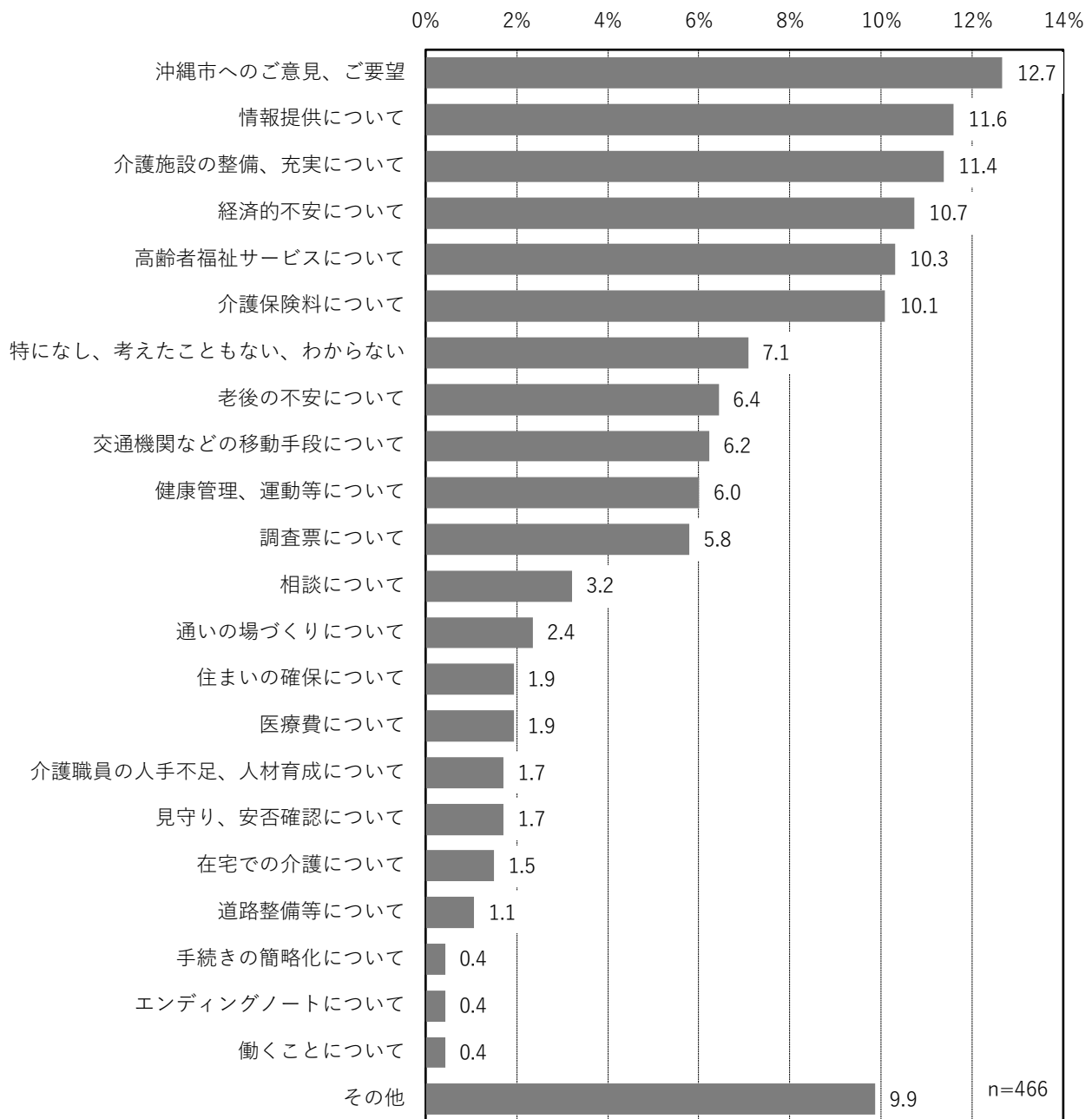
自由意見をカテゴリー分けしてみると、第1位は「沖縄市へのご意見、ご要望」の12.7%であり、様々な市に対するご要望、意見の他、感謝の気持ち等の声がありました。

第2位は「情報提供について」が11.6%であり、複雑化する介護保険サービスに関することや不慣れたSNSを通じた情報提供のありかたなどの意見がありました。

その他、「介護施設の整備、充実について」や「経済的不安について」等の意見が多く挙げられています。

西部南は「介護施設の整備、充実について」が最も多く挙げられており、中部北、東部南は「経済的不安について」が最も多く挙げられています。また、西部北、東部北では「情報提供について」が、中部南では「介護保険料について」が最も多く挙げられるなど、高齢者の居住地によっても多少の傾向がみられます。

自由回答



自由回答上位 5 位 単位：%

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
西部南 (n=82)	介護施設の整備、充実 について	特になし、考えたこと もない、わからない	老後の不安について	沖縄市へのご意見、ご 要望	情報提供について
	13.4	12.2	11.0	9.8	9.8
西部北 (n=58)	情報提供について	高齢者福祉サービスに ついて	沖縄市へのご意見、ご 要望	介護保険料について	健康管理、運動等につ いて
	12.1	12.1	10.3	10.3	10.3
中部南 (n=52)	介護保険料について	沖縄市へのご意見、ご 要望	高齢者福祉サービスに ついて	老後の不安について	経済的不安について
	17.3	15.4	13.5	11.5	9.6
中部北 (n=70)	経済的不安について	沖縄市へのご意見、ご 要望	介護施設の整備、充実 について	情報提供について	介護保険料について
	12.9	11.4	11.4	8.6	8.6
東部南 (n=61)	経済的不安について	介護保険料について	沖縄市へのご意見、ご 要望	情報提供について	高齢者福祉サービスに ついて
	16.4	16.4	13.1	13.1	13.1
東部北 (n=66)	情報提供について	介護施設の整備、充実 について	高齢者福祉サービスに ついて	調査票について	沖縄市へのご意見、ご 要望
	21.2	18.2	10.6	10.6	9.1
北部 (n=77)	沖縄市へのご意見、ご 要望	介護施設の整備、充実 について	経済的不安について	情報提供について	高齢者福祉サービスに ついて
	19.5	13.0	13.0	10.4	10.4
沖縄市 (n=466)	沖縄市へのご意見、ご 要望	情報提供について	介護施設の整備、充実 について	経済的不安について	高齢者福祉サービスに ついて
	12.7	11.6	11.4	10.7	10.3

自由回答 単位：%

	合計 (人)	沖縄市へのご意見、ご要望	情報提供について	介護施設の整備、充実について	経済的不安について	高齢者福祉サービスについて	介護保険料について	特になし、考えたこともない、わからない	老後の不安について
西部南	82	9.8	9.8	13.4	8.5	7.3	4.9	12.2	11.0
西部北	58	10.3	12.1	3.4	6.9	12.1	10.3	6.9	6.9
中部南	52	15.4	5.8	7.7	9.6	13.5	17.3	9.6	11.5
中部北	70	11.4	8.6	11.4	12.9	7.1	8.6	8.6	2.9
東部南	61	13.1	13.1	9.8	16.4	13.1	16.4	4.9	6.6
東部北	66	9.1	21.2	18.2	7.6	10.6	9.1	0.0	6.1
北部	77	19.5	10.4	13.0	13.0	10.4	7.8	6.5	1.3
総計	466	12.7	11.6	11.4	10.7	10.3	10.1	7.1	6.4

	合計 (人)	交通機関などの移動手段について	健康管理、運動等について	調査票について	相談について	通いの場づくりについて	住まいの確保について	医療費について	介護職員の人手不足、人材育成について
西部南	82	6.1	2.4	7.3	6.1	1.2	4.9	0.0	2.4
西部北	58	5.2	10.3	6.9	5.2	3.4	0.0	1.7	1.7
中部南	52	1.9	5.8	1.9	0.0	1.9	0.0	1.9	1.9
中部北	70	5.7	4.3	4.3	0.0	2.9	0.0	4.3	1.4
東部南	61	3.3	6.6	4.9	1.6	3.3	3.3	3.3	3.3
東部北	66	9.1	7.6	10.6	6.1	3.0	1.5	0.0	0.0
北部	77	10.4	6.5	3.9	2.6	1.3	2.6	2.6	1.3
総計	466	6.2	6.0	5.8	3.2	2.4	1.9	1.9	1.7

	合計 (人)	見守り、安否確認について	在宅での介護について	道路整備等について	手続きの簡略化について	エンディングノートについて	働くことについて	その他
西部南	82	3.7	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5
西部北	58	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.1
中部南	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.2
中部北	70	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	14.3
東部南	61	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	8.2
東部北	66	3.0	3.0	1.5	1.5	0.0	1.5	3.0
北部	77	2.6	3.9	3.9	0.0	2.6	0.0	5.2
総計	466	1.7	1.5	1.1	0.4	0.4	0.4	9.9